

平成 27 年度  
(2015)

# 病 院 年 報

市 立 敦 賀 病 院

## 病 院 理 念

市立敦賀病院は、地域の医療をささえ、  
信頼され、温もりのある病院をめざします。

## 基 本 方 針

- ・ 嶺南の中核病院として、地域の医療施設との連携を  
深め、地域の医療の発展に努めます。
- ・ 患者さん中心の心のかよう医療を行います。
- ・ 患者さんにやさしい、開かれた病院をつくります。
- ・ 質の高い効率的な医療をわかりやすく提供します。
- ・ やりがいと誇りをもった職員を育成し、チーム医療  
を推進します。

## はじめに

敦賀市病院事業管理者 米島 學

この度、平成27年度の市立敦賀病院年報を発刊するはこびとなりました。

市立敦賀病院は、福井県嶺南地域の中核病院であり、敦賀市を中心とした嶺南地域の方々の病気を治療し健康管理に寄与するための病院であります。

国は、医療、福祉、介護の一体改革である「地域包括ケアシステム」の構築を目指しており、地域全体で患者さんをサポートする体制の整備が求められております。

これに対応すべく、当院は、これまでの急性期医療を維持しつつ、地域の医療ニーズに即した病院運営を目指すため、第2次中期経営計画を策定し平成26年度から取り組み始めました。

診療体制としましては、平成26年度診療報酬改定に伴い新たに制度化された「地域包括ケア病棟」について、平成26年10月から本館7階病棟を当該病棟として運用を開始し、平成27年10月には本館6階病棟も地域包括ケア病棟に変更しました。急性期病床での治療後の回復期の患者さんの在宅復帰に繋がっています。これらの取り組みの結果、平成28年6月には平成28年度自治体立優良病院会長表彰を頂きました。

医師確保につきましては、平成26年4月から総合診療医を目指す医師が常勤となり、総合診療センターを立ち上げました。また、引き続き基幹型臨床研修病院の指定をいただき、新たに5名の初期研修医を迎え、合わせて8名が指導医のもと日々研鑽を積んでおります。

医療制度改革により、自治体病院を取り巻く環境は大変厳しくなっておりますが、こういう時こそ患者さん中心の医療を続けることが大切であると考えております。健やかで豊かな地域社会実現に貢献するため、職員一同、さらなる努力を行ってまいります。

最後に、指導医の派遣に御尽力をいただいております大学及び県医療行政各位に心から感謝申し上げますとともに、今後とも皆様方の御指導と御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年2月



# 目 次

## I 病院の沿革及び現況

1	病院の沿革	1
2	病院の概要	3
3	施設の概要	5
4	設備の概要	5
5	組織図	7
6	職員の現況	8
7	入院部屋数	9
8	経営の概要	10
9	経営分析	11
10	委員会等	13

## II 決算概要

1	収益的収入及び支出	19
2	資本的収入及び支出	21
3	貸借対照表	21
4	診療行為別診療収入の状況	22
5	診療科別診療収入の状況	23

## III 各部署の活動状況

1	診療部	27
2	医療安全管理室	28
3	感染制御センター	30
4	医療支援部	31
	(1) 医療・福祉相談支援室	31
	(2) 地域医療連携室	31
5	医療技術部	34
	(1) 検査室	34
	(2) 放射線室	35
	(3) リハビリテーション室	36
	(4) 臨床工学技術室	37
	(5) 栄養管理室	38
6	薬剤部	40
7	看護部	42
8	事務局	43

(1) 総務企画課	43
(2) 医療サービス課	44

#### IV 業務の概要

1 患者の状況	45
(1) 入院・外来別患者数	45
(2) 患者数の推移	45
(3) 診療科別患者数	46
(4) 市町村別患者数	47
(5) 月別患者数	48
(6) 救急患者の取扱状況	50
(7) 患者搬送の状況	53
2 人間ドックの状況	54
3 中央手術室業務の状況	55
4 種類別麻酔件数	55
5 内視鏡検査件数	55
6 周産期医療の状況	56
7 薬剤室業務の状況	57
(1) 調剤業務の状況	57
(2) 服薬指導の状況	57
(3) 注射剤調製の状況	57
(4) 後発医薬品採用率	57
8 人工透析の状況	57
9 放射線科(室)の状況	58
(1) 撮影の状況	58
(2) フィルム及びCD/DVDの使用状況	58
(3) 血管撮影検査の状況	58
(4) MR I検査の状況	58
(5) CT検査の状況	58
(6) 核医学検査の状況	59
(7) 放射線治療の状況	59
(8) マンモグラフィーの状況	60
(9) 骨密度検査の状況	60
(10) エコー検査の状況	60
(11) 透視検査の状況	60
10 臨床検査の状況	61
(1) 各種検査件数	61
(2) 生理機能検査件数	61

(3) 血液製剤使用量	62
11 リハビリテーションの状況	62
12 患者給食及び栄養指導の状況	63
13 死亡患者数及び病理解剖件数	63
14 医療福祉相談の状況	64
(1) 医療相談の状況	64
(2) 病院に対するご要望の状況	64
(3) 入院説明・案内の状況	64
(4) ボランティアの活動状況	64
15 地域医療連携の状況	64
(1) 紹介及び逆紹介の状況	64
(2) 開放型病床の状況	65
(3) 亜急性期病床等の状況	65
(4) 退院支援の状況	65
(5) 地域連携パスの状況	65
(6) ふくいメディカルネット運用件数	65
16 医療安全の状況	65
(1) インシデント・アクシデントレポートの提出状況	65
17 院内がん登録の状況	66
(1) 部位別院内がん登録の状況	66
(2) 経緯別院内がん登録の状況	67
18 救急蘇生災害医療部会（災害部門）の活動状況	68
19 救急蘇生災害医療部会（救急部門）の活動状況	69
20 DMA Tの活動状況	70
21 感染対策の状況	72
22 TQM委員会の活動状況	75

## V DPCの概要

1 DPC係数の状況	77
2 DPC/PDPSにおけるMDC 2桁分類	78

## VI 固定資産状況

1 有形固定資産の取得状況	79
2 主要医療機器の設置状況	79
3 企業債・減価償却の状況	80
(1) 企業債の年度別状況	80
(2) 減価償却額の年度別状況	80

## **VII 研究業績**

1	診療部	81
2	医療安全管理室	89
3	感染制御センター	89
4	医療支援部	90
5	医療技術部	90
6	薬剤部	97
7	看護部	98
8	臨床病理検討会	100

## **VIII 看護部実績**

1	師長会活動報告	105
2	教育委員会活動報告	105
3	実習指導者会活動報告	108
4	褥瘡委員会活動報告	109
5	記録監査委員会活動報告	110
6	看護業務委員会活動報告	111
7	認定看護師活動報告	112
8	教育研修実績	115
	(1) 講師の実績	115
	(2) 院外研修実績	117

## **IX 臨床研修プログラム概要**

平成25年度市立敦賀病院臨床研修プログラム概要と実績	121
----------------------------	-----

## **参考資料**

○ 市立敦賀病院中期経営計画概要	125
○ 市立敦賀病院の患者権利章典	129
○ 市立敦賀病院職業倫理規定	131
○ 医療事故防止のための8カ条	132



# I 病院の沿革及び現況



## 1 病院の沿革

明治15年 2月	県立敦賀病院開設
明治24年 4月	郡制施行に伴い郡立敦賀病院に改称
大正12年 4月	郡制廃止により敦賀郡町村組合立病院に改称
昭和18年 4月	日本医療団へ現物出資
昭和24年 2月	病院開設許可（昭和24年2月1日 福井県指令医第462号）
昭和24年 4月	日本医療団より全施設組合に返還
昭和30年 1月	町村合併により市立敦賀病院に改称
昭和38年 3月	2ヵ年度継続事業で病院本館、鉄筋コンクリート造・4階建 全面改築（4,487㎡）完成（一般172床、伝病20床、結核40床）
昭和44年10月	2ヵ年度継続事業で救急診療棟、鉄筋コンクリート造・4階建 増設（2,190㎡）完成（一般232床、伝病25床、結核40床）
昭和48年 4月	医師住宅1号棟、鉄筋コンクリート造・2階建（7戸）完成
昭和49年 4月	医師住宅2号棟、鉄筋コンクリート造・2階建（8戸）完成
昭和54年 5月	木造病棟を取り壊し、中央診療棟（放射線部門・手術部門病棟） 鉄筋コンクリート造・4階建増改築（3,223㎡①）完成 （一般276床、伝病25床、結核28床）
昭和62年10月	3ヵ年度継続事業で本館診療棟、鉄筋コンクリート造・7階建 増改築（12,068㎡②）完成（合計床面積 18,454㎡） （一般276床、伝病25床）
平成元年10月	神経科精神科（外来）開設
平成 5年 4月	循環器科・消化器科・麻酔科開設
平成 6年10月	3ヵ年度継続事業で東診療棟、救急診療棟、鉄筋コンクリート造 5階建増改築（6,486㎡③）完成 （東病棟…完成・同年4月、運用開始・同年6月） （合計床面積①②③ 21,777㎡）（一般348床、伝病10床）
平成 7年 1月	土曜閉院完全実施
平成 7年12月	3ヵ年度継続事業で電算情報トータルシステム整備完了
平成 9年 3月	医師住宅及び駐車場敷地購入（3,906.06㎡）
平成10年11月	医師住宅新築工事竣工 鉄筋コンクリート造・5階建（2,520.96㎡） 妻帯用12戸、単身用8戸
平成11年 1月	旧医師住宅解体
平成11年 4月	第二種感染症指定医療機関に指定（一般348床、感染症2床）
平成12年 3月	立体駐車場完成 鉄骨造2階建（4,273.18㎡）（253台収容）
平成14年 9月	神経内科開設
平成15年 9月	第3次整備建設着工（平成15年度～平成18年度継続事業）
平成15年10月	財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43号取得
平成15年11月	厚生労働省管理型臨床研修病院指定 第030944号
平成17年 3月	第3次整備建設工事のうち北診療棟（7,815㎡）完成
平成18年 7月	リハビリテーション科開設
平成18年10月	病床数変更（一般373床、感染症2床）
平成18年12月	第3次整備建設工事完成
平成20年10月	財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43-2号取得（更新）

平成20年12月	中期経営計画策定（第1次）
平成21年 1月	電子カルテ導入
平成21年 5月	病床数変更（一般330床、感染症2床）
平成22年 4月	給食業務全面委託開始
平成23年 2月	DMA T隊編成
平成23年 4月	D P C請求病院開始
平成23年 6月	福井DMA T指定病院
平成23年 7月	DMA T隊第2班編成
平成23年10月	救急科開設
平成24年 7月	リハビリ棟耐震補強工事完成（全棟耐震化完了）
平成24年 8月	院内保育所開設
平成25年10月	公益財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43-3号取得（更新）
平成26年 2月	第2次中期経営計画策定
平成26年 3月	医薬品S P D導入
平成26年10月	地域包括ケア病棟開設（1病棟35床体制）
平成27年10月	原子力災害対策施設整備工事完成
平成27年10月	地域包括ケア病棟増設（2病棟71床体制）

## 2 病院の概要（平成28年4月1日現在）

- 名 称 市立敦賀病院（昭和24年2月1日 福井県指令医第462号）
- 所在地 福井県敦賀市三島町1丁目6番60号
- 開設者 敦賀市 敦賀市長 淵上隆信
- 管理者 敦賀市病院事業管理者 米島 學
- 院長 米島 學
- 敷地面積 17,965.18 m<sup>2</sup>
- 建物延面積 30,091.96 m<sup>2</sup>
- 診療科目 内科、神経内科、消化器科、循環器科・心臓血管外科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、神経科精神科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科口腔外科、救急科 計19科
- 特殊診療部門 救急医療、人工透析、生活習慣病健診、人間ドック
- 許可病床数 一般病床 330床・感染症病床 2床 計332床
- 保険診療 看護基準（10：1）  
基準寝具／有
- 施設基準（基本診療料）  
歯科外来診療環境体制加算  
一般病棟入院基本料（10対1）（看護必要度加算2有）  
臨床研修病院入院診療加算  
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算  
超急性期脳卒中加算、妊産婦緊急搬送入院加算  
診療録管理体制加算1、医師事務作業補助体制加算1（25対1）  
急性期看護補助体制加算（25対1）、療養環境加算  
重症者等療養環境特別加算、栄養サポートチーム加算  
医療安全対策加算1、患者サポート充実加算  
感染防止対策加算1（感染防止対策地域連携加算有）  
ハイリスク妊娠管理加算、退院支援加算1、  
総合評価加算、データ提出加算2、小児入院医療管理料4  
地域包括ケア病棟入院料1、ハイケアユニット入院医療管理料1  
  
（特掲診療料）  
高度難聴指導管理料、糖尿病合併症管理料  
がん性疼痛緩和指導管理料、糖尿病透析予防指導管理料  
がん患者指導管理料1、がん患者指導管理料2  
夜間休日救急搬送医学管理料、ニコチン依存症管理料  
開放型病院共同指導料（Ⅱ）、ハイリスク妊産婦共同管理料（Ⅰ）

薬剤管理指導料、センチネルリンパ節生検（単独）、  
 乳がんセンチネルリンパ節加算 2  
 肝炎インターフェロン治療計画料、医療機器安全管理料 1  
 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料  
 H P V 核酸検出及び H P V 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）  
 検体検査管理加算（Ⅱ）、造血器腫瘍遺伝子検査、植込型心電図検査  
 時間内歩行試験、ヘッドアップティルト試験、神経学的検査  
 コンタクトレンズ検査料 1、小児食物アレルギー負荷検査  
 内服・点滴誘発試験、画像診断管理加算 2  
 C T 撮影及び M R I 撮影、大腸 C T 撮影加算、冠動脈 C T 撮影加算  
 心臓 M R I 撮影加算、抗悪性腫瘍剤処方管理加算  
 外来化学療法加算 2、無菌製剤処理料  
 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算有）  
 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算有）  
 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算有）  
 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算有）  
 がん患者リハビリテーション料、透析液水質確保加算 1  
 経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈ステント留置術  
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術  
 植込型心電図計移植術及び植込型心電図記録計摘出術  
 大動脈バルーンパンピング法（Ⅰ A B P 法）  
 体外衝撃波胆石破砕術、体外衝撃波腎・尿管結石破砕術  
 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6（歯科点数表第 2 章第  
 9 部の通則 4 を含む。）に掲げる手術、麻酔管理料（Ⅰ）  
 輸血管管理料Ⅱ、人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算  
 歯科治療総合医療管理料、クラウン・ブリッジ維持管理料

（入院時食事療養及び入院時生活療養の食事の提供たる療養の基準）

入院時食事療養（Ⅰ）

（保険外併用療養費）

特別の療養環境の提供、病院（200 床以上）の初診

## ○ 診 療 指 定

保険医療機関、労災保険指定医療機関、国保療養取扱機関  
 指定自立支援医療機関（更生医療・育成医療・精神通院医療）  
 身体障害者福祉法指定医の配置されている医療機関  
 生活保護法指定医療機関、児童福祉法指定療育育成機関  
 結核指定医療機関、指定養育医療機関、災害拠点病院  
 原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関、公害医療機関  
 第二種感染症指定医療機関、原子力災害医療協力機関  
 母体保護法指定医の配置されている医療機関  
 救急告示病院、第二次救急病院群輪番制病院  
 エイズ治療拠点病院、特定疾患治療研究事業委託医療機関  
 指定療育機関、小児慢性特定疾患治療研究事業委託医療機関  
 地域周産期母子医療センター、洋上救急協力機関  
 労働者災害補償保険法に基づくアフターケア指定医療機関  
 D P C 指定病院、日本赤十字常備救護班

- 研修等施設指定 日本内科学会教育病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設  
日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会指導施設  
日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本呼吸器学会認定施設  
日本整形外科学会研修施設  
日本脳神経外科学会専門医制度関連施設  
日本泌尿器科学会専門医教育施設  
日本外科学会外科専門医制度修練施設、マンモグラフィ検診施設  
日本眼科学会専門医制度研修施設  
日本周産期・新生児医学会暫定研修施設（補完研修施設）  
日本麻酔科学会麻酔科認定病院、日本臨床細胞学会施設  
日本皮膚科学会認定専門医研修施設  
日本静脈経腸栄養学会・NST（栄養サポートチーム）稼働施設  
日本医療機能評価機構認定病院、基幹型臨床研修病院  
日本透析医学会教育関連施設、腹部ステントグラフト実施施設  
日本がん治療認定医機構認定研修施設  
日本カプセル内視鏡学会指導施設、日本救急医学会専門指導医施設  
日本脳卒中学会認定研修教育施設、福井DMA T指定病院  
日本口腔外科学会認定准研修施設

### 3 施設の概要

敷地面積	17,965.18 m <sup>2</sup>
建物延面積	30,091.96 m <sup>2</sup>
	本館診療棟 12,067.92 m <sup>2</sup>
	中央診療棟 3,223.29 m <sup>2</sup>
	東診療棟 6,486.02 m <sup>2</sup>
	北診療棟 8,314.73 m <sup>2</sup>
	計 30,091.96 m <sup>2</sup>

### 4 設備の概要

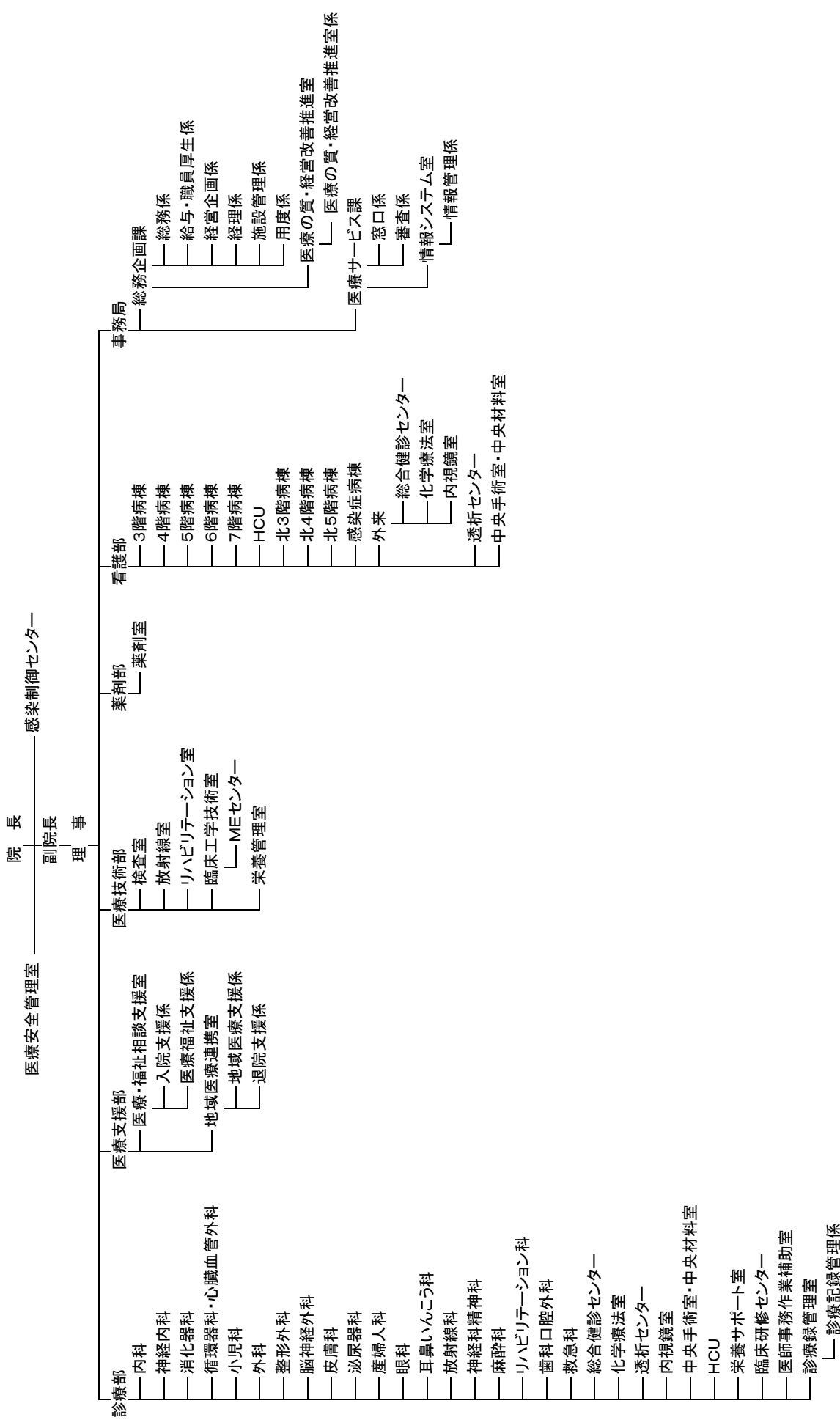
受変電	設備容量：6,500KVA 契約電力：1,150KW 受電電圧：6,600V（2系統受電）
非常用電源設備	発電機容量：625KVA×2・200KVA×2
無停電電源装置	50KVA×4
太陽光発電設備	太陽電池アレイ×90 最大出力10KW
弱電設備	構内電話・コードレス電話設備 インターホン設備 ナースコール設備 電気時計設備 TV共聴設備
消防設備	自動火災報知設備 排煙設備 誘導灯 スプリンクラー設備 非常放送設備 非常通報設備 屋内消火栓設備
熱源設備	炉筒煙管蒸気ボイラー：1.5t/h 2基 貫流蒸気ボイラー：0.75t/h 2基 スチームアキュムレーター：30 m <sup>2</sup> 1基
空調設備	吸収式冷温水機：5基（330RT×2・240RT×1・50RT×2） 水冷チラーユニット：1基 エアーハンドリング空調機

	ガスエンジンヒートポンプマルチエアコン
	電気式ヒートポンプマルチエアコン ファンコイルユニット
給水設備	受水槽：SUSパネル 55t×2 SUSパネル 25t×2
	高架水槽：SUSパネル 16t×2 SUSパネル 7t×1
	雑水高架水槽：SUSパネル 13t×2 SUSパネル 7t×1
排水設備	一般排水系統 RI排水系統 特殊排水系統
給湯設備	貯湯槽：SUS4.5t×2 SUS3.0t×2
浄化槽設備	RI処理槽
医療ガス設備	液体酸素設備 圧縮空気供給設備 亜酸化窒素供給設備
	窒素供給設備 吸引設備
昇降機設備	寝台用エレベーター：10基 一般エレベーター：2基
	ダムウォーター：2基
搬送設備	気送管設備：85φ14ST1系統・15φ4ST1系統



5 組織図 (平成28年4月1日現在)

平成28年4月1日



## 6 職員の現況

年度末現在 単位：人

	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	合計	臨時嘱託 (再掲)	合計	臨時嘱託 (再掲)	合計	臨時嘱託 (再掲)
医師	51	9	55	11	51	7
薬剤師	11		11		10	
診療放射線技師	13		14		14	
臨床検査技師	14	2	15		16	
臨床工学技士	7	1	5		5	
理学療法士	9		10		13	
作業療法士	5		6		5	
マッサージ師	1		1			
言語聴覚士	3		4		3	
歯科衛生士	3	1	4	1	4	1
栄養士	3		4		4	
保健師	3		5		3	
助産師	17		17		18	
看護師	203	5	214	3	226	3
准看護師	15	3	14	3	14	4
事務職員	26	8	23	5	22	4
電気技師	2		2		2	
施設管理員	1	1	1	1	1	1
事務員	10	8	18	13	20	14
看護補助者	22	22	17	17	20	20
医師事務作業補助者	5	5	7	7	7	7
合計	424	65	447	61	458	61

7 入院部屋数（平成28年4月1日現在）

	本館3階		本館4階	本館5階	本館6階	本館7階		北館2階	北館3階			北館4階	北館5階	合計
		ドック					無菌室		HCU		小児入院			
特室	(1) 1		(1) 1		(1) 1				(1) 1			(1) 1		(5) 5
1人部屋	(6) 6	(6) 6	(5) 5	(9) 9	(5) 5	(4) 4	(1) 1		(2) 2	(6) 6	(2) 2	(8) 8	(6) 6	(60) 60
重症1人部屋								(4) 4	(2) 2					(6) 6
2人部屋	(2) 1		(4) 2	(4) 2	(4) 2	(6) 3		(2) 1						(18) 9
重症2人部屋	(2) 1		(2) 1	(2) 1	(2) 1							(2) 1		(10) 5
4人部屋	(32) 8		(32) 8	(20) 5	(24) 6	(24) 6			(32) 8	(4) 1		(36) 9	(24) 6	(228) 57
5人部屋													(5) 1	(5) 1
合計	(43) 17	(6) 6	(40) 15	(35) 17	(36) 15	(34) 13	(1) 1	(6) 5	(37) 13	(10) 7	(2) 2	(47) 19	(35) 13	(332) 143

上段：病床数（ ）

下段：病室数

## 8 経営の概要

年度	収益的収支 (単位：千円)		純損益		資本的収支 (単位：千円)			一般会計繰入金 (単位：千円)			医業収支比率 医業収入 医業費用 (単位：%)	職員給与 職員給与費 医業収入 (単位：%)	年度末 職員数 (臨時嘱 託再掲) (単位：人)	病床 利用率 (単位：%)	病床数 (単位：床)
	収入	支出	純損益	収入	支出	差引	収益勘定	資本勘定	合計						
										収入					
21	6,620,285	6,825,777	△ 205,492	359,693	359,693	0	671,568	355,388	1,026,956	86.0	60.6	(47) 412	82.5	332	
22	7,041,383	6,866,295	175,088	397,185	397,185	0	501,157	386,795	887,952	92.5	52.5	(44) 398	86.5	332	
23	7,145,386	7,117,485	27,901	627,549	713,004	△ 85,455	487,679	354,008	841,687	91.5	54.4	(57) 419	81.2	332	
24	7,591,393	7,526,684	64,709	377,624	876,556	△ 498,932	634,442	264,978	899,420	95.2	51.9	(52) 424	85.8	332	
25	7,369,227	7,282,485	86,742	342,618	705,979	△ 363,361	633,747	258,817	892,564	94.1	53.2	(65) 424	82.0	332	
26	7,572,989	7,493,034	79,955	406,186	1,235,195	△ 829,009	615,612	269,489	885,101	89.9	58.4	(61) 447	78.1	332	
27	7,707,144	7,455,378	251,766	639,612	1,122,653	△ 483,041	609,739	281,245	890,984	91.9	56.1	(61) 458	78.0	332	

## 9 経営分析

分析項目	算出	単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
1日当り患者数	入院	人	365日 287	366日 269	365日 284	365日 272	365日 259	366日 259
	外来	人	243日 727	244日 726	245日 731	244日 726	244日 718	243日 699
	合計	人	1,014	995	1,015	998	977	958
医師1人1日当り患者数	入院	人	5.63	4.65	5.16	5.33	4.71	5.08
	外来	人	14.25	12.52	13.29	14.24	13.04	13.71
	合計	人	19.88	17.17	18.45	19.57	17.75	18.79
医療収支対前年度比率	医療収益の対前年度比	%	109.00	103.27	106.25	96.22	99.74	103.43
	医療費用の対前年度比	%	101.40	104.27	102.17	97.34	104.45	101.17
患者1人1日当り診療収入	入院	円	36,578	39,959	40,594	39,742	41,596	41,202
	外来	円	10,128	10,404	10,810	11,097	11,344	13,039

分析項目	算出	単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
給 与 費	給 与 費 医業収益	%	52.46	54.44	51.86	53.15	58.42	56.10
	薬 品 費	%	17.14	15.35	14.68	14.41	14.23	17.49
材 料 費	診療材料費	%	11.36	11.68	13.37	11.06	10.08	8.15
	給食材料費	%	0.16	0.15	0.17	0.17	0.16	0.14
	医療消耗 備 品 費	%	0.04	0.04	0.11	0.08	0.11	0.12
	小 計	%	28.70	27.22	28.33	25.72	24.58	25.90
	経 費	%	22.13	22.78	20.66	23.39	18.14	16.38
減価償却費	減価償却費 医業収益	%	4.20	3.80	3.46	3.38	9.47	9.64
	資産減耗費	%	0.03	0.27	0.13	0.00	0.07	0.27
研究研修費	研究研修費 医業収益	%	0.61	0.68	0.55	0.59	0.57	0.52
合 計	医業費用 医業収益	%	108.14	109.19	105.00	106.23	111.25	108.81
医業収益に対する医業費用の割合								

## 10 委員会等（平成28年4月1日現在）

委員会等	所掌する事項	構成職種	委員長等	事務局	開催頻度	備考
部長会	1 病院運営の基本方針に関する事 2 重要な施策に関する事 3 企画推進に関する事	全職種	院長	総務企画課	月1回	
管理運営・診療委員会	1 病院管理運営上の基本方針策定及び審議に関する事 2 診療業務の検討及び連絡に関する事	全職種	院長	総務企画課	月1回	
医療の質・経営改善推進委員会	1 医療の質の改善に関する事 2 経営状況の情報収集、分析に関する事	薬剤師、看護師、検査技師、事務職員	医療の質・経営改善推進室長	総務企画課	週1回	
医療安全対策委員会	医療事故の防止及び対策に関する事	全職種	医療支援部長	医療安全管理室	月1回	医療法施行規則
リスクマネジメント部会	1 インシデント事例の原因分析及び予防策の立案に関する事 2 医療安全に関する広報・研修・教育等に関する事	全職種	医療支援部長	医療安全管理室	月1回	
救急蘇生災害医療部会	災害医療及び心肺蘇生法の普及とその意識向上に関する事	全職種	科部長	総務企画課 医療サービス課	月1回	
病棟管理委員会	病棟の適正な入院環境の運営に関する事	医師、看護師、管理栄養士、事務職員	科部長	医療サービス課	月1回	
院内感染対策委員会	1 感染症の院内感染予防対策に関する事 2 MRSAによる院内感染予防対策に関する事	全職種	科部長	総務企画課	月1回	医療法施行規則
CS・ES委員会	患者満足度及び職員満足度に関する総合的な取組みに関する事	全職種	科部長	総務企画課	月1回	
褥瘡・NST委員会	1 褥瘡と合併する感染予防の実施、監視及び指導に関する事 2 NSTに関する事	全職種	科部長	総務企画課 栄養管理室	随時	入院基本料等
栄養管理委員会	給食に係るサービス改善等に関する事	医師、管理栄養士、看護師、事務職員	副院長	栄養管理室	月1回	
栄養サポート部会	栄養サポートに関する事	全職種	科部長	栄養管理室 医療サービス課	月1回	
褥瘡サポート部会	1 感染褥瘡源の調査に関する事 2 褥瘡サポートに関する事	全職種	医長	総務企画課	月1回	
電子カルテ委員会	1 医療情報トータルシステムの整備推進に関する事 2 入院患者のカルテ管理に関する事 3 病歴管理に関する事	全職種	副院長	医療サービス課	月1回	診療録管理体制加算
認知症サポート委員会	1 認知症ケアに関する事	全職種	医長	総務企画課	月1回	認知症ケア加算

委員会等	所掌する事項	構成職種	委員長等	事務局	開催頻度	備考
クリティカルパス委員会	1 診療の質の適正化に伴う標準的な治療計画の作成に関すること 2 治療計画の説明により、患者の満足度の向上に関すること 3 その他適正な医療プログラム作成に関すること	医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師、保健師、事務職員	副院長	医療サービス課	月1回	
薬事委員会 (後発薬剤採用検討委員会)	1 新規採用薬品に関すること 2 採用薬品の統合整理に関すること 3 院内で使用する後発薬剤採用に係る調査検討に関すること 4 その他薬事に関すること	医師、薬剤師、看護師、事務職員	科部長	総務企画課	月1回	
診療材料委員会	1 新規採用診療材料に関すること 2 診療材料の統合整理に関すること 3 その他診療材料に関すること	医師、臨床検査技師、放射線技師、看護師、事務職員	科部長	総務企画課	月1回	
倫理委員会	医療職員の高い資質の高揚及び医の倫理に関すること	医師、薬剤師、看護師、事務職員	院長	総務企画課	随時	
がん診療連携拠点病院推進委員会	1 拠点病院の指定に必要な企画立案に関すること 2 その他拠点病院の指定に関し必要なこと	医師、薬剤師、看護師、事務職員	理事	総務企画課、医療サービス課	随時	
緩和ケア委員会	緩和ケアに関すること	全職種	理事	医療・福祉相談支援室	随時	
TQM委員会	1 病院職員の資質向上に関すること 2 職種間の連携交流に関すること	全職種	医長	総務企画課	月1回	
治験審査委員会	医薬品の臨床試験の実施に関すること	医師、薬剤師、看護師、事務職員	科部長	総務企画課	随時	薬事法施行規則
HCU運営委員会	HCUの円滑・適正な管理運営に関すること	全職種	科部長	総務企画課	随時	
DPC委員会	DPCに関すること	医師、薬剤師、看護師、作業療法士、放射線技師	院長	医療サービス課	随時	
手術部会委員会	手術業務に関すること	医師、看護師、事務職員	科部長	総務企画課	随時	
血液製剤管理委員会	輸血用血液製剤の取扱いに関すること	全職種	副院長	総務企画課	随時	輸血管理料
地域医療連携室運営委員会	1 病診連携業務体制の整備に関すること 2 開放型病床設置における業務体制整備に関すること 3 地域医療機関からの要望の対応に関すること	全職種	科部長	地域医療連携室	年2回	
臨床研修管理委員会	臨床研修プログラムに関すること	医師、看護師、事務職員	院長	総務企画課	随時	厚生労働省令



委員会等	所掌する事項	構成職種	委員長等	事務局	開催頻度	備考
図書委員会	図書の整備と有効活用に関すること	医師、臨床検査技師、看護師、事務職員	理事	総務企画課	随時	
防災対策委員会 (災害対策本部)	1 消防計画に関すること 2 その他防火に関すること	医師、看護師、理学療法士、放射線技師、薬剤師、事務職員	院長	総務企画課	随時	市立敦賀病院防火管理規程
医療ガス安全委員会	1 医療ガス設備に係る保守点検に関すること 2 医療ガスに係る知識の普及と啓発に関すること	医師、看護師、薬剤師、事務職員	科部長	総務企画課	年1回	厚生労働省通知
労働安全衛生委員会	1 院内衛生上の改善に関すること 2 職員の健康に関すること (健康診断、保持増進の指導等)	医師、言語聴覚士、放射線技師、薬剤師、看護師、事務職員	事務局長	総務企画課	月1回	労働安全衛生法
透析センター運営委員会	透析業務及び透析センターの管理運営に関すること	医師、臨床工学技士、看護師、事務職員	科部長	総務企画課	随時	
MEセンター運営委員会	MEセンター業務及びME機器の効果的な管理運営に関すること	医師、臨床工学技士、看護師、事務職員	副院長	総務企画課	随時	
病院年報編集委員会	病院年報の編集に関すること	医師、放射線技師、看護師、事務職員	院長	総務企画課	随時	
医療器械購入機種選定委員会	医療機器の選定に関すること	医師、臨床検査技師、看護師、事務職員	院長	総務企画課	随時	
化学療法委員会	化学療法に関すること	医師、臨床検査技師、薬剤師、看護師、事務職員	理事	総務企画課	随時	
検体検査適正化委員会	検体検査の適正化に関すること	医師、臨床検査技師、看護師、事務職員	科部長	総務企画課	随時	検体検査管理加算
放射線安全委員会	放射線障害の防止に関すること	医師、放射線技師、看護師、事務職員	副院長	総務企画課	随時	放射線障害予防規程
救急室・外来運営委員会	救急室、外来の運営に関すること	全職種	理事	総務企画課	随時	
糖尿病診療委員会	糖尿病診療の充実化を図ること	全職種	医長	医療サービス課	随時	
医師負担軽減対策委員会	1 勤務医の勤務状況の把握に関すること 2 各業種の役割分担に関すること 3 医師事務作業補助者の配置等に関すること 4 その他勤務医の負担軽減に関すること	医師、看護師、事務職員	科部長	総務企画課	随時	各種施設基準
広報委員会	1 広報にかかる年次計画の企画立案と情報の発信に関すること 2 病院フェスタの開催、運営に関すること 3 ホームページの充実、更新に関すること	全職種	科部長	総務企画課	月1回	

委員会等	所掌する事項	構成職種	委員長等	事務局	開催頻度	備考
教育研修委員会	教育研修に関する事	全職種	副院長	総務企画課	随時	
機能評価推進委員会	機能評価の受診と推進に関する事	全職種	副院長	総務企画課	随時	
医局会	1 病院運営上の診療に関する事 2 医療の知識・技術の向上に関する事 3 医師相互の連絡調整に関する事	医師、薬剤師	医局長	診療部	月1回	

(看護部内委員会等)

委員会等	所掌する事項	開催頻度
看護師長会	病院運営の下部組織会議としての役割を果たし、看護部の管理運営の円滑化を図るため、ならびに、看護の質や専門性を高めるための諸問題を協議すること	月2回
教育委員会	看護実践者としての資質を有する看護師の育成、専門的知識を現場で活かすための教育の企画・運営を行うこと	月1回
看護記録委員会	看護過程の展開が効率的に正確に記載された看護記録であるための監査・修正・周知を行うこと	月1回
看護業務委員会	患者の安全と看護業務の質を確保するために、業務の標準化と統一を行うとともに、定期的に見直すこと	月1回
感染リンクナース会	感染対策委員会の決定事項を推進し、感染に対する問題点の抽出及び対策を検討するとともに、感染意識・知識の向上を図ること	月1回
褥瘡チーム会	褥瘡サポート部会と連携し、患者の褥瘡を予防する看護、褥瘡を悪化をさせない看護の実践を行うこと	月2回



## Ⅱ 決算概要



# 1 収益的收入及び支出

収入

単位：千円

	25年度		26年度		27年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
<b>病院事業収益</b>	7,369,227	97.1	7,631,425	103.6	7,707,144	101.0
医業収益	6,282,538	96.2	6,265,922	99.7	6,481,139	103.4
入院収益	3,949,540	93.6	3,935,688	99.6	3,904,278	99.2
外来収益	1,966,734	101.5	1,985,907	101.0	2,216,182	111.6
その他医業収益	366,264	98.7	344,327	94.0	360,679	104.7
医業外収益	1,083,183	102.3	1,303,565	120.3	1,223,435	93.9
受取利息	440	139.7	331	75.2	437	132.0
他会計負担金	630,241	99.9	612,110	97.1	607,169	99.2
補助金	361,461	98.7	327,596	90.6	235,107	71.8
財産収益	8,595	102.0	9,258	107.7	8,370	90.4
基金繰入金	21,259	97.1	21,792	102.5	19,144	87.8
患者外給食収益	199	62.0	243	122.1	325	133.7
院内保育収益	2,153	390.0	3,350	155.6	3,774	112.7
長期前受金戻入	—	—	304,631	皆増	317,912	104.4
その他医業外収益	58,835	196.0	24,254	41.2	31,197	128.6
附帯事業収益	3,506	98.6	3,502	99.9	2,570	73.4
他会計負担金	3,506	98.6	3,502	99.9	2,570	73.4
特別利益	—	—	58,436	皆増	0	皆減
その他特別利益	—	—	58,436	皆増	0	皆減

支出

単位：千円

	25年度		26年度		27年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
<b>病院事業費用</b>	7,282,485	96.8	7,551,470	103.7	7,455,377	98.7
医業費用	6,673,906	97.3	6,970,773	104.4	7,052,115	101.2
給与費	3,339,166	98.6	3,660,676	109.6	3,636,203	99.3
給料	1,194,092	97.9	1,267,839	106.2	1,279,551	100.9
手当等	1,142,235	103.1	1,032,727	90.4	1,029,091	99.6
賞与引当金繰入額	—	—	161,709	皆増	161,711	100.0
退職給与金	121,801	72.6	—	—	—	—
退職給付費	—	—	260,125	皆増	257,746	99.1
賃金	454,122	102.0	477,926	105.2	425,118	89.0
法定福利費	426,916	95.9	437,667	102.5	458,560	104.8
法定福利費引当金繰入額	—	—	22,683	皆増	24,426	107.7
材料費	1,615,840	87.3	1,540,471	95.3	1,678,410	109.0
薬品費	905,130	94.4	891,779	98.5	1,133,381	127.1
診療材料費	694,923	79.6	631,666	90.9	528,161	83.6
給食材料費	10,919	98.7	9,875	90.4	8,863	89.8
医療消耗備品費	4,868	64.8	7,151	146.9	8,005	111.9
経費	1,469,560	108.9	1,136,563	77.3	1,061,522	93.4
厚生福利費	1,236	90.5	1,192	96.4	1,103	92.5
報償費	3,928	2014.4	245	6.2	1,295	528.6
旅費	9,330	104.8	10,201	109.3	9,786	95.9
職員被服費	881	110.7	1,566	177.8	846	54.0
消耗品費	36,009	111.4	30,845	85.7	35,231	114.2
消耗備品費	4,324	132.5	2,624	60.7	9,233	351.9
光熱水費	88,992	103.7	89,917	101.0	87,851	97.7
燃料費	64,178	111.6	62,805	97.9	45,802	72.9
食糧費	85	65.4	158	185.9	112	70.9
印刷製本費	2,434	94.6	3,080	126.5	3,019	98.0
修繕費	118,237	182.8	98,022	82.9	65,044	66.4

保険料	21,405	101.2	18,583	86.8	15,870	85.4
賃借料	406,503	100.3	108,434	26.7	89,106	82.2
通信運搬費	9,069	104.4	8,213	90.6	7,697	93.7
委託料	694,181	107.0	689,305	99.3	679,577	98.6
交際費	44	91.7	11	25.0	20	181.8
公課費	40	125.0	40	100.0	51	127.5
諸会費	1,221	99.6	2,974	243.6	2,871	96.5
雑費	7,463	122.4	8,348	111.9	7,008	83.9
減価償却費	212,275	93.9	593,359	279.5	624,894	105.3
建物減価償却費	196,358	100.3	320,218	163.1	322,955	100.9
構築物減価償却費	1,950	100.0	1,876	96.2	1,783	95.0
器械備品減価償却費	13,967	49.3	83,141	595.3	109,743	132.0
リース資産減価償却費	—	—	188,124	皆増	153,813	81.8
無形固定資産減価償却費	—	—	—	—	36,600	皆増
資産減耗費	148	1.7	4,118	2782.4	17,704	429.9
固定資産除却費	148	1.7	4,118	2782.4	17,704	429.9
研究研修費	36,917	102.9	35,586	96.4	33,382	93.8
謝金	491	52.7	565	115.1	506	89.6
図書費	3,939	106.6	5,031	127.7	4,979	99.0
旅費	15,049	102.6	14,251	94.7	11,166	78.4
消耗品費	9,762	120.9	7,462	76.4	8,790	117.8
消耗備品費	0	0.0	1,394	皆増	0	皆減
印刷製本費	156	100.0	156	100.0	156	100.0
委託料	540	67.1	674	124.8	342	50.7
負担金	6,886	111.6	5,865	85.2	7,128	121.5
雑費	94	56.0	188	200.0	315	167.6
医業外費用	587,934	90.4	365,811	62.2	371,785	101.6
支払利息	145,802	92.3	133,088	91.3	118,113	88.7
企業債利息	144,392	91.4	129,915	90.0	116,345	89.6
他会計借入金利息	1,400	皆増	1,120	80.0	840	75.0
企業債取扱手数料	10	皆増	0	皆減	0	0.0
リース利息	—	—	2,053	皆増	928	45.2
繰延勘定償却	4,773	16.4	—	—	—	—
長期前払消費税償却	—	—	5,306	皆増	11,288	212.7
患者外給食委託料	254	70.6	276	108.7	367	133.0
院内保育費	18,880	209.4	20,322	107.6	21,003	103.4
消耗品費	119	96.0	159	133.6	245	154.1
消耗備品費	0	0.0	0	0.0	0	0.0
保険料	3	150.0	3	100.0	3	100.0
委託料	18,758	236.2	20,160	107.5	20,755	103.0
基金積立金	250,536	83.5	1,371	0.5	1,376	100.4
雑支出	148,689	96.7	205,448	138.2	219,638	106.9
賠償金	19,000	皆増	0	皆減	0	0.0
特別損失	17,312	101.6	211,812	1223.5	29,170	13.8
過年度損益修正損	17,312	101.6	21,673	125.2	297	1.4
その他特別損失	—	—	190,139	皆増	28,873	15.2
附帯事業費用	3,333	98.6	3,074	92.2	2,307	75.0
看護学校実習病院経費	3,333	98.6	3,074	92.2	2,307	75.0
旅費	354	153.2	512	144.6	537	104.9
消耗品費	1,641	103.8	1,392	84.8	1,100	79.0
消耗備品費	447	97.2	400	89.5	196	49.0
印刷製本費	200	53.9	202	101.0	205	101.5
図書費	619	100.0	462	74.6	247	53.5
負担金	72	60.5	106	147.2	22	20.8



## 2 資本的収入及び支出

単位：千円

	25年度		26年度		27年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
資本的収入	342,618	90.7	727,985	212.5	639,612	87.9
一般会計繰入金	258,817	97.7	269,488	104.1	281,245	104.4
国・県補助金	83,651	74.3	131,897	157.7	245,167	185.9
投資返戻金	150	皆増	4,800	3200.0	1,400	29.2
企業債			321,800		111,800	34.7
資本的支出	705,979	80.5	1,235,195	175.0	1,122,653	90.9
企業債償還金	458,245	109.6	401,704	87.7	415,857	103.5
建物整備費	0	皆減	23,832	皆増	225,069	944.4
資産購入費	85,884	73.0	415,498	483.8	122,188	29.4
リース資産購入費			221,311	皆増	175,739	79.4
基金組入金					1,400	
長期借入金償還金	140,000	皆増	140,000	100.0	140,000	100.0
投資	21,850	皆増	32,850	150.3	42,400	129.1

## 3 貸借対照表

(資産の部)

単位：千円

	25年度		26年度		27年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
固定資産	14,047,199	99.2	8,646,683	61.6	8,462,604	97.9
有形固定資産	14,025,499	99.1	8,383,569	59.8	8,164,931	97.4
土地	665,676	100.0	665,676	100.0	665,676	100.0
建物	13,200,392	100.0	13,200,392	100.0	13,430,856	101.7
建物減価償却累計額	△ 2,664,079	108.0	△ 6,585,143	247.2	△ 6,908,099	104.9
構築物	141,621	100.0	141,621	100.0	141,621	100.0
構築物減価償却累計額	△ 64,978	103.1	△ 131,454	202.3	△ 133,237	101.4
器械備品	4,547,373	101.8	4,894,989	107.6	5,221,291	106.7
器械備品減価償却累計額	△ 1,800,896	100.6	△ 4,204,094	233.4	△ 4,528,682	107.7
車両	6,648	100.0	6,648	100.0	6,648	100.0
車両減価償却累計額	△ 6,258	100.0	△ 6,258	100.0	△ 6,315	100.9
リース資産			1,074,135		747,413	94.5
リース資産減価償却累計額			△ 695,263		△ 472,241	67.9
建設仮勘定	0	—	22,320	皆増	0	皆減
無形固定資産	—	—	183,000	皆増	173,000	69.6
ソフトウェア	—	—	183,000	皆増	173,000	94.5
投資その他の資産	21,700	皆増	80,114	369.2	124,673	155.6
長期貸付金	21,700	皆増	41,150	189.6	74,250	180.4
貸倒引当金			△ 5,050		△ 7,450	147.5
長期前払消費税			44,014		57,873	131.5
流動資産	2,764,262	100.6	2,807,294	101.6	3,026,895	107.8
現金預金	1,062,199	106.4	1,178,234	110.9	1,269,970	107.8
未収金	1,678,531	97.0	1,606,251	95.7	1,734,253	108.0
貯蔵品	23,532	124.3	22,809	96.9	22,672	99.4
繰延勘定	18,432	95.5	—	—	—	—
資産合計	16,811,461	99.4	11,453,977	68.1	11,489,499	100.3

(負債の部)

固定負債	1,197,110	101.6	5,470,715	457.0	5,047,572	92.3
企業債			4,337,712		3,938,713	90.8
他会計借入金	560,000	80.0	280,000	50.0	140,000	50.0
リース債務			137,441		133,234	96.9
引当金	637,110	156.2	715,562	112.3	835,625	116.8
流動負債	650,078	81.0	1,505,665	231.6	1,505,361	100.0
企業債			415,857		510,799	122.8
他会計借入金			140,000		140,000	100.0
リース債務			172,543		110,938	64.3
未払金	629,898	80.6	571,778	90.8	534,252	93.4
引当金			184,392		186,137	100.9
その他流動負債	20,180	97.1	21,095	104.5	23,235	110.1
繰延収益			3,267,570		3,415,145	104.5
長期前受金			9,359,376		9,768,584	104.4
長期前受金収益化累計額			△ 6,091,806		△ 6,353,439	104.3
負債合計	1,847,188	93.3	10,243,950	554.6	9,968,078	97.3

(資本の部)

資本金	7,266,534	94.9	2,433,060	33.5	2,433,060	100.0
剰余金	7,716,171	105.9	△ 1,223,033	-15.9	△ 911,639	74.5
資本剰余金	9,156,959	103.9	12,136	0.1	71,764	591.3
利益剰余金	△ 1,440,788	—	△ 1,235,169	85.7	△ 983,403	79.6
資本合計	14,982,705	100.3	1,210,027	8.1	1,521,421	125.7

負債・資本合計	16,829,893	99.5	11,453,977	68.1	11,489,499	100.3
---------	------------	------	------------	------	------------	-------

#### 4 診療行為別診療収入の状況

単位：千円

	平成25年度			平成26年度			平成27年度				
	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比		
入院	基本診療料	2,670,336	67.6	94.2	2,742,336	69.7	102.7	2,871,745	73.6	104.7	
	検査料	57,316	1.5	94.1	49,166	1.2	85.8	45,378	1.1	92.3	
	画像診断	21,043	0.5	97.7	18,839	0.5	89.5	16,257	0.4	86.3	
	投薬	46,547	1.2	91.3	41,051	1.0	88.2	42,833	1.1	104.3	
	注射	45,356	1.1	86.9	32,072	0.8	70.7	38,834	1.0	121.1	
	理学療法	148,861	3.8	103.6	144,065	3.7	96.8	122,513	3.1	85.0	
	処置	101,049	2.6	116.0	79,998	2.0	79.2	84,642	2.2	105.8	
	手術	763,326	19.3	88.0	730,823	18.6	95.7	597,152	15.3	81.7	
	麻酔	95,706	2.4	94.2	97,338	2.5	101.7	84,924	2.2	87.2	
	合計	3,949,540	100.0	93.6	3,935,688	100.0	99.6	3,904,278	100.0	99.2	
	患者1人当たり収入(円)	39,742	—	97.9	41,596	—	104.7	41,202	—	99.1	
	外来	基本診療料	325,863	16.6	100.1	326,534	16.4	100.2	321,709	14.5	98.5
		検査料	463,401	23.6	103.9	470,597	23.7	101.6	467,930	21.1	99.4
		画像診断	297,332	15.1	101.0	293,411	14.8	98.7	273,837	12.3	93.3
投薬		59,854	3.0	134.3	67,936	3.4	113.5	342,825	15.5	504.6	
注射		335,794	17.1	100.9	349,849	17.6	104.2	349,322	15.8	99.8	
理学療法		25,895	1.3	95.4	28,511	1.4	110.1	24,422	1.1	85.7	
処置		365,813	18.6	98.9	358,828	18.1	98.1	349,839	15.8	97.5	
手術		27,568	1.4	89.4	25,633	1.3	93.0	25,864	1.2	100.9	
麻酔		4,260	0.2	85.7	4,264	0.2	100.1	2,666	0.1	62.5	
精神療法		3,059	0.2	89.5	3,005	0.2	98.2	2,736	0.1	91.0	
処方せん料		57,895	2.9	98.4	57,339	2.9	99.0	55,032	2.5	96.0	
合計		1,966,734	100.0	101.5	1,985,907	100.0	101.0	2,216,182	100.0	111.6	
患者1人当たり収入(円)		11,097	—	102.7	11,344	—	102.2	13,039	—	114.9	

## 5 診療科別診療収入の状況

### (1) 入院・外来合計

単位：千円

区分	平成25年度			平成26年度			平成27年度		
	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比
内科	1,654,601	28.1	99.8	1,623,981	27.3	98.1	1,858,188	30.3	114.4
神経内科	13,788	0.2	93.1	13,604	0.2	98.7	18,108	0.3	133.1
消化器科	301,728	5.1	84.3	281,865	4.8	93.4	310,303	5.1	110.1
循環器科	528,385	8.9	96.3	524,572	8.9	99.3	612,260	10.0	116.7
小児科	170,570	2.9	83.9	157,058	2.7	92.1	185,240	3.0	117.9
外科	899,586	15.2	103.5	906,789	15.3	100.8	1,007,530	16.4	111.1
整形外科	873,329	14.8	105.2	900,035	15.2	103.1	576,158	9.4	64.0
脳神経外科	427,611	7.2	90.0	479,912	8.1	112.2	506,916	8.3	105.6
皮膚科	129,024	2.2	122.7	97,354	1.6	75.5	87,324	1.4	89.7
泌尿器科	375,414	6.3	112.5	401,879	6.8	107.0	419,446	6.9	104.4
産婦人科	339,556	5.7	100.1	332,738	5.6	98.0	331,212	5.4	99.5
眼科	55,998	0.9	93.7	59,202	1.0	105.7	60,083	1.0	101.5
耳鼻いんこう科	36,507	0.6	104.7	41,779	0.7	114.4	41,619	0.7	99.6
放射線科	17,820	0.3	89.5	20,760	0.4	116.5	18,466	0.3	88.9
神経科	4,874	0.1	89.9	4,572	0.1	93.8	4,867	0.1	106.5
麻酔科	3,213	0.1	72.8	3,077	0.1	95.8	3,873	0.1	125.9
リハビリテーション科	18,514	0.3	87.7	20,253	0.3	109.4	18,527	0.3	91.5
歯科	65,756	1.1	108.6	52,165	0.9	79.3	60,340	1.0	115.7
外科									
合計	5,916,274	100.0	99.6	5,921,595	100.0	100.1	6,120,460	100.0	103.4

(\*1)は、血液浄化を含む (\*2)は、非常勤医師 (\*3)は、一般内科（呼吸器内科、血液内科、糖尿病）を含む

救急科の診療収入については、傷病に応じ、他科で算定

## (2) 入院

単位：千円

区分	平成25年度			平成26年度			平成27年度		
	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比
内科 (*1)	920,242	23.3	94.4	881,121	22.3	95.7	957,859	24.6	108.7
神経内科 (*2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
消化器科 (*3)	225,124	5.7	78.4	199,795	5.1	88.7	219,103	5.6	109.7
循環器科 (*3)	398,904	10.1	90.0	396,850	10.1	99.5	462,004	11.8	116.4
小児科	94,789	2.4	77.5	89,488	2.3	94.4	94,271	2.4	105.3
外科	683,270	17.3	99.3	668,910	17.0	97.9	709,195	18.2	106.0
整形外科	639,825	16.2	97.8	673,185	17.1	105.2	436,363	11.2	64.8
脳神経外科	363,358	9.2	82.8	412,758	10.5	113.6	432,485	11.1	104.8
皮膚科	86,890	2.2	137.3	59,186	1.5	68.1	40,946	1.0	69.2
泌尿器科	197,477	5.0	104.0	218,142	5.5	110.5	219,242	5.6	100.5
産婦人科	292,266	7.4	94.9	284,384	7.2	97.3	282,684	7.2	99.4
眼科	23,697	0.6	80.2	26,601	0.7	112.3	23,664	0.6	89.0
耳鼻いんこう科	11,849	0.3	93.6	18,259	0.5	154.1	17,915	0.5	98.1
放射線科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神経科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
精神科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
麻酔科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
歯科	11,849	0.3	140.4	7,009	0.2	59.2	8,547	0.2	121.9
口腔外科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	3,949,540	100.0	98.7	3,935,688	100.0	99.6	3,904,278	100.0	99.2

(\*1)は、血液浄化を含む (\*2)は、非常勤医師 (\*3)は、一般内科 (呼吸器内科、血液内科、糖尿病) を含む

救急科の診療収入については、傷病に応じ、他科で算定

## (3) 外来

単位：千円

区分	平成25年度			平成26年度			平成27年度		
	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比
内科	734,359	37.4	100.1	742,860	37.5	101.2	900,329	40.6	121.2
神経内科	13,788	0.7	93.1	13,604	0.7	98.7	18,108	0.8	133.1
消化器科	76,604	3.9	89.3	82,070	4.1	107.1	91,200	4.1	111.1
循環器科	129,481	6.6	101.0	127,722	6.4	98.6	150,256	6.8	117.6
小児科	75,781	3.9	82.8	67,570	3.4	89.2	90,969	4.1	134.6
外科	216,316	11.0	101.3	237,879	12.0	110.0	298,335	13.5	125.4
整形外科	233,504	11.9	112.3	226,850	11.4	97.2	139,795	6.3	61.6
脳神経外科	64,253	3.3	112.4	67,154	3.4	104.5	74,431	3.4	110.8
皮膚科	42,134	2.1	94.9	38,168	1.9	90.6	46,378	2.1	121.5
泌尿器科	177,937	9.0	113.2	183,737	9.3	103.3	200,204	9.0	109.0
産婦人科	47,290	2.4	100.1	48,354	2.4	102.2	48,528	2.2	100.4
眼科	32,301	1.6	99.0	32,601	1.6	100.9	36,419	1.7	111.7
耳鼻いんこう科	24,658	1.3	105.5	23,520	1.2	95.4	23,704	1.1	100.8
放射線科	17,820	0.9	89.5	20,760	1.0	116.5	18,466	0.8	88.9
神経科	4,874	0.2	89.9	4,572	0.2	93.8	4,867	0.2	106.5
麻酔科	3,213	0.2	86.8	3,077	0.2	95.8	3,873	0.2	125.9
リハビリテーション科	18,514	0.9	87.7	20,253	1.0	109.4	18,527	0.8	91.5
歯科	53,907	2.7	106.8	45,156	2.3	83.8	51,793	2.3	114.7
合計	1,966,734	100.0	101.5	1,985,907	100.0	101.0	2,216,182	100.0	111.6

(\*1)は、血液浄化を含む (\*2)は、非常勤医師 (\*3)は、一般内科 (呼吸器内科、血液内科、糖尿病) を含む

救急科の診療収入については、傷病に応じ、他科で算定



### Ⅲ 各部署の活動状況





## 1 診療部

### 1 平成27年度活動及び評価

- ① 第2次中期経営計画の2年目にあたり、診療各科が経営に対する意識を持つとともに、患者満足度、職員満足度の向上に努めた。
- ② 入院、外来患者数は前年並みであったが、積極的にコスト削減に取り組み、平成22年度から6年連続の黒字決算となった。
- ③ 平成26年度開設した地域包括ケア病棟は順調に推移し、平成27年10月からは2つ目の地域包括ケア病棟を設置し、90%以上の稼働率で順調に推移している。
- ④ 昨年度から設置した総合診療センターに新しく木村医師が着任しました。若い力で病院を支えてくれている。
- ⑤ 当院は救急医療を担っているが、敦賀市医師会の実施する休日急患診療（外科系）の当番医療機関に参画し、休日の外科系医療ニーズへの対応を強化した。（9月を除く奇数月の第3日曜日）

### 2 平成28年度目標

- ① 急性期病床の「重症度、医療・看護必要度」を維持し、地域包括ケア病棟の安定した運営を目指す。
- ② 地域完結型の医療を強化するため、救急科、麻酔科、産婦人科を始め各診療科の医師の安定的な確保に努める。
- ③ 災害拠点病院として、災害時にはすぐに対応できるように体制を整える。

## 2 医療安全管理室

### 1 平成27年度活動

「医療安全活動を通して医療の質の向上を図る。」を目標に掲げ、下記の活動を行った。

#### ①医療安全大会の実施

実施日	演題名等	講師	参加者
平成27年 6月22日 6月24日 6月25日 6月26日 6月27日	<b>第13回医療安全大会</b> 「医療安全管理者として」 「医療安全の基礎と考え方」	医療安全管理者 医療安全推進統括者	614名
平成27年 2月23日 ～ 2月25日	<b>第14回医療安全大会</b> <b>【各部署の取り組み】</b> 「転倒転落予防に向けて～リハの視点での転倒予防」 「ベッドサイドカンファレンスの導入」 「市立敦賀病院の転倒転落対策」	リハビリテーション室 理学療法士 本館3階病棟看護師長 医療安全管理者	614名

#### ②講習会などの実施

実施日	演題名等	講師	参加者
平成27年 9月14日	「医療事故調査制度の発足に向けて」	成田・長谷川法律事務所 成田 清 弁護士	106名
平成28年 3月7日	「認知症サポーター養成講座」	敦賀市地域包括支援センター「長寿」 猿橋 真由美 保健師	100名

### 2 平成27年度評価

インシデント・アクシデントに関して、レベル3以上の要因分析実施率は52%と目標（50%）は達成できた。反面、インシデントレポートの提出は総数で1,050枚（前年度1,478枚）と減少した。事故が減少したと捉える事も出来るが、ヒヤリハット（レベル0・1）の提出を促し、今後も医療事故防止に努める。

医療安全大会の参加率は、98%（前年度82～84%）から大幅に上がった。大会の聴講回数を増やした事が、参加率アップにつながった。さらに、医療安全文化醸成につなげられる取り組みとしていきたい。

平成27年10月から開始された医療事故調査制度に関しては、弁護士を講師に招いた講演会を開催し、医療事故調査制度開始から定期的に医療事故調査制度に係る情報提供を行った。また、事故調査制度に係るマニュアル・フローチャートを作成し対応、院内での相談等にもスムーズに対応できている。

### 3 平成28年度目標

- 1 医療安全文化醸成に必要な対策を検討する。
  - ①医療安全大会（年2回、参加率100%）
  - ②医療安全文化に関するアンケート調査
  - ③医療安全に関する活動を行う多職種多部署からなるチーム発足を支援。
  
- 2 科学的要因分析を実施し適切な医療事故予防につなげる。
  - ①要因分析実施率（65%以上）
  - ②要因分析勉強を行う。（2回/年以上）
  
- 3 立案された対策の評価を定期的に行う。
  - ①各部署への対策評価ラウンド（1回/月以上）
  - ②医療安全マニュアル等に関連した医療安全ラウンド（1回/月以上）

### **3 感染制御センター**

#### **1 平成27年度活動**

平成24年度4月より、感染制御センターを設置。病院に関わるすべての人々および地域住民を感染から守るため、感染対策の実施および感染に関する知識の向上を目指し活動を行った。感染制御チームのメンバーが実働部隊として、また、今年度は感染リンクナースから感染リンクスタッフへと拡大し、感染に対する活動を継続して行った。

- ①サーベイランスの実施（血流関連感染、尿道留置カテーテル感染、人工呼吸器関連感染）
- ②抗菌薬の適正使用の確認（届け出率の確認）
- ③感染対策マニュアルの改訂（感染対策に関わる組織体制、インフルエンザ、ノロウイルスなど）
- ④職業関連感染対策
- ⑤感染対策についての相談（コンサルテーション）
- ⑥感染対策についての教育・啓蒙活動
- ⑦ファシリティマネジメント（洗浄・消毒・滅菌業務の見直し、感染性廃棄物の管理、空調、水質管理、院内清掃、リネンの取り扱い、給食管理）についての検討
- ⑧アウトブレイク事例の対応および検討
- ⑨地域医療機関との連携（加算取得病院との情報交換およびラウンド等）

#### **2 平成27年度評価**

感染防止対策加算1同士の連携および感染防止対策加算1と2の連携については、4年目を迎え継続した連携が出来てきている。嶺南地域は感染防止対策加算2の取得病院が少ないこともあり、泉ヶ丘病院との単独連携になってしまっている。感染防止対策加算2の病院の育成にも今後取り組んでいく必要がある。

今年度は地域に向けて、研修会や施設ラウンドも行った。地域の中核病院として、感染対策の中心病院となり、嶺南地域全体の感染対策のレベルアップに努めていきたい。

#### **3 平成28年度活動目標**

- ・院内感染対策の徹底を行い、アウトブレイクを起こさないための感染対策を病院全体で充実させる。
- ・院内の感染対策に関する職員の意識・知識の向上のために現場実践に即した指導・教育を実践する。
- ・院内感染が早期発見できるような体制を全職員が意識できるような体制を整備する。
- ・嶺南地域の医療機関との連携を行い、地域の感染対策に関する知識・技術が向上できる活動を実践する。

## 4 医療支援部

### (1) 医療・福祉相談支援室

#### 1 平成27年度活動及び評価

- ①社会福祉士2名ががん相談支援センター相談員基礎研修(1,2)を修了し、がんに関する適切な相談対応に努めた。
- ②入院案内窓口において予定外(即日、夜間、休日入院)入院患者への説明について、病棟訪問を積極的に行うことにより、入院説明実施率を向上し、患者さんの入院手続きを円滑にするとともに、入院生活への不安緩和を図った。

#### 2 平成28年度目標

- ①医療・福祉相談について、関係部署と連携し誠意をもって対応する。
- ②入院説明、案内業務について、患者目線できめ細かく対応する。
- ③相談窓口を充実し、病院全体としての質向上を図る。
- ④がん診療連携拠点病院の指定を目指し、がん相談を推進する。

### (2) 地域医療連携室

#### 1 平成27年度活動

- ①地域医療機関との連携を促進した。
  - ・紹介患者の円滑な受入れ
  - ・医師会との意見交換会の実施
  - ・地域包括ケア病棟の増床にあたり、地域包括ケア病棟病床運営部会にて円滑な運営(ベッドコントロール等)について院内関係部署との調整を図った。
  - ・地域連携広報誌「きらめき」を年3回発行するとともに、パンフレット「かかりつけ医ガイド」を発行した。
  - ・地域開放学習会、出前講座の開催

(地域開放学習会、出前講座の開催状況)

実施日	地域開放学習会 演題名	所属・役職名・氏名	参加者(人)
平成27年 4月21日	がん看護事例検討	看護部 がん化学療法認定看護師 奥佐知子主任看護師 看護部 緩和ケア認定看護師 仲間有希	15
5月29日	事例検討会 退院困難ながん事例検討	看護部 がん性疼痛看護認定看護師 田辺里江看護師長 地域医療連携室 加野清美室長補佐	37
6月19日	地域包括ケア 一病棟と地域のつながりについて	医療支援部地域医療連携室 室長 田中知子	23
7月24日	災害について 一地域の連携一	災害医療救急蘇生部会員 看護部 井上ひろみ看護師長	10
8月21日	褥瘡について 一在宅ケア一	看護部 皮膚排泄ケア認定看護師 稲垣香緒里主任看護師	20

9月18日	事例検討会 地域包括ケア病棟における 終末期がん患者の退院支援	看護部 がん性疼痛看護認定看護師 田辺里江看護師長 地域医療連携室 平澤政人 MSW	12
10月16日	冬季の流行感染症の予防について	看護部 感染管理認定看護師 小堀和美看護師長	27
11月20日	緩和ケアについて —骨転移がある肺がん患者の事例—	看護部 緩和ケア認定看護師 仲間有希	6
12月7日	腹膜透析勉強会 腹膜透析の基礎・原理 腹膜透析患者さんの看護 手技について	バクスター 駒崎純子講師 地域医療連携室主催	17
12月18日	退院困難患者の事例検討会 —家族が関わりを絶った脳梗塞患者の退 院調整について—	地域医療連携室 福井彩美 MSW	8
平成28年 1月22日	慢性呼吸器疾患患者の療養生活について	看護部 慢性呼吸器疾患看護認定看護師 若山しのぶ	22
2月19日	がん化学療法の患者ケア —CVポートの管理について—	看護部 がん化学療法認定看護師 奥佐知子主任看護師	20
3月18日	一次救命処置について	看護部 救急看護認定看護師 藤原貞美子主任看護師	14

実施日	出前講座 演題名・対象	所属・役職名・氏名	参加者 (人)
平成27年 7月14日	子どもの心肺蘇生法	看護部 藤原貞美子主任看護師 地域医療連携室 田中知子	20
9月10日	子どもの心肺蘇生法	看護部 藤原貞美子主任看護師 地域医療連携室 田中知子	24
10月20日	子どもの急変時の対処法	看護部 藤原貞美子主任看護師 地域医療連携室 田中知子	18
11月12日	子どもの急変時の対処法	看護部 藤原貞美子主任看護師 地域医療連携室 田中知子	14
7月28日	食べて動いて健康寿命を延ばそう	小森一恵栄養管理室室長補佐 高木隆幸理学療法士 地域医療連携室 田中知子	106
8月12日	糖尿病と食事療法	栄養管理室 竹内静香管理栄養士 地域医療連携室 田中知子	16
9月18日	がん情報探しの10カ条	看護部 田辺里江看護師長 地域医療連携室 田中知子	25
9月29日	生活習慣病ってなあに	音羽勘一 循環器科部長 比田羽美 管理栄養士 地域医療連携室 田中知子	25
10月13日	これだけは知っておきたい薬の話2	薬剤部 荒木隆一部長	12
10月19日	インフルエンザ・ノロウイルスのお話	看護部 小堀和美看護師長 地域医療連携室 田中知子	14
10月29日	インフルエンザ・ノロウイルスのお話	看護部 小堀和美看護師長	25
11月20日	退院調整にかかる課題について	連携室室長 田中知子	36
平成28年 1月18日	インフルエンザ・ノロウイルスのお話	看護部 小堀和美看護師長 地域医療連携室 田中知子	15
2月10日	退院調整の連携について	連携室室長 田中知子	20

②紹介率（目標50%）及び逆紹介率（目標70%）の向上に取り組んだ。

③開放型病床（全15床）利用について、稼働率向上を目指し、かかりつけ医の利用を促進した。

- ④地域包括ケア病棟運用と退院調整について、二州ケアマネージャー対象に説明会を開催した。また、全職員を対象に在宅移行支援研修会を開催した。
- ⑤地域連携パス利用を推進した。(脳卒中、大腿骨頸部骨骨折、心筋梗塞)
- ⑥ふくいメディカルネットの運用を促すとともに、地域医療連携を強化するため「かかりつけ医」との連携を推進した。

## 2 平成27年度評価

認定看護師による地域開放学習会や市民への出前講座等を継続して実施した。

平成27年度は前年度と比較し、紹介率は0.3%上昇し、逆紹介率は5.7%低下した。

退院調整については、地域事業所との連携強化を図り、病棟とも連携し、地域包括ケア病棟の活用につなげた。その結果、院外多職種との面談は87%上昇し、長期入院患者は20%減少した。また、地域連携パス運用件数は17%上昇した。

## 3 平成28年度目標

①地域医療機関と連携し、地域医療支援病院の承認を目指す。

(紹介率50%、逆紹介率70%、開放型病床利用率80%)

- ・地域連携パスの運用件数を増やす。

②地域住民の医療機能分化への理解と関心を深める。

- ・出前講座 10回/年

- ・地域医療従事者とともに医療の質向上を図る。

地域開放学習会 12回/年

③退院困難患者の早期退院支援を行う。

- ・院内外の連携強化
- ・退院支援体制の充実
- ・地域包括ケア病棟と協働し、在宅復帰移行支援を推進

## 5 医療技術部

### 1 平成27年度活動状況、評価

#### ①医療技術部内の情報共有

- ・医療技術部責任者会議を開催し、部署の取り組みなど情報共有化を図った。

#### ②多職種共同の研修会の実施

- ・医療技術部

第1回 平成27年4月15日（乳腺画像と病理について）

第2回 平成27年6月5日（薬剤部合同新人研修会）

- ・ベーシックレクチャー（全職種対象）

第1回 平成27年5月26日（心電図検査について）

第2回 平成27年8月21日（脳神経と失語症について）

第3回 平成27年10月27日（腎機能と透析について）

第4回 平成28年1月28日（肝臓について）

#### ③人事考課への取り組み

- ・平成28年実施に向けて、個人の目標を作成した。

### 2 平成28年度目標

#### ①医療技術部内の情報共有

月1回の医療技術部代表者会議の開催の継続

#### ②多職種共同による院内研修

医療技術部の研修会を複数回開催

ベーシックレクチャー（全職種対象）を定期的で開催

#### ③各科が作成したアクションプランに沿って個人目標を開催する

## (1) 検査室

### 1 平成27年度活動

#### ①患者サービスの向上及び他職種、チーム医療への業務支援

- ・検査室受付の案内等レイアウトを変更し、患者サービス向上を図った。
- ・朝礼での挨拶運動を継続して行い、接遇への意識向上を図った。
- ・各種委員会およびチームに積極的に参加し、臨床検査技師の視点から業務の支援を行った。
- ・カプセル内視鏡読影支援等、診療業務の支援を行った。

#### ②検査の質の向上

- ・検査の質の向上のため、積極的な学会発表および研修会参加に努めた。
- ・検査室新人研修プログラムにおいて導入したプリセプターシップ制度を継続、新人教育を行った。
- ・検査の質の向上を目的とし、精度管理の維持、業務改善および各種検査マニユ



アルを改訂した。

- ・検査の質の向上を目的とし、検査項目の見直し等の検討を行った。

### ③経費の削減

- ・総務企画課と協力し、検査試薬コストの削減を行った。
- ・検査項目の見直しを実施し、検査コストの削減を行った。
- ・診療材料及び消耗品等の見直しによって、診療材料費の削減を行った。

## 2 平成27年度評価

上記の活動を通じて、当初の目標は概ね達成できており、検査室機能および患者サービスの向上につながった。

## 3 平成28年度目標

継続性を重視し、「患者サービスの向上」を基本とした「検査の質の向上」、「経費の削減」を目標とする。

### ①患者サービスの向上及び他職種、チーム医療への業務支援

- ・他部署、他職種との連携による、患者サービス向上の推進
- ・他部署、他職種との連携による、業務支援の継続

### ②検査の質の向上

- ・検査マニュアル改定の取り組み継続
- ・検査項目の検討を継続
- ・学会、研修会参加支援の継続
- ・検査室スタッフの教育活動サポート

### ③経費の削減

- ・検査コスト及び診療材料費削減の取り組みの継続

## (2) 放射線室

### 1 平成27年度活動状況と評価

日常業務に直結するような院外研修、QCサークルでの、患者さんの目線で行動する等意識改革を図った。

医療機器の安定稼働についてはアンギオ機器の更新など進展が図れた。

#### (スタッフの教育・研修)

- ①院外において研修やセミナーに部門ごとに積極的に参加し、室員にフィードバックし日常業務に生かすことができた。
- ②QCサークルでは2か月に1回、リハビリテーション室と交互に日常業務に直結した題材で発表やカンファレンスを行い業務に生かすことができた。
- ③医療被ばく低減認定施設に向けてのデータ収集を行った。  
今年度は病院内にある放射線防御プロテクターの品質の検証を行った。

④DMAT訓練に参加したことで、災害時のイメージができた。

#### (人事考課制度への取り組み)

個人目標シートを提出しそれに沿ったヒアリングを実施した。

## 2 平成28年度活動目標

放射線科機器のさらなる安定稼働に努める。

研修会、セミナー等に積極的に参加し、知識、技能を習得し業務に生かす。

経費に対する意識改革に取り組む。

### (3) リハビリテーション室

#### 1 平成27年度活動

- ①外来患者の心大血管リハビリテーションを週に2回から3回に増やし、心臓リハビリテーションの充実を図った。
- ②リハビリテーション開始日に、リハビリテーション総合実施計画書を用いて本人または家族に説明し、計画的にリハビリテーションを実施した。
- ③地域包括ケア病棟の増床に対応するため専従スタッフを育成し、退院前訪問など在宅復帰に向けてのリハビリテーションを展開した。
- ④リハ室紹介パンフレットを作成し、療法士養成校への就職説明会で当院の良さをアピールするために活用した。
- ⑤福井県こども療育センターからの療法士派遣を継続することで、小児リハビリテーションの質を高めた。
- ⑥土日以外の休日において、リハビリテーションを実施し、患者満足度を高めた。
- ⑦他科との合同研修会を開催し、職員の知識・技術の向上を図った。
- ⑧がんリハ専従スタッフを増やすため、がんのリハビリテーション研修会受講3チーム目を計画した。しかし、応募多数のため受講できなかった。

#### 2 平成27年度評価

- ・上記活動の結果、リハビリテーション室としての増収につながった。
- ・知識・技術の向上が図れ、質の高いリハビリテーションの提供につながった。
- ・退院前訪問指導を実施し患者・家族の不安を軽減できたことで、患者満足度の向上が図れた。
- ・療法士の増員により、地域包括ケア病棟のリハ単位基準を維持できた。
- ・がんのリハビリテーション研修会を受講できなかったが、今後は北陸以外のがんリハ研修も視野に入れて取り組む。

#### 3 平成28年度目標

- ①透析患者に対してリハビリテーションを実施し、QOLの向上を図る。

- ②日曜日以外の休日にリハビリテーションを行い、患者満足度を高める。
- ③がんのリハビリテーション研修会へ参加し、がんリハ専従スタッフの増員を図り早期離床につなげる。
- ④療法士養成校への就職説明会へ積極的に参加し、当院の良さをアピールして優秀な職員の採用を目指す。
- ⑤退院前訪問を積極的に行うことで、在宅復帰に向けてのリハビリテーションを展開する。
- ⑥福井県子ども療育センターからの作業療法士の派遣回数を増やすことで、小児リハビリテーションの質を高める。
- ⑦日曜日以外の休日において、リハビリテーションを実施する。
- ⑧ベッドコントローラーとの連携により、地域包括ケア病棟のリハ単位基準を維持する。
- ⑨他科との合同研修会を開催し、職員の知識・技術の向上を図る。
- ⑩リハカンファレンスだけでなく、主治医のカンファレンスに参加して医師・看護師等との連携を深める。

#### (4) 臨床工学技術室

##### 1 平成27年度活動

- ①透析センターにおける業務を円滑に実施しました。
- ②病棟透析・急性血液浄化・PCPS等の業務における対応を円滑に行いました。
- ③稼働中の人工呼吸器の動作中点検を、毎日実施しました。
- ④中央管理化しているME機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ・人工呼吸器・経腸栄養ポンプ・電動式低圧吸引機）の管理を安定して行いました。
- ⑤フットポンプの保管・管理を開始しました。
- ⑥除細動器及びAEDの日常点検を行い、管理を強化しました。
- ⑦手術室業務として、術中回収式自己血輸血（オーソパット）を円滑に実施しました。
- ⑧高気圧酸素療法業務を円滑に実施しました。
- ⑨看護師を対象に人工呼吸器に係る初級取扱い講習会を実施しました。
- ⑩透析液水質確保加算に対応した透析液の管理を実施しました。
- ⑪その他院内にある様々な医療機器の修理やトラブル対応を行いました。

##### 2 平成27年度評価

上記活動を通じて、当該年度の目標はほぼ達成できました。中でも昨年度に続いて看護師対象の人工呼吸器の研修(実習)は全病棟に対して実施できました。しかし輸液ポンプをはじめ人工呼吸器等の中央管理機器の運用には更なる検討が必要であると考えます。今後も安全で効率的なME機器の運用に向け努力していきたい。

### 3 平成28年度目標

- ①平成27年度の活動の継続と強化を図りたい。
- ②MEセンターや透析センター以外での活動を増やしていきたい。(ペースメーカー関連業務等)

## (5) 栄養管理室

### 1 平成27年度活動と評価

- ①食品衛生自主管理プログラムの認証を取得した。
- ②給食業務の衛生管理・マニュアルの周知徹底及び調理現場の定期的な点検を円滑に実施した。
- ③定期的な研修に加え、意識改革に向けて、第三者機関の介入を取り入れた。
- ④医療安全対策として、マニュアル順守を周知徹底することでインシデント・アクシデントの件数減と予防へと安定して行えた。
- ⑤食事アンケート・患者満足度調査の結果を踏まえ、食事内容と献立の見直しを実施した。
- ⑥外来栄養指導へと医師・外来看護師と連携をとり、早期介入、改善に向けた体制作りを進める事が出来た。

上記活動と目標はほぼ達成できましたが、食事内容の改善(調理方法)はかれず、個人対応の改善には進まなかった。

### 2 平成28年度目標

- ①『衛生管理を徹底し安全で安心な食事を提供する』
  - ・HACCPに基づいた衛生管理を徹底する。
  - ・インシデント・アクシデントの再発予防に努める。
- ②『患者満足度の高い献立を検討する』

給食会議を開催し食事内容の改善を図る。

  - ・献立内容の改善(朝食、食材の見直し等)
  - ・嚥下食の改訂、ぬくもり食の充実
- ③『適切な栄養管理を実施する』
  - ・適切な栄養管理を立案し、個々に応じた食事内容を提案する。
  - ・個人栄養指導の実施数を増加させる。
    - 外来栄養指導・・・目標20件/月
    - 入院栄養指導・・・目標30件/月(1日2件)
- ④『積極的にチーム医療へ参画する』
  - ・低栄養患者を早期に発見し、栄養サポートチームに繋げる。
  - ・栄養サポートチームへの介入数を増加させる。
    - NST加算・・・80件/月

## 6 薬剤部

### 1 平成27年度活動

安全かつ安心な薬物療法の支援を行う

#### ①調剤関連業務

- ・安全管理の充実：調剤関連事故防止のため、安全管理体制を強化する。
- ・薬剤の適正使用推進：適正使用推進のための仕組みを構築する。

#### ②薬剤管理指導業務および病棟常駐業務

- ・モデル病棟において病棟業務を試行  
：病棟常駐に向けて業務の可視化（数値化）を行う。

#### ③医薬品情報管理業務

- ・業務全体を再構築  
：業務を再構築し医薬品適正使用のためタイムリーな情報提供を行う。
- ・ハイリスク薬、特殊薬剤について適正使用のシステムを提案する。
- ・後発医薬品の選定：引き続き、適切な後発品の選定導入を目指す。

#### ④医療安全対策業務

- ・業務改善の推進  
：薬剤部QCレポート用紙の評価を行いさらなる業務改善を行う。

#### ⑤医薬品管理業務

- ・SPDの導入を行い、在庫管理システムを評価する。

#### ⑥各種委員会関係

- ・積極的参加：各種委員会へ積極的に参加し薬学的観点から提案を行う。
- ・化学療法委員会関連  
：化学療法関連業務（レジメン管理ミキシング等）の円滑な実施を行う。
- ・感染対策委員会：抗MRSA薬を中心に適正使用を推進する。
- ・栄養サポートチーム：経腸栄養剤・静脈栄養剤の適正使用に貢献する。
- ・緩和ケア委員会：緩和ケアマニュアル改訂への協力
- ・糖尿病チーム：関連マニュアルの整備

#### ⑦薬薬連携の推進

- ・医療連携の推進：医療連携推進のなか薬剤師同士の連携を強化する。

薬薬連携の集いの開催、合同研修会の実施

### 2 平成27年度評価

基本的業務の再構築とともに、SPDの導入及び業務体制を確立することができた。

また病棟業務についてはモデル病棟を設定し取り組んだ。しかしマンパワー不足のため充分に取り組みが出来ていない業務もあった。

### 3 平成28年度目標

安全かつ安心な薬物療法の支援を行う

#### ①調剤関連業務

- ・安全管理の充実：調剤関連事故防止のため、安全管理体制を強化する。
- ・薬剤の適正使用推進：適正使用推進のための仕組みを構築する。

#### ②薬剤管理指導業務および病棟常駐業務

- ・モデル病棟において病棟業務を試行  
：服薬指導のみでなく、常駐に向けて業務の可視化（数値化）を行う。

#### ③医薬品情報管理業務

- ・医薬品適正使用ためタイムリーな情報提供を行う。
- ・ハイリスク薬、特殊薬剤について適正使用のシステムを提案する。
- ・後発医薬品の選定：引き続き、適切な後発品の選定導入を目指す。

#### ④医療安全対策業務

- ・業務改善の推進  
：薬剤部内レポート用紙の評価を行いさらなる業務改善を行う。

#### ⑤医薬品管理業務

- ・SPDを定着、在庫管理システムを評価する。

#### ⑥各種委員会関係

- ・積極的参加：各種委員会へ積極的に参加し薬学的観点から提案を行う。
- ・化学療法委員会関連  
：化学療法関連業務（レジメン管理ミキシング等）の円滑な実施を行う。
- ・感染対策委員会：抗MRSA薬を中心に適正使用を推進する。
- ・栄養サポートチーム：経腸栄養剤・静脈栄養剤の適正使用に貢献する。
- ・緩和ケア委員会：緩和ケアマニュアル改訂への協力
- ・糖尿病チーム：関連マニュアルの整備

#### ⑦薬薬連携の推進

- ・医療連携の推進：医療連携推進のなか薬剤師同士の連携を強化する。  
薬薬連携の集いの開催、合同研修会の実施

## 7 看護部

### 1 平成27年度活動及び評価

- ①医療安全、感染防止に組織的に取り組み、安全・安心な看護の提供に努める。
  - ・院内の勉強会への参加を促し、報告体制を確立した。
  - ・看護部内で発生した事例について、部署間での情報共有と医療安全管理室と協力して分析を実施した。
- ②看護体制を整え、臨床実践能力を高め、看護の質向上に努める
  - ・看護体制の見直しのため、他院の研修に積極的に参加した。
  - ・認定看護師の学会参加、看護研究発表などを実施した。
  - ・教育担当師長の配置を行い、新人看護職員研修、院内研修を実施し看護基礎技術の習得に努めた。
- ③人材確保と学生実習体制の充実に取り組む
  - ・就職説明会や高校・大学を訪問には、師長を含めて看護部、事務共に参加した。
  - ・インターシップ、看護体験などの希望に対し積極的に対応し、看護職や就職先としての当院の魅力について情報発信することができた。
- ④部署の経営戦略をもち、看護部全体で経営に参画する
  - ・重症、医療・看護必要度研修の実施し、100%参加した。また、指導者研修に2名参加しフォローアップ研修に7名参加した。
  - ・地域包括病棟が2病棟となり、在宅復帰に力を入れることができた。

### 2 平成28年度目標

- ①信頼と温もりのある組織風土を作る
- ②医療安全、感染防止に組織的に取り組み、安全・安心な看護を提供に努める
- ③看護体制を整え、臨床実践能力を高め、看護の質向上に努める
- ④人材確保と学生実習体制の充実に取り組む
- ⑤部署の経営戦略をもち、看護部全体で経営に参画する

## 8 事務局

### (1) 総務企画課

#### 1 平成27年度活動

- ①医師・看護師等医療従事者の確保対策
  - ・医師確保のため関係機関への交渉を継続した。
  - ・研修医5名採用。
  - ・看護師19名、薬剤師1名を採用。
- ②中期経営計画の推進
  - ・地域包括ケア病棟を増設した。(平成27年10月1日)
- ③在宅医療体制の整備
  - ・在宅医療推進部会において事業の方向性等を検討した。
- ④医療機器の効果的配置
  - ・ベッドパンウォッシャー、人工呼吸器を設置した。
- ⑤施設整備の計画的補修と円滑な管理
  - ・原子力災害対策施設、看護師勤務環境改善に係る施設を整備した。

#### 2 平成27年度評価

各部署一丸となり、目標に取り組んだ結果、6年連続で黒字決算となった。平成28年度も経営状況が厳しくなることが予想されるため、更なる効果効率的な経営を目指してまいりたい。

#### 3 平成28年度目標

- ①医師・看護師等医療従事者の確保対策
  - ・常勤医師の確保…50名(研修医除く)の確保
  - ・研修医の確保…6名(フルマッチ)の確保
  - ・看護師の確保…30名増(看護師の負担軽減を図る)
  - ・薬剤師の確保…3名増(病棟配置を目指す)
  - ・リハビリ職員の確保…若干名(地域包括ケア病棟の円滑な運営)
- ②中期経営計画の見直し・推進
  - ・公立病院改革ガイドライン・福井県地域医療構想を踏まえ改訂
- ③在宅医療体制の整備
  - ・在宅医療体制の設置及びサービスの開始
- ④医療器械の効果的配置
  - ・血管造影装置の更新
- ⑤施設整備の計画的補修と円滑な管理
  - ・各種消防設備の点検及び補修



## (2) 医療サービス課

### 1 平成27年度活動

- ①情報システムの適切な整備・運用
  - ・情報システム管理台帳及びシステム連携図の作成
- ②未収金削減に向けた取り組み
  - ・未収金回収委託や未収金相談の強化
- ③診療報酬改定に伴う適切な請求事務
  - ・レセプト査定率の削減

### 2 平成27年度評価

- ・情報システム管理台帳及びシステム連携図を作成した。
- ・前年度より未収金額が減少した。
- ・レセプト査定率は前年度並みを維持した。

### 3 平成28年度目標

- ①情報システムの適切な整備・運用
  - ・DPCデータを用いた病院情報の公表を行う。
- ②未収金削減に向けた取り組み
  - ・未収金回収依頼の増加や積極的な未収金相談を実施し、未収金額を削減する。
- ③病院事業収益の確保
  - ・レセプト査定率の削減を図る。
  - ・診療報酬改定に沿い、適切な対応を行う。



## IV 業務の概要



# 1 患者の状況

## (1) 入院・外来別患者数

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
入院	患者数（人）	99,380	94,618	94,759
	対前年度比（％）	95.6	95.2	100.1
	開院日（日）	365	365	366
	一日平均（人）	272.3	259.2	258.9
	病床利用率（％）	82.0	78.1	78.0
	平均在院日数（日）	17.2	17.0	16.4
外来	患者数（人）	177,235	175,061	169,961
	対前年度比（％）	98.9	98.8	97.1
	開院日（日）	244	244	243
	一日平均（人）	726.4	717.5	699.4
合計	患者数（人）	276,615	269,679	264,720
	対前年度比（％）	97.7	97.5	98.2

※診療報酬の基本診療料の施設基準等の別表第2に規定する入院患者も含む。

## (2) 患者数の推移

### ①入院患者数

	病床数				患者延数（人）	対前年度比（％）	1日平均患者数（人）
	一般	感染	ドック	無菌			
平成22年度	323	2	6	1	104,761	104.8	287.0
平成23年度	323	2	6	1	98,625	94.1	269.5
平成24年度	323	2	6	1	103,962	105.4	284.8
平成25年度	323	2	6	1	99,380	95.6	272.3
平成26年度	323	2	6	1	94,618	95.2	259.2
平成27年度	323	2	6	1	94,759	100.1	258.9

### ②外来患者数

	患者延数（人）	対前年度比（％）	1日平均患者数（人）
平成22年度	176,631	102.4	726.9
平成23年度	177,200	100.3	726.2
平成24年度	179,292	101.2	731.8
平成25年度	177,235	98.9	726.4
平成26年度	175,061	98.8	717.5
平成27年度	169,961	97.1	699.4

(3) 診療科別患者数

	入院				外来			
	平成25年度(人)	平成26年度(人)	平成27年度(人)	対前年度比(%)	平成25年度(人)	平成26年度(人)	平成27年度(人)	対前年度比(%)
内科	27,929	25,823	26,816	103.8	41,118	41,101	43,097	104.9
神経内科	0	0	90	皆増	1,684	1,630	1,587	97.4
消化器科	5,606	4,759	5,095	107.1	6,771	7,425	7,270	97.9
循環器科	6,887	6,749	8,546	126.6	12,599	12,204	12,186	99.9
小児科	2,794	2,468	2,591	105.0	10,390	9,447	8,920	94.4
外科	14,026	13,510	14,419	106.7	13,247	12,256	12,729	103.9
整形外科	15,829	15,488	11,062	71.4	22,346	20,967	15,788	75.3
脳神経外科	10,390	11,379	12,585	110.6	7,976	8,187	7,798	95.2
皮膚科	3,250	1,898	1,297	68.3	8,706	8,969	8,509	94.9
泌尿器科	5,056	5,612	5,260	93.7	15,147	15,397	16,113	104.7
産婦人科	6,628	6,034	6,119	101.4	6,667	6,882	6,401	93.0
眼科	320	208	166	79.8	6,137	5,885	5,700	96.9
耳鼻いんこう科	477	581	559	96.2	4,519	4,111	4,039	98.2
放射線科	0	0	0	-	909	902	755	83.7
神経科精神科	0	0	0	-	1,205	1,145	1,075	93.9
麻酔科	0	0	0	-	2,940	2,866	2,801	97.7
リハビリテーション科	0	0	0	-	5,720	5,724	4,460	77.9
歯科口腔外科	188	109	147	134.9	9,154	9,963	10,420	104.6
合計	99,380	94,618	94,752	100.1	177,235	175,061	169,648	96.9

※救急科患者は、傷病に応じて、各診療科で人数を計上

(4) 市町村別患者数

	平成25年度						平成26年度						平成27年度						
	外来		入院		合計		外来		入院		合計		外来		入院		合計		
	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	
市内	敦賀市	147,660	83.3	79,973	80.5	227,633	82.3	145,172	82.9	74,902	79.2	220,074	81.6	139,858	82.4%	73,842	77.9%	213,700	80.8%
	美浜町	15,934	9.0	10,188	10.2	26,122	9.5	16,297	9.3	9,979	10.2	26,276	9.5	15,839	9.3%	10,181	10.7%	26,020	9.8%
	若狭町	8,404	4.7	5,425	5.5	13,829	5.0	8,425	4.8	5,621	5.9	14,046	5.2	8,849	5.2%	6,624	7.0%	15,473	5.9%
県外	その他	2,225	1.3	1,462	1.5	3,687	1.3	1,907	1.1	1,311	1.4	3,218	1.2	2,130	1.3%	1,727	1.8%	3,857	1.5%
	県外	3,012	1.7	2,332	2.3	5,344	1.9	3,260	1.9	2,805	3.0	6,065	2.2	2,972	1.8%	2,378	2.5%	5,350	2.0%
合計	177,235	100.0	99,380	100.0	276,615	100.0	175,061	100.0	94,618	100.0	269,679	100.0	169,648	100.0%	94,752	100.0%	264,400	100.0%	

## (5) 月別患者数

平成27年度

入院

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一日平均	構成割合 (%)
内科	2,389	2,576	2,166	2,462	2,504	2,214	2,162	1,787	2,011	2,289	1,952	2,304	26,816	73.3	28.3
神経内科	0	10	25	0	0	0	0	0	23	31	1	0	90	0.2	0.1
消化器科	258	393	439	450	397	545	463	382	400	409	403	556	5,095	13.9	5.4
循環器科	843	841	651	555	536	599	724	700	739	765	840	753	8,546	23.3	9.0
小児科	328	237	186	168	208	206	173	226	334	161	185	179	2,591	7.1	2.7
外科	1,235	1,161	1,178	1,123	1,135	1,167	1,290	1,354	1,227	1,116	1,158	1,275	14,419	39.4	15.2
整形外科	888	637	757	961	1,045	937	784	951	1,131	1,039	800	1,132	11,062	30.2	11.7
脳神経外科	829	1,060	1,398	1,194	1,053	855	994	1,223	1,041	988	878	1,072	12,585	34.4	13.3
皮膚科	128	103	111	165	68	58	124	93	91	105	105	146	1,297	3.5	1.4
泌尿器科	310	213	373	486	594	649	595	418	247	346	604	425	5,260	14.4	5.6
産婦人科	462	507	688	642	523	451	559	437	403	457	575	415	6,119	16.7	6.5
眼科	11	17	16	14	16	10	18	12	14	16	8	14	166	0.5	0.2
耳鼻いんこう科	43	40	55	43	46	61	15	38	56	55	47	60	559	1.5	0.6
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
神経科精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
歯科口腔外科	6	9	22	9	29	28	19	2	3	13	3	4	147	0.4	0.2
合計	7,730	7,804	8,065	8,272	8,154	7,780	7,920	7,623	7,720	7,790	7,559	8,335	94,752	258.9	100.0



外来

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一日平均	構成割合 (%)
内科	3,638	3,388	3,639	3,887	3,642	3,480	3,504	3,468	3,659	3,433	3,525	3,834	43,097	177.4	25.4
神経内科	136	110	141	162	136	119	124	145	107	126	128	153	1,587	6.5	0.9
消化器科	634	571	667	649	570	589	634	604	635	552	559	606	7,270	29.9	4.3
循環器科	1,079	931	1,062	1,056	939	979	1,071	939	1,019	977	1,013	1,121	12,186	50.1	7.2
小児科	776	618	768	775	789	612	639	799	848	674	761	861	8,920	36.7	5.3
外科	1,083	964	1,103	1,131	986	1,011	1,191	1,027	1,038	1,007	1,027	1,161	12,729	52.4	7.5
整形外科	1,437	1,215	1,450	1,379	1,365	1,234	1,348	1,180	1,390	1,250	1,167	1,373	15,788	65.0	9.3
脳神経外科	652	634	685	653	624	634	678	593	711	627	606	701	7,798	32.1	4.6
皮膚科	686	721	780	841	654	708	774	730	688	647	546	734	8,509	35.0	5.0
泌尿器科	1,360	1,186	1,435	1,377	1,327	1,388	1,456	1,226	1,416	1,268	1,180	1,494	16,113	66.3	9.5
産婦人科	522	502	575	586	505	517	572	549	575	431	473	594	6,401	26.3	3.8
眼科	488	494	530	462	538	435	505	443	486	397	437	485	5,700	23.5	3.4
耳鼻いんこう科	402	351	385	361	332	309	347	307	318	282	307	338	4,039	16.6	2.4
放射線科	57	61	68	65	70	67	61	54	55	65	62	70	755	3.1	0.4
神経科精神科	93	73	79	107	80	97	108	72	84	99	73	110	1,075	4.4	0.6
麻酔科	260	198	283	261	224	236	235	240	221	204	205	234	2,801	11.5	1.7
リハビリテーション科	454	394	410	404	389	329	319	310	312	352	384	403	4,460	18.4	2.6
歯科口腔外科	845	831	980	958	831	832	851	845	823	837	882	905	10,420	42.9	6.1
合計	14,602	13,242	15,040	15,114	14,001	13,576	14,417	13,531	14,385	13,228	13,335	15,177	169,648	698.1	100.0

※救急科患者は、傷病に応じて、各診療科で人数を計上。

(6) 救急患者の取扱状況

平成25年度

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	354	369	291	384	409	301	302	306	429	525	435	402	4,507
神経内科	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	1	7
消化器科	13	23	16	19	4	15	17	20	31	21	14	21	214
循環器科	13	17	16	17	16	13	17	13	13	14	7	13	169
小児科	134	160	127	141	174	108	96	120	160	184	176	177	1,757
外科	38	37	40	46	45	28	41	38	23	27	33	25	421
整形外科	170	155	219	193	206	156	138	128	180	142	114	144	1,945
脳神経外科	91	96	80	99	113	83	81	93	103	111	75	84	1,109
皮膚科	37	47	68	97	118	65	54	44	47	34	27	36	674
泌尿器科	27	28	40	38	33	52	29	35	41	33	28	31	415
産婦人科	40	28	46	51	54	37	40	48	29	58	32	21	484
眼科	16	12	5	13	12	8	6	12	10	7	8	6	115
耳鼻いんこう科	31	42	32	34	40	56	41	32	46	54	20	37	465
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経科精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	0	9	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	12
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	0	1	1	1	4	1	0	0	1	0	1	0	10
救急科	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	8
合計	967	1,025	983	1,133	1,228	925	863	890	1,114	1,210	972	1,002	12,312
入院患者数(再掲)	138	144	141	174	174	130	158	172	165	185	125	135	1,841
救急車台数(台)	146	135	152	167	221	158	153	163	180	174	137	167	1,953

## 平成26年度

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	312	363	283	354	390	309	273	279	380	554	357	347	4,201
神経内科	0	0	3	0	0	0	0	1	0	1	1	0	6
消化器科	20	21	20	21	20	9	19	21	14	18	13	16	212
循環器科	10	22	15	16	14	20	12	17	30	24	10	9	199
小児科	128	128	123	146	142	109	109	117	163	173	127	152	1,617
外科	43	30	21	23	30	46	39	32	40	33	20	16	373
整形外科	118	142	125	131	150	136	117	123	140	112	90	111	1,495
脳神経外科	69	84	81	78	60	81	90	102	89	82	74	74	964
皮膚科	31	68	68	83	75	69	48	51	50	25	24	21	613
泌尿器科	23	25	24	26	34	31	17	25	43	34	24	24	330
産婦人科	24	26	12	18	18	17	26	12	30	31	13	12	239
眼科	9	16	5	5	7	7	7	3	5	3	4	9	80
耳鼻いんこう科	35	47	36	37	36	26	28	43	26	31	19	32	396
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経科精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	2	2	4	4	1	2	1	1	1	0	1	0	19
救急科	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	4
合計	825	974	822	942	978	863	786	827	1,011	1,121	778	823	10,750
入院患者数（再掲）	125	123	105	138	128	124	157	155	173	158	103	120	1,609
救急車台数（台）	152	137	128	167	166	164	175	150	198	182	126	150	1,895

平成27年度

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	366	408	315	379	431	369	305	369	354	410	414	455	4,575
神経内科	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	4
消化器科	18	16	12	15	19	10	16	15	25	20	18	14	198
循環器科	12	25	12	14	11	12	15	12	17	15	21	17	183
小児科	113	112	102	156	121	132	106	135	150	106	150	151	1,534
外科	24	38	31	26	34	35	26	21	32	43	32	33	375
整形外科	104	113	120	135	167	148	110	112	126	93	94	101	1,423
脳神経外科	70	114	77	77	85	68	102	92	109	79	93	88	1,054
皮膚科	26	68	50	79	104	55	59	36	31	31	28	25	592
泌尿器科	31	33	28	30	49	33	37	19	31	35	24	20	370
産婦人科	23	18	13	23	28	19	15	22	32	23	19	18	253
眼科	11	15	7	7	10	12	14	6	10	8	4	5	109
耳鼻いんこう科	34	41	27	28	26	30	40	33	31	38	18	31	377
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経科精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	1	3	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	8
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	0	2	3	0	1	2	0	5	1	4	0	0	18
救急科	2	1	0	1	2	0	3	0	0	0	0	0	9
合計	835	1,008	798	971	1,088	926	849	879	949	906	915	958	11,082
入院患者数（再掲）	146	168	135	131	143	136	145	162	152	163	151	164	1,796
救急車台数（台）	165	195	146	148	200	151	151	160	175	165	156	175	1,987

## (7) 患者搬送の状況

単位：件

	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		周産期医療 関係搬送数		周産期医療 関係搬送数		周産期医療 関係搬送数
市 内	9		11		1	
県 内	75	7	78	9	92	16
石川県	1					
岐阜県	1					
京都府					4	
滋賀県	1				1	
奈良県			1		0	
大阪府					2	
愛知県					1	
合計	87	7	90	9	101	16

## 2 人間ドックの状況

単位：件、円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
25年度	1日ドック	6	13	25	38	62	36	38	40	42	42	26	390	
	2日ドック	2	2	2	9	10	5	2	3	1	4	5	49	
	脳ドック単独	2	6	5	4	6	2	3	2	6	5	3	4	48
	オプション検査	24	72	56	52	70	51	55	40	36	31	39	32	558
	けんぽー一般	49	139	122	138	88	114	107	113	83	89	95	85	1,222
	けんぽー付加	1	2	3	1	2	5	7	8	4	8	2	4	47
	乳がん	5	14	10	23	9	20	21	19	18	10	12	18	179
	子宮がん	3	14	12	25	14	22	23	21	18	7	13	16	188
	子宮がん(20~40歳)	7	3	11	5	2	7	6	2	0	0	4	2	49
	眼底	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計件数	99	265	246	295	263	262	262	231	208	193	214	192	2,730
	金額	1,529,261	3,895,907	4,157,367	5,314,689	5,821,933	4,692,215	4,709,298	4,181,695	4,078,812	3,863,499	4,339,037	3,397,700	49,981,413
	26年度	1日ドック	16	21	31	48	67	33	41	30	25	25	27	397
2日ドック		1	2	5	8	4	4	5	2	1	1	3	41	
脳ドック単独		0	3	0	7	5	2	2	4	2	2	3	1	31
オプション検査		25	51	45	53	66	55	45	36	32	32	19	16	475
けんぽー一般		48	133	140	116	78	124	132	109	102	103	64	1,274	
けんぽー付加		3	2	2	6	4	6	6	4	2	5	5	2	47
乳がん		5	12	15	13	13	20	18	13	18	17	22	20	186
子宮がん		6	11	14	11	12	20	17	16	19	16	21	21	184
子宮がん(20~40歳)		1	5	11	5	2	2	1	1	4	0	2	4	38
眼底		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計件数		105	240	263	267	251	266	267	231	224	200	201	158	2,673
金額		2,092,149	3,739,200	4,900,592	5,564,271	5,443,644	4,703,685	5,102,671	4,485,441	4,008,356	3,540,336	3,407,327	2,882,459	49,870,131
27年度		1日ドック	13	29	39	52	72	38	45	29	20	42	44	445
	2日ドック	2	3	1	4	5	3	2	4	2	3	1	32	
	脳ドック単独	0	2	3	6	9	1	2	4	3	0	1	32	
	オプション検査	33	50	49	66	72	34	52	58	34	37	46	47	578
	けんぽー一般	90	122	153	126	103	110	139	144	101	106	123	84	1,401
	けんぽー付加	6	5	6	7	6	8	4	6	2	4	3	3	60
	乳がん	9	6	17	21	19	16	16	21	20	12	12	12	181
	子宮がん	8	7	16	20	19	16	17	19	17	11	13	11	174
	子宮がん(20~40歳)	4	5	8	6	1	5	2	2	3	2	4	1	43
	眼底	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計件数	165	229	292	308	306	231	279	280	211	195	245	205	2,946
	金額	2,754,544	4,439,416	5,264,062	5,917,451	6,793,423	4,466,583	6,029,677	4,627,520	3,803,122	3,260,852	4,468,148	3,858,880	55,683,678

### 3 中央手術室業務の状況

単位：件

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
内 科			
神 経 内 科	39	33	21
消 化 器 科			
循 環 器 科			
小 児 科	0	0	0
外 科	554	513	514
整 形 外 科	420	422	281
脳 神 経 外 科	64	69	56
皮 膚 科	17	11	8
泌 尿 器 科	185	153	186
産 婦 人 科	114	116	110
眼 科	108	96	88
耳 鼻 い ん こ う 科	2	9	11
放 射 線 科	0	0	0
神 経 科 精 神 科	0	0	0
麻 酔 科	0	0	0
リハビリテーション科	0	0	0
歯 科 口 腔 外 科	40	30	34
合 計	1,543	1,452	1,309

### 4 種類別麻酔件数

単位：件

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
全 身 麻 酔	801	833	738
腰 椎 麻 酔 ・ 硬 膜 外 麻 酔	269	229	203
局 所 麻 酔	473	376	344
そ の 他	0	14	24
合 計	1,543	1,452	1,309

### 5 内視鏡検査件数

単位：件

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
食 道 ・ 胃 ・ 十 二 指 腸	3,383	3,238	3,415
膵 ・ 胆 道	133	124	156
大 腸	977	1,068	1,125
気 管 支	92	85	78
カプセル内視鏡検査	31	25	17
合 計	4,616	4,540	4,791

## 6 周産期医療の状況

### (1) 月別出産等の状況

平成27年度

単位：件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総数	経膈分娩	22	19	31	26	24	19	27	28	25	23	24	11	279
	帝王切開	12	6	5	9	6	9	6	7	7	4	9	4	84
	計	34	25	36	35	30	28	33	35	32	27	33	15	363
時間内	経膈分娩	8	5	8	8	5	3	8	3	6	6	5	0	65
	帝王切開	8	4	5	6	3	3	3	5	3	1	6	3	50
	計	16	9	13	14	8	6	11	8	9	7	11	3	115
時間外	経膈分娩	3	3	11	3	2	2	3	10	6	1	6	5	55
	帝王切開	3	0	0	3	1	1	1	0	0	1	2	0	12
	計	6	3	11	6	3	3	4	10	6	2	8	5	67
深夜等	経膈分娩	11	11	12	15	17	14	16	15	13	16	13	6	159
	帝王切開	1	2	0	0	2	5	2	2	4	2	1	1	22
	計	12	13	12	15	19	19	18	17	17	18	14	7	181

平成26年度

単位：件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総数	経膈分娩	14	25	22	17	20	17	20	16	20	31	24	20	246
	帝王切開	7	10	4	5	6	3	9	12	5	8	8	6	83
	計	21	35	26	22	26	20	29	28	25	39	32	26	329

平成25年度

単位：件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総数	経膈分娩	20	22	31	27	31	16	25	28	33	27	17	14	291
	帝王切開	4	8	2	5	4	10	10	7	6	8	6	7	77
	計	24	30	33	32	35	26	35	35	39	35	23	21	368

時間内：平日 8:30～17:00

時間外：平日 6:00～ 8:30、17:00～22:00

深夜等：平日22:00～ 6:00、土曜日、日曜日、祝日

### (2) 助産師外来の開設状況（延件数）

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度	0	5	3	0	0	0	4	6	4	1	3	0	26
平成26年度	12	19	6	14	8	8	10	9	9	12	10	8	125
平成25年度	21	12	14	19	12	12	21	11	14	14	12	6	168



## 7 薬剤室業務の状況

### (1) 調剤業務の状況

単位：件

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
調 剤 数	外 来	18,090	14,809	15,660
	入 院	66,051	67,249	61,776
	合 計	84,141	82,058	77,436
処 方 箋 枚 数	外 来	8,980	7,788	7,774
	入 院	32,295	32,469	31,889
	合 計	41,275	40,257	39,663

### (2) 服薬指導の状況

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
服 薬 指 導 患 者 数 ( 人 )		1,904	2,051	605
服 薬 指 導 延 回 数 ( 回 )		2,285	2,462	729

### (3) 注射剤調製の状況

単位：件

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
外 来 注 射 ( 化 学 療 法 )		1,206	1,270	1,510
外来注射 (レミケード注他抗リウマチ薬)		156	129	33
入 院 注 射 ( 化 学 療 法 )		241	249	273
入院注射 (レミケード注他抗リウマチ薬)		26	24	0
入 院 注 射 ( 中 心 静 脈 )		0	0	0

### (4) 後発医薬品採用率

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
採 用 率 ( % )		17.0	18.7	20.1
当 院 採 用 の 後 発 医 薬 品 数		220	243	243
当 院 採 用 の 全 医 薬 品 数		1,291	1,297	1,296

採用率 (%) = 当院採用の後発医薬品数 / 当院採用の全医薬品数

## 8 人工透析の状況

単位：人

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
多 人 数 用 装 置		14,987	14,519	14,295
単 身 用 装 置		602	454	559
合 計		15,589	14,973	14,854

平成27年度末現在

患者数 (定期) 96 人

多人数用装置設置台数 22台 (透析センター)

単身用装置設置台数 3台 (MEセンター 2台、HCU 1台)

イーカム用血液浄化機 4台 (MEセンター 3台、HCU 1台)

※単身用装置実績にイーカム用も含む。

## 9 放射線科（室）の状況

### （1）撮影の状況

単位：件

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
一般撮影	36,026	32,380	30,740
尿路撮影（DIP）	99	53	26
透視撮影	1,132	1,170	1,371
血管造影撮影	581	533	539
C T（2台）	12,404	11,860	11,928
M R I（1台）	4,052	3,956	3,755
超音波診断	3,915	3,657	4,108
R I	535	540	504
放射線治療	871	858	397
骨密度測定	1,053	1,102	888
マンモグラフィ	1,643	1,511	1,516
合計	62,311	57,620	55,772

### （2）フィルム及びCD/DVDの使用状況

単位：枚

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
半切CR用	499	548	366
CR－MMG	5,489	5,098	5,238
B4版CR用	109	120	88
CD／DVD	2,207	2,517	2,462
合計	8,304	8,283	8,154

### （3）血管撮影検査の状況

単位：件

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
脳神経外科	66	75	55
循環器科	337	322	325
放射線科	178	136	159
合計	581	533	539

### （4）MRI検査の状況

単位：件

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
院内件数	3,710	3,612	3,452
院外件数	342	344	303
合計	4,052	3,956	3,755
頭部件数	1,924	1,976	2,084
体部件数	2,128	1,980	1,671
合計	4,052	3,956	3,755

### （5）CT検査の状況

単位：件

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
MDC T（CT室①）	5,107	4,417	4,244
MDC T（CT室②）	7,297	7,443	7,684
Single C T（CT室②）			
合計	12,404	11,860	11,928
院内件数	12,101	11,561	11,633
院外件数	303	299	295
合計	12,404	11,860	11,928

## (6) 核医学検査の状況

単位：件

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
脳神経系	脳血 流	51	89	40
	脳血 流 (負 荷)	12	15	2
	脳	1	3	4
	脳 槽			
	シ ャ ン ト フ ロ ー			
循環器系	心 筋 血 流 (同 期)	6	2	1
	心 筋 脂 肪 酸 代 謝	7		1
	心 筋 交 感 神 経	12	9	23
	急 性 心 筋 梗 塞	5	6	2
	代 謝 + 血 流 同 時	37	47	59
	負 荷 心 筋 (運 動)	18	16	17
	負 荷 心 筋 (薬 剤)	63	30	27
	心 プ ー ル	1		
	四 肢 血 流 (上 肢)			
	四 肢 血 流 (下 肢)	2	5	1
	静 脈 血 栓		1	
循 環 血 漿 流 量				
呼吸器系	肺 血 流	1	6	2
	肺 換 気		4	1
	静 脈 血 栓	1	1	
消化器系	肝			
	胆 道			
	唾 液 腺	2	1	3
	メ ッ ケ ル 憩 室	1	1	
	蛋 白 漏 出 試 験	1		
	異 所 性 胃 粘 膜			
	胃 排 泄 能 試 験			
	門 脈 循 環 短 絡			
消 化 管 出 血				
内分泌系	甲 状 腺			2
	副 甲 状 腺	9	2	6
腎尿路系	レ ノ グ ラ ム	5	5	4
	レ ノ グ ラ ム (負 荷)	2	4	2
	腎	1	9	8
	副 腎	4	2	1
	精 巢			
全身検索系	骨	229	212	242
	腫 瘍 ・ 炎 症	58	64	54
	骨 髄		1	
	リ ン パ 節	6	5	2
	筋 血 流			
合 計		535	540	504

## (7) 放射線治療の状況

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
新 患 数 (人)	37	33	16
延 治 療 件 数 (件)	871	858	397

## (8) マンモグラフィー

単位：件

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
ドック件数	322	323	349
ドック外件数	1,321	1,188	1,167
合計	1,643	1,511	1,516

## (9) 骨密度検査の状況

単位：件

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
延件数	1,053	1,102	888

## (10) エコー検査の状況

単位：件

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
頸部	431	433	442
頸部血管	225	178	223
乳腺	1,340	1,134	1,347
腹部	1,672	1,647	1,805
四肢血管	231	232	247
その他	26	33	44
合計	3,925	3,657	4,108

## (11) 透視検査の状況

単位：件

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
ドッグ、健診外科胃透視	131	141	169
胃がん個別検診	125	126	119
消化管（注腸含む）	208	252	253
肝胆道	153	170	212
胸部、IVH挿入	47	23	71
腎尿路系	113	117	118
整形領域	83	101	98
内視鏡併用	132	116	231
その他	140	124	100
合計	1,132	1,170	1,371

## 10 臨床検査の状況

### (1) 各種検査件数

単位：件

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
病 理 検 査	4,676	4,711	4,448
細 菌 検 査	6,649	6,390	7,013
生 化 学 検 査 ( 項 目 数 )	934,758	936,811	975,847
血 液 検 査	63,204	62,862	64,112
検 尿 検 査	35,792	36,013	38,062
免 疫 検 査 ( 項 目 数 )	49,220	49,624	48,211
輸 血 検 査	4,113	4,197	4,075
生 理 学 的 検 査	24,392	23,686	23,874
そ の 他 ( 項 目 数 )	49,242	45,607	29,907
合 計	1,172,046	1,169,901	1,195,549

### (2) 生理機能検査件数

単位：件

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
1 2 誘 導 心 電 図 検 査	13,942	13,644	13,857
3 分 間 心 電 図	109	59	78
マ ス タ ー 負 荷 心 電 図	554	548	574
ト レ ッ ド ミ ル 検 査	8	13	14
ホ ル タ ー 心 電 図	268	236	185
心 臓 超 音 波	3,230	3,404	3,223
経 食 堂 心 臓 超 音 波	9	13	10
脳 波 検 査	243	227	201
神 経 電 導 検 査	226	217	135
聴 性 脳 幹 反 応	18	21	11
ス パ イ ロ メ ト リ ー	1,791	1,654	1,615
可 逆 性 試 験	92	100	95
精 密 肺 機 能 検 査	11	9	19
A B I / P W V	653	596	529
C V R - R	65	54	92
心 臓 カ テ ー テ ル	332	302	303
O D テ ス ト	40	25	58
終夜睡眠ポリグラフィー(簡易)	5	4	1
終夜睡眠ポリグラフィー	24	23	24
聴力(検査室で施行)	1,653	1,621	1,876
耳鼻咽喉科依頼聴力検査	822	621	623
自動ABR(新生児聴力検査)	297	292	342
6 分 間 歩 行 検 査		3	9
合 計	24,392	23,686	23,874

### (3) 血液製剤使用量 (単位数)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
赤血球	1,872	1,664	1,636
血小板	850	480	580
新鮮凍結血漿	108	144	276
自己血	12	12	4
アルブミン	3,982	3,494	3,274
合計	6,824	5,794	5,770

### 1.1 リハビリテーションの状況

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
運動 (単位)	36,224	38,163	48,828
水治療 (件)	147	424	408
物理 (件)	1,316	1,247	1,040
作業 (単位)	20,452	26,994	20,872
装具 (件)	4	5	8
言語 (単位)	9,427	6,983	8,572
摂食 (単位)	317	1,821	2,130
合計	67,887	75,637	81,858

## 1 2 患者給食及び栄養指導の状況

単位：食

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
普通食	通常	43,482	36,631	34,816
	軟食	65,679	69,233	65,476
	流動食	1,842	1,943	2,149
	小計	111,003	107,807	102,441
特別食	外来透析	392	438	278
	その他	116,275	114,357	114,645
	小計	116,667	114,795	114,923
付添食		397	437	572
合計		228,067	223,039	217,936

		平成25年度	平成25年度	平成27年度
栄養指導 (件)	個人指導	533	411	507
	集団指導	22	20	10
	N S T	168	124	89
	透析予防	0	9	14
	合計	723	564	620

## 1 3 死亡患者数及び病理解剖件数

	死亡患者数 (人)			病理解剖件数 (件)			病理解剖検査率 (%)		
		男	女		男	女		男	女
平成18年度	262	147	115	11	3	8	4.2	2.0	7.0
平成19年度	288	170	118	16	9	7	5.6	5.3	5.9
平成20年度	300	199	101	12	10	2	4.0	5.0	2.0
平成21年度	252	156	96	12	9	3	4.8	5.8	3.1
平成22年度	226	142	84	10	8	2	4.4	5.6	2.4
平成23年度	212	118	94	4	2	2	1.9	1.7	2.1
平成24年度	222	129	93	10	4	6	4.5	3.1	6.5
平成25年度	204	126	78	4	3	1	2.0	2.4	1.3
平成26年度	236	145	91	12	6	6	5.1	4.1	6.6
平成27年度	292	173	119	3	2	1	1.0	1.2	0.8

## 1 4 医療福祉相談の状況

### (1) 医療相談の状況

単位：件

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
診療に関すること	33	194	128
療養生活に関すること	3,103	3,464	3,721
医療費に関すること	9	5	1
制度について	72	104	114
セカンドオピニオン	2	3	5
その他の	6	33	38
合計	3,225	3,803	4,007

※「療養生活に関すること」は退院支援の相談を含む

### (2) 病院に対するご要望の状況

単位：件

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
診療に関すること	10	6	5
職員の対応に関すること	6	6	4
設備・システムに関すること	2	1	1
医療費に関すること	0	0	1
その他の	0	0	0
合計	18	13	11

### (3) 入院説明・案内の状況

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
入院説明をした患者数（人）	3,327	3,935	4,349
全入院に対する割合（％）	61.4	75.0	79.8
病棟案内をした患者数（人）	1,906	1,754	1,552
全入院に対する割合（％）	35.2	33.4	28.5

### (4) ボランティアの活動状況

（平成27年度）

○活動人数 20名

○活動時間 午前8時～午後0時

○活動状況

- ・活動延べ人数 683人
- ・活動延べ日数 242日
- ・一日平均活動人数 2.8人

○活動内容

- ・新規患者受付の案内
- ・再診受付機の案内
- ・自動精算機の案内
- ・車椅子の介助及び整備（空気入れ等）
- ・各科外来、検査室への案内
- ・受診の付添い、手伝い
- ・入院時の病棟への案内
- ・正面玄関フロア、病院前バス停の清掃
- ・エレベータ昇降時の見守り
- ・子供連れの方への受診の手伝い

## 1 5 地域医療連携の状況

### (1) 紹介及び逆紹介の状況

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
全診療情報提供書受理数（件）	6,330	6,249	6,399
紹介患者（初診）（人） A	4,280	4,057	4,052
初診料算定患者（人） B	17,054	15,879	15,896
外来初診後即入院患者（人） C	1,250	949	987
外来時間外初診患者（人） D	5,043	4,537	4,597
逆紹介数（診療情報料算定）（件） E	5,451	5,534	4,897
紹介率（％） ※1	46.0	39.0	39.3
逆紹介率（％） ※2	45.4	53.2	47.5

26.27年度（C：救急車搬送者初診のみ）

※1 紹介率（％） =  $[A / \{B - (C+D)\}] * 100$

※2 逆紹介率（％） =  $[E / \{B - (C+D)\}] * 100$

25年度

※1 紹介率（％） =  $[(A+C) / (B-D)] * 100$

※2 逆紹介率（％） =  $[E / (B-D)] * 100$



(2) 開放型病床の状況

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
利用医師数(実人数)	107(19)	103(15)	127(20)
利用患者数(実人数)	3,727(157)	3,676(110)	5,005(343)
利用率(%)(*3)	81.7	67.2	91.2

(\*3) 利用率= ((開放型病床に入院した患者の診療を担当している  
保険医の紹介による延べ入院患者数) / (開放型病床数×365日)

※平成25年10月、10床から15床へ増床

(3) 亜急性期病床等の状況

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
亜急性期病床(28床)	患者数(人)	320	185	
	延日数(日)	6,584	2,588	
地域包括ケア病棟(71床)(*4)	患者数(人)		247	686
	延日数(日)		5,695	15,702

(\*4) 平成26年10月から35床で運用開始、平成27年10月から71床へ増床

(4) 退院支援の状況

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
退院援助依頼票総数(件)	599	447	421
退院支援人数(年間)	1,161	1,233	1,432
退院支援人数(月平均)	97	103	119
退院支援介入の退院率(%)	84	89	94
退院時担当者会議(回)	241	284	279

支援介入退院率：新規退院支援介入の退院者数/退院支援介入者数(新規)

(5) 地域連携パスの状況

単位：人

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
大腿頸部骨骨折連携パス	(14)	11	19
脳卒中地域連携パス	19	12	9
急性心筋梗塞・狭心症連携パス	6	18	17

( )は当院独自のパス

(6) ふくいメディカルネット運用件数

単位：件

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
二州地区閲覧病院		173(55)	270(149)
その他地区閲覧病院		2(0)	3(0)
開示病院		21(11)	19(9)
合計		196(66)	292(158)

( )は当院の同意取得件数

16 医療安全の状況

(1) インシデント・アクシデントレポートの提出状況

単位：枚

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
薬剤	582	516	348
輸血	5	3	0
治療・処置	122	111	67
ドレーン・チューブ	168	124	110
検査	215	161	133
療養上の世話	147	178	89
医療機器等	72	81	36
転倒	184	158	160
転落	37	46	26
その他	136	100	81
合計	1,668	1,478	1,050

# 17 院内がん登録の状況（平成26年1月～12月）

単位：件

## (1) 部位別院内がん登録状況

部位	総数	治療開始後	初発	性別		入院の有無		STAGE別						治療の有無			
				男	女	有	無	0	I	II	III	IV	その他	外科的	体腔的	内視鏡的	
																	男
口唇・咽頭	4	3	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食道	6	0	6	5	1	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
胃	36	1	35	27	8	31	4	0	19	3	4	6	3	10	5	8	0
小腸	3	1	2	1	1	2	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0
結腸	46	1	45	29	16	43	2	3	8	8	10	15	1	23	12	6	0
直腸	15	1	14	9	5	11	3	1	3	5	3	1	1	8	1	2	0
肝臓	11	1	10	7	3	8	2	0	7	1	0	1	1	2	0	0	0
胆嚢・胆管	9	0	9	4	5	7	2	0	1	3	2	3	0	2	1	1	0
膵臓	15	1	14	9	5	8	6	0	3	2	4	5	0	0	0	4	0
その他部位不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鼻腔・中耳・副鼻腔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
喉頭	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肺・気管支	47	4	43	31	12	32	11	0	21	1	9	12	0	1	9	0	0
骨・軟部組織	3	2	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
皮膚	14	1	13	6	7	6	7	5	7	1	0	0	0	12	0	0	0
乳房	46	5	41	0	41	35	6	7	15	14	4	1	0	38	0	0	0
子宮頸部	11	2	9	0	9	4	5	3	4	0	1	0	0	4	0	0	0
子宮体部	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
卵巣	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前立腺	49	4	45	45	0	7	38	0	19	8	8	8	2	2	0	1	0
腎	2	0	2	0	2	2	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0
腎盂・尿管	4	1	3	0	3	2	1	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0
膀胱	16	0	16	12	4	15	1	2	5	8	1	0	0	2	0	14	0
脳・神経	4	0	4	1	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甲状腺	3	1	2	2	0	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0
リンパ腫・骨髄腫	16	4	12	6	6	6	6	0	2	2	1	3	4	3	1	0	0
白血病	5	3	2	1	1	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
骨髄増殖性疾患	4	1	3	3	0	1	2	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
原発部位不明	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の	2	1	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
合計	376	42	334	201	133	229	105	21	125	58	50	58	22	112	33	38	0

※院内がん登録は、当院初発がん患者を対象としており、性別、入院の有無、ステージ別及び治療の有無については、初発がん患者の内訳となっている。

(2) 経緯別院内がん登録の状況

単位：件

来院経路	登録数
自 主	112
他 院 よ り 紹 介	165
が ん 検 診 よ り 紹 介	0
健 康 診 断 よ り 紹 介	0
人 間 ド ッ ク よ り 紹 介	0
自施設で他疾患の経過観察中	98
剖 検 発 見	0
そ の 他	1
不 明	0
合 計	376

発見経緯	登録数
が ん 検 診	20
健 康 診 断 ・ 人 間 ド ッ ク	18
他 疾 患 の 経 過 観 察 中	125
剖 検 発 見	0
そ の 他 ・ 不 明	213
合 計	376

症例区分別	登録数
診 断 の み	53
自施設診断（自施設治療）	268
他施設診断（自施設治療）	13
他施設診断にて（治療開始後）	42
剖 検 の み	0
不 明	0
そ の 他	0
合 計	376

## 18 救急蘇生災害医療部会（災害部門）の活動状況

目的：災害時、病院職員が適切な行動がとれ、1人でも多くの命を守ることができること

目標：病院の防災機能の向上を図る

- ① 救急蘇生・災害医療部会の運営方法の検討
- ② 災害マニュアルの拡充、策定
- ③ 院内緊急連絡網の整備
- ④ 災害対策訓練の実施、運営

月	部会の活動	院内訓練・講演会
4月	第1回部会(4/9) ※新年度の目標設定 ※年間活動計画の承認	
5月	第2回部会(5/14) ※WGからの報告について	ICLS講習会(5/23)
6月	第3回部会(6/11) ※WGからの報告について	
7月	第4回部会(8/13) ※中止	
8月	第5回部会(8/13) ※WGからの報告について	
9月	第6回部会(9/10) ※WGからの報告について ※災害対策訓練について	ICLS講習会(9/19) BLS講習会(9/24)
10月	第7回部会(10/8) ※WGからの報告について ※災害対策訓練について	BLS講習会(10/29)
11月	第8回部会(11/12) ※WGからの報告について ※災害対策訓練の振り返り	災害対策訓練(11/8)
12月	第9回部会(12/10) ※WGからの報告について ※災害訓練後のアンケートについて	
1月	第10回部会(1/14) ※WGからの報告について ※院内災害対策本部のあり方	
2月	第11回部会(2/11) ※中止	ICLS講習会(2/13) JMACC講習会(2/13)
3月	第12回部会(3/12) ※WGからの報告について ※今年度の活動について	消防設備説明会(3/18)

※部会内のWGで、院内防災ラウンド、災害対策マニュアルの改善等を議論した。

## 19 救急蘇生災害医療部会（救急部門）の活動状況

本部会は、院内における救急蘇生の技術向上を目的として活動している。前年度に引き続きICLSコースの教育と参加を重点目標とした。

### 《活動計画》

#### (1) ICLS講習会（年3回）

市外から受講生やインストラクター参加の協力を呼びかけて、講習会開催の地域拠点として活動していく。また、より多くの職員に参加してもらう為に、前年度に引き続き、年3回実施する。

#### (2) BLS講習会 講習会未受講の職員を対象に実施する。

#### (3) 救急カートの点検・整備 救急カートの点検・整備を実施する。

### 《年間活動》

#### (1) ICLS講習会

第18回 平成27年 5月23日 参加人数 48名（うち受講人数 18名）

第19回 平成27年 9月19日 参加人数 49名（うち受講人数 17名）

第20回 平成28年 2月13日 参加人数 34名（うち受講人数 12名）

#### (2) BLS講習会

全2回開催 平成27年 9月24日、10月29日

参加者総数 20名

対象者 臨床検査技師 ほか

#### (3) 救急カートの整備・点検

救急カートの整備後の巡視点検を実施

実施月 平成27年6月、平成27年9月、平成27年10月、平成28年2月

### 《活動の振り返り》

#### (1) ICLS講習会

ICLS講習会は前年度と同様に3回開催し、多くの職員の参加があった。今後も継続していく事業であり、院外への広報活動にもさらに力を入れていきたい。

#### (2) BLS講習会

講習を受講していなかった職員に対し実施した。今後も講習会を継続して開催し、より多くの職員が参加できる機会を提供していきたい。

#### (3) 救急カートの整備・点検

救急カートの定期的な点検を実施した。今後も定期的な点検をしていきたい。

## 20 DMATの活動状況

### ○隊員の状況 2チーム

平成27年度末現在 単位：人

医師※1	看護師※2	業務調整員※3	計
4	6	3	13

※1 統括DMAT 1名含む ※2 助産師1、看護師5

※3 臨床検査技師1、診療放射線技師1、臨床工学技士1

### ○定例会の実施状況

開催日	内容
毎月第2木曜日	研修、訓練の企画及び参加打ち合わせ等

### ○緊急対応

- ・なし

### ○研修、訓練への参加状況

- ・ 隊員養成研修、統括DMAT研修

年月日	研修・訓練内容
H27.9.16(水)～19(土)	災害派遣医療チーム(DMAT)研修 看護師1名受講

- ・ 技能維持研修(DMAT個人更新要件)

なし

- ・ ブロック実働訓練(DMATチーム更新要件)

年月日	研修・訓練内容
H27.11.8(日)～9(月)	中部ブロックDMAT実働訓練(福井県) 12名参加 医師3名、看護師6名、業務調整員3名

- ・ その他の研修、訓練 等

年月日	研修・訓練内容
H27.7.16(木)～19(日)	第14回福島災害医療セミナー(福島県) 看護師1名受講
H27.8.30(日)	福井県総合防災訓練(小浜市) DMAT1隊参加(医師2名、看護師2名、業務調整員2名)
H27.10.10(土)～11(日)	都道府県災害医療コーディネート研修(東京) 医師1名受講
H27.10.16(金)	被ばく医療訓練(小浜市・越前市) 業務調整員1名、診療放射線技士1名参加

H27.10.18（日）	近畿府県合同防災訓練（京都府） DMAT 1 隊参加（医師 1 名、看護師 2 名、業務調整員 2 名）
H28.2.28（日）	全国災害拠点病院連絡会議（山形県） 医師 1 名出席
H28.3.1（火）	福井県DMAT等連絡協議会（福井市） 医師 1 名出席
H28.3.23（水）	福井県災害医療コーディネート研修（福井市） 業務調整員 2 名受講
※その他、院内部署机上訓練等に参画	

## 2 1 感染対策の状況

### 1 ICT（感染制御チーム）活動

- (1) カンファレンス  
週 1 回（毎月曜日） 10:30～11:30
- (2) ICT ラウンド  
月 2 回（第 1、第 3、第 5 月曜日） 14:00～15:30
- (3) ICT メンバー及び感染リンクスタッフによる環境ラウンド  
月 2 回（第 2 水曜日） 13:00～14:00  
（第 4 水曜日） 16:45～17:45
- (4) 適宜ラウンド  
サーベイランスで感染率が増加した場合
- (5) 感染防止対策加算 1（算定医療機関の相互連携）（カンファレンス及びラウンド）
  - ・年 1 回実施  
福井県立病院と連携（平成 27 年 7 月 8 日、8 月 31 日）  
福井県合同カンファレンス（平成 27 年 6 月 19 日、11 月 20 日）
- (6) 感染防止対策地域連携加算（当院と感染防止対策加算 2 算定医療機関との連携）  
（カンファレンスおよびラウンド等）
  - ・年 4 回実施：泉ヶ丘病院  
（平成 27 年 5 月 25 日、7 月 28 日、9 月 29 日、12 月 15 日）

## 2 研修・教育

### 【院内】

- (1) 感染対策講習会（年 2 回以上）：全職員対象（不参加者はレポート提出）
  - 1 回目：7 回実施（不参加者は資料を見て問題を回答し提出）
    - 6 月 22 日（17:30～18:00）、6 月 24 日（17:30～18:00）
    - 6 月 25 日（12:30～13:00）、6 月 25 日（15:30～16:00）
    - 6 月 26 日（12:30～13:00）、6 月 26 日（15:30～16:00）
    - 6 月 29 日（17:30～18:30）

「当院の MERS についての対応と対策」・・・参加率 99%

講師 感染対策委員長 診療部長 高橋秀房
  - 2 回目：8 回実施（不参加者は資料を配布）
    - 11 月 30 日（12:15～12:45）、（17:30～18:30）
    - 12 月 1 日（12:15～12:45）、（17:30～18:30）
    - 12 月 2 日（12:15～12:45）、（15:00～15:30）（17:30～18:30）  
（18:30～19:30）

「針刺し時に HIV 感染対策について、標準予防策、手指消毒使用量」…参加率 99%

講師 感染対策委員長 診療部長 高橋秀房

講師 感染管理認定看護師 看護師長 小堀和美
- (2) シュミレーション研修「MERS 疑い患者の搬送から受け入れ」平成 27 年 6 月 16 日  
二州健康福祉センターと合同で実施



## 【院外】

### (1) 地域での研修会・講習会

①地域学習会 平成 27 年 10 月 16 日

「冬季の流行感染症の予防について-インフルエンザ・ノロウイルス感染症のQ & A-」  
・・・小堀和美

②出前講座 平成 27 年 10 月 19 日

「冬季の流行感染症の予防について」・・・小堀和美

③出前講座 平成 27 年 11 月 10 日

「精神科病棟での感染対策」・・・小堀和美

④感染症予防教室 平成 27 年 11 月 11 日

「施設における感染対策について」・・・小堀和美

### (2) 環境感染学会 発表 平成 28 年 2 月

「手術室看護師の清潔・不潔の意識向上のためのとりくみ」—手術時手洗いの評価より—  
・・・田中恵実

### (3) 嶺南インフェクションコントロール 平成 28 年 2 月 6 日

「施設ラウンドの報告より」・・・小堀和美

## 3 感染リンクスタッフ会活動

### (1) 活動目標

①環境ラウンドを行い、部署の問題点を改善につなげる

②環境ラウンドを他部署と比較することにより、自部署の環境整備を見直す

③環境ラウンドを、ナース以外の他職種とラウンドすることで、部署内の環境整備に対する意識を向上させる

④グループで活動を行い、自主的に問題点を見つけ改善する意識を持つ

⑤最終で活動報告を行うことで、感染リンクスタッフの活動を他者に理解してもらい、スタッフは感染対策に関する意識を高める

### (2) 組織メンバー

看護師長：内野師長、八木師長、小堀師長

委員長：百田美樹子（外来）

副委員長：宮山明里（歯科口腔外科）

メンバー：向井彩佳（7F）、山本朋子（6F）、藤田亜紀（5F）、角野良美（4F）、  
中村ひとみ（3F）、安田泉（北 3F）、小保沙織（北 4F）、中村和代（北 5F）、  
上野奈美（HCU）、田中恵実（OP 室）、森野舞（透析）高木隆幸（リハビリ室）、  
佐藤友美（薬剤室）、高島和佳（検査室）、比田羽美（栄養管理室）、  
古川勝太（医療サービス課）

### (3) 活動日時

第 2 水曜日（13:00～14:00）：環境ラウンド（リンクナース活動）

第 4 水曜日（16:45～17:45）：グループ活動（他職種と合同で活動）

### (4) 活動内容

#### 1) 環境ラウンド（第 2 水曜）

##### ①活動内容

各部署、院内環境ラウンドを実施し、点数化して出来ていない部分は改善。

## ②結果

- ・環境ラウンドを実施して、90点を下回る事がなくなった。
- ・点数をグラフ化し、自部署の問題点が明確になった。
- ・改善後の確認ができていないことで、同じ項目が何回も指摘事項となることもあった。

## 2) グループ活動（第4水曜日）

### ①活動内容

- 1G：手指消毒量の使用量UPに向けて
- 2G：感染対策（経路別予防策）のマニュアル作成
- 3G：気管内吸引、口鼻腔吸引手技の統一に向けて
- 4G：他部署環境ラウンド ビフォー&アフター

### ②結果

- 1G：平成26年度の発表で手指消毒の回数を実験し、必要量2プッシュを推奨するように啓蒙したが、意識調査の結果では、2プッシュを行っている職員は半数程度であった。外来手指消毒量を調査しても使用量は全体に少ないが、部署によっては多い部署もあり、意識の差があると考え、再度2プッシュの啓蒙活動として、手指消毒剤に推奨札を取り付けて啓蒙を行った。
- 2G：日頃の業務の中で、感染対策を行う時に、どう対策していいのかわかることが多く、一目で分かる一覧表を作成することで、統一した感染対策を行うことができると考えた。作成した一覧表は標準予防策の土台を基に、感染経路別の予防策をプラスしたもので、具体的で見やすく分かりやすいものを作成した。次年度は一覧表の活用した結果を評価していく。
- 3G：平成26年度、ビデオでのマニュアル作成し、各部署でリンクナース中心に実践指導を行い、気管内吸引のチューブ単回使用を実践した。今年度手技の評価を行った。マスク装着についての習慣化や、素手で吸引ダイヤルを回すことの意識が薄いことが分かり、再度教育を行い、手技の統一を行った。
- 4G：放射線部、リハビリ室、歯科口腔外科へラウンドを実施。各部署、問題点に対して改善できた。次年度はラウンドの継続とフィードバックの方法を検討する。

## (5) 課題

他職種を入れたグループ活動は3年目となり、活動に幅が広がってきた。しかし、感染リンクスタッフとして自分達の感染に関する知識が低いことが課題としてあがった。また、部署では感染リンクスタッフ任せになって、他の職員が感染対策を正しく実践するという意識も薄い。その時に感染リンクスタッフが指導できるようになるためには、知識の向上と正しい技術の提供を理解する必要がある。次年度は、知識向上のための勉強会も年間計画の中で定期的には実施していく。

活動報告を発表の場も3年目を迎え、リンクスタッフ活動を発表することが一つの目標となってきた。継続して行うことで、全職員への活動の理解も広がっている傾向にある、活動は、楽しくそして正しく理解して感染対策のリーダーシップを取ることができるような活動を目指していきたいと思う。

## 2.2 TQM委員会の活動状況

当院における医療及び業務の質の向上を図り、良質な医療を提供するため、平成21年5月に当該委員会を設置した。平成27年度は、9のサークルが、問題、課題を設定し、研究・打合せを重ね、平成28年2月26日のTQM大会において、院内職員に向けて発表した。

また、特別発表枠として、医師、薬剤師、看護師から成るサークルが、内服薬に関する取り組みを発表した。

<発表詳細>

発表順	テーマ	サークル名・発表者
1	検査室ロケット ー情報共有計画ー	おひさま. comm 寺島 美佳子 (検査室)
2	チームの輪を膨らまそう！	JTA 土田 尚治 (リハビリテーション室)
3	劇的ビフォーアフター ～患者さんと向きあう時間を確保しよう！！～	時間使いの匠 (見習い) 柴田 暁子 (6階病棟)
4	私たちのWLB (ワークライフバランス) 改善案 ♪ ～業務改善で残業時間を減らしたい～	チーム 私たちもカエル 宮本 佳菜子 (7階病棟)
5	乳がん患者様がハッピー退院されるまで ～まいにち、指導～	田辺里江病棟 川越 奈緒美 (7階病棟)
6	在庫管理のスリム化 浄化大作戦！！	荒木丸 大久保 康広 (薬剤室)
7	放射線防護具全頭検査	プロテクターズ 辻 拓郎 (放射線室)
8	安心して下さい。続けますよ！！ ～ピクトグラムの導入に向けた取り組みへ～	とにかく明るいチーム匠 山内 春花 (5階病棟)
参考 発表	外来業務の効率化	秘の泌 ver. 7 澤田 樹佳 (泌尿器科)
特別 発表	5階病棟 内服薬の取組み ～飲み間違いゼロを目指して～	細田 哲也 (脳神経外科) 大久保 康広 (薬剤室) 稲垣 香緒里 (5階病棟)

<審査結果>

1位：プロテクターズ

2位：田辺里江病棟

3位：おひさま. comm

TQM委員長賞：時間使いの匠 (見習い)



# V DPCの概要



# 1 D P C 係数の状況

(平成28年6月)

係 数	内 訳	平成28年度
機能評価係数 I	臨床研修病院入院診療加算1	0.0012
	診療録管理体制加算	0.0027
	医師事務作業補助体制加算1 (20 : 1)	0.0201
	急性期看護補助体制加算 (25 : 1) 5割未満	0.0340
	医療安全対策加算 1	0.0026
	感染防止対策加算1	0.0122
	感染防止対策地域連携加算	0.0031
	検体検査管理加算 II	0.0025
	データ提出加算 2	0.0040
	機能評価係数 I 計	0.0824
機能評価係数 II	保険診療係数	0.00806
	効率性係数	0.00674
	複雑性係数	0.00738
	カバー率計数	0.00610
	地域医療係数	0.01398
	体制評価係数	0.00506
	定量評価係数 (小児)	0.00468
	定量評価係数 (小児以外)	0.00424
	救急医療指数	0.00687
	後発医薬品係数	0.00942
	重症度係数	0.00796
機能評価係数 II 計	0.0665	
(暫定) 調整係数		0.0175
基礎係数	医療機関群 III	1.0296
医療機関係数	合計	1.1960

## 2 DPC/PDPSにおけるMDC2析分類

	MDC2析コード	件数	平均在院 日数(日)	入院期間率				DPC 1日当り 平均(円)
				入院期間Ⅰ	入院期間Ⅱ	入院期間Ⅲ	入院期間Ⅲ超	
01	神経系疾患	341	27.4	15.80%	32.60%	45.20%	6.50%	41,528
02	眼科系疾患	84	2.1	1.20%	0.00%	1.20%	0.00%	105,803
03	耳鼻咽喉科系疾患	121	5.8	9.10%	36.40%	35.50%	0.00%	33,201
04	呼吸器系疾患	755	19.4	20.10%	40.90%	32.60%	5.40%	35,106
05	循環器系疾患	536	14.4	14.20%	49.80%	33.00%	2.80%	60,688
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	1,005	13.7	14.90%	31.60%	35.20%	3.90%	47,980
07	筋骨格系疾患	151	22.6	14.60%	43.00%	35.80%	6.60%	47,281
08	皮膚・皮下組織の疾患	121	11.1	22.30%	52.10%	23.10%	1.70%	32,525
09	乳房の疾患	36	12.1	5.60%	50.00%	36.10%	0.00%	71,138
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	125	15.3	20.00%	32.80%	42.40%	2.40%	31,363
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	626	12.2	17.40%	35.60%	33.10%	4.30%	39,806
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	354	11.9	29.10%	23.70%	42.10%	3.70%	35,246
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	43	19.0	25.60%	41.90%	25.60%	7.00%	50,203
14	新生児疾患、先天性奇形	124	8.6	8.90%	62.90%	24.20%	1.60%	29,994
15	小児疾患	96	5.5	18.80%	51.00%	29.20%	0.00%	36,112
16	外傷・熱傷・中毒	366	18.0	23.50%	32.50%	36.90%	6.00%	43,233
17	精神疾患	9	3.6	33.30%	11.10%	0.00%	0.00%	44,706
18	その他	155	17.4	24.50%	31.60%	29.70%	5.80%	53,374
統計		5,048	15.3	17.80%	36.80%	34.30%	4.10%	43,414



## VI 固定資産状況



## 1 有形固定資産の取得状況

平成24年度

単位：円

品名	メーカー名	金額	備考
全身用X線断層撮影装置	東芝メディカルシステムズ(株)	104,790,000	放射線科
超音波診断装置外	東芝メディカルシステムズ(株)外	12,893,625	リハビリテーション科

平成25年度

人工腎臓装置	日機装(株)	4,462,500	透析センター
超音波画像診断装置	東芝メディカルシステムズ(株)	42,210,000	検査室
臨床化学自動分析装置	フィリップス	37,590,000	検査室

平成26年度

医療情報システム	富士通(株)	124,200,000	情報システム室等
人工腎臓装置	日機装(株)	69,660,000	人工透析室
透析室ベッド	パラマウントベッド(株)	12,657,600	人工透析室
超音波画像診断装置	東芝メディカルシステムズ(株)	6,480,000	検査室
ポータブルX線撮影装置	(株)日立メディコ	4,860,000	放射線科

平成27年度

放射線医用画像情報システム	富士フィルム(株)等	65,880,000	放射線科
分娩監視装置	アトムメディカル(株)	1,522,800	北診療棟
保育器	アトムメディカル(株)	4,266,000	北診療棟
開放型保育器	アトムメディカル(株)	3,423,600	北診療棟
電動ベッド	パラマウントベッド(株)	8,736,984	各病棟
人工呼吸器	フクダ電子(株)	3,771,360	MEセンター
ベッドバンウォッシャー	小川医理器(株)	4,714,200	本館診療棟

## 2 主要医療機器の設置状況

単位：千円

設置場所	品名	取得年月	数量	金額
中央手術室・中央材料室	手術顕微鏡	平成6年8月	1	31,500
内科外来	血管連続撮影装置	平成7年1月	1	248,640
	心拍変動スペクトラシステム	平成7年6月	1	21,788
本館6階病棟	患者監視システム(16人用)	平成8年5月	1	24,150
	X線骨密度測定器	平成9年11月	1	22,890
薬剤室	核医学診断装置 (デジタルガンマカメラシステム)	平成9年12月	1	139,650
	全自動錠剤分包機・薬袋印字機	平成11年6月	1	29,715
内科外来	多チャンネル心電図解析記録装置	平成11年7月	1	29,925
検査室	多項目自動血球分析装置	平成13年12月	1	34,755
放射線科	デジタルガンマカメラ	平成14年11月	1	108,150
放射線科	医用リニアアクセレータ	平成17年3月	1	382,725
	位置決め用全身用X線CT装置	平成17年3月	1	68,040
	二方向型循環器撮影装置	平成17年3月	1	154,875
中央手術室・中央材料室	アルファマック手術台	平成17年6月	6	57,918
	高圧蒸気滅菌装置 (クリーン蒸気発生器付)フロアーローディングカート	平成17年6月	1	22,365
	低温プラズマ滅菌システム	平成17年6月	1	28,350
北診療棟5階	胎児集中監視システム	平成17年7月	1	23,520
放射線科	多目的オールデジタルX線テレビ装置	平成17年7月	1	66,150
HCU	患者情報統合システム外	平成17年7月	1	33,075
	生体情報モニタ・ベットサイドモニタシステム	平成17年7月	1	23,625
	心血管用超音波診断装置	平成17年7月	1	29,400
放射線科	全身用X線断層撮影装置	平成17年11月	1	236,250
中央手術室・中央材料室	高圧蒸気滅菌装置セミフロアーローディングカート	平成17年11月	1	23,373
放射線科	循環器用画像保存装置	平成17年11月	1	23,625
本館7階病棟	無菌病室	平成18年3月	1	45,150
泌尿器科	体外衝撃波結石破碎装置	平成18年3月	1	69,090
検査室	採血管準備システム	平成18年3月	1	22,575
心エコー室	超音波診断装置	平成18年7月	1	36,698
放射線科	尿路系X線撮影システム外	平成18年8月	1	23,415
検査室	生理検査・採血患者案内情報システム	平成18年9月	1	21,945
高気圧酸素治療室	高気圧酸素治療装置	平成18年10月	1	31,899
内視鏡室	内視鏡システム	平成23年11月	1	45,675
放射線科	磁気共鳴断層撮影装置	平成24年3月	1	153,300
放射線科	全身用X線断層撮影装置	平成24年12月	1	104,790
検査室	超音波画像診断装置	平成25年10月	1	42,210
検査室	臨床化学自動分析装置	平成25年11月	1	37,590
情報システム室等	医療情報システム	平成27年3月	1	124,200
人工透析室	人工腎臓装置	平成27年3月	1	69,660
放射線科	放射線医用画像情報システム	平成28年2月	1	65,880

### 3 企業債・減価償却の状況

#### (1) 企業債の年度別状況

単位：千円

	発行総額	当年度償還高	償還高累計	未償還残高	企業債利息
平成21年度	9,587,400	338,179	3,085,481	6,501,919	195,020
平成22年度	9,330,400	386,795	3,215,276	6,115,124	183,512
平成23年度	9,330,400	405,160	3,620,436	5,709,964	170,995
平成24年度	9,330,400	418,245	4,038,681	5,291,719	157,910
平成25年度	9,210,400	458,245	4,367,926	4,842,474	144,392
平成26年度	9,370,300	401,705	4,616,730	4,753,570	129,915
平成27年度	9,482,100	415,858	5,032,588	4,449,512	116,345

#### (2) 減価償却額の年度別状況

単位：千円

	建物	構築物	器械・備品	車両	リース資産	無形固定資産	減価償却費合計
平成21年度	204,784	2,724	63,498	144			271,150
平成22年度	202,702	2,609	44,361	0			249,672
平成23年度	195,740	2,290	35,004	0			233,034
平成24年度	195,789	1,950	28,329	0			226,068
平成25年度	196,358	1,950	13,967	0			212,275
平成26年度	320,218	1,876	83,141	0	188,123		593,358
平成27年度	322,955	1,783	109,743	0	153,813	36,600	624,894

# VII 研究業績



## 1 診療部

### 内科

#### 【学会発表】

1. 脳梁膨大部病変を伴って発症したレジオネラ肺炎の一例  
木村真規子、高橋秀房、五十嵐一誠  
第74回呼吸器合同北陸地方会，2015年5月30日，新潟市
2. 消化管内視鏡検査を契機に嵌頓に至ったBockdalek孔ヘルニアの1例  
木村真規子  
第106回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会，2015年11月29日，金沢市

#### 【講演】

1. 当院におけるPD療法の取り組み  
小林 元夫  
嶺南PDセミナー，2015年5月15日，敦賀市
2. 腎機能評価の基礎  
清水和朗  
5月度敦賀市薬剤師会勉強会，2015年5月20日，敦賀市
3. CKD合併糖尿病の治療戦略  
毛利研祐  
第7回福井CKD医療連携の会，2015年6月17日，福井市
4. PDの合併症  
小林元夫  
PD基礎講座，2015年7月19日，福井市
5. 糖尿病治療における病診連携と実践  
毛利研祐  
第9回二州糖尿病フォーラム，2015年10月15日，敦賀市
6. 当院における医療連携の現況  
小林元夫  
二州地区CKD医療連携研究会，2016年1月21日，敦賀市
7. 高齢者腎不全の特徴とPD  
小林元夫  
腹膜透析体験セミナー，2016年1月30日，敦賀市

8. 2型糖尿病治療におけるインクレチン製剤の役割

毛利研祐

Incretin Seminar in Fukui, 2016年3月3日, 福井市

**消化器科**

**【学会発表】**

1. PTHrP産生による高カルシウム血症を合併したB細胞性悪性リンパ腫の1例

松田優治、守護晴彦、三田村康仁、小林元夫、清水和朗、音羽勘一、五十嵐一誠、高橋秀房、米島學、山内 高弘\*

第227回日本内科学会北陸地方会, 2015年9月6日, 金沢市

2. 前立腺癌に合併した皮膚筋炎の1例

片岡大往、木村真規子、守護晴彦、三田村康仁、小林元夫、清水和朗、音羽勘一、五十嵐一誠、高橋秀房、米島學

第228回日本内科学会北陸地方会, 2016年3月13日, 富山市

3. 急速に胆管狭窄病変が進行し胆管癌との鑑別に苦慮したIgG4関連硬化性胆管炎の一例

守護晴彦、熊谷将史、米島學

第121回日本消化器病学会北陸支部例会, 2015年11月8日, 金沢市

4. 消化管内視鏡検査を契機に嵌頓に至ったBochdalek孔ヘルニアの1例

木村真規子、守護晴彦、熊谷将史、米島學

第106回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会, 2015年11月29日, 金沢市

**【講演】**

1. H. pylori 除菌の現状と課題

米島 學

丹生郡医師会学術講演会, 2015年6月9日, 越前町

2. C型肝炎治療の新展開

守護晴彦

二州地区C型肝炎研究会, 2015年6月25日

3. ピロリ除菌の現状と課題

米島 學

小浜市医師会学術講演会, 2015年6月26日, 小浜市



4. 潰瘍性大腸炎に対して大腸全摘後に腎不全に至った1例  
守護晴彦  
UCワークショップ二州地区, 2015年8月3日
5. 高齢化社会における消化性潰瘍の治療と問題点  
米島 學  
武生市医師会月次学会・講演会, 2015年8月10日, 越前市
6. 胃がんの予防、診断、治療  
熊谷将史  
日本消化器病学会北陸支部第63回市民公開講座, 2015年9月6日
7. 肝臓がんの予防と治療  
守護晴彦  
日本消化器病学会北陸支部第63回市民公開講座, 2015年9月6日
8. UC治療でのCAPの位置づけ～ステロイドフリーを目指して～  
守護晴彦  
嶺南IBDカンファレンス, 2015年9月30日
9. 潰瘍性大腸炎に対して大腸全摘後に腎不全に至った1例  
守護晴彦  
TRIPLE GIGESTIVE SEMINAR IN FUKUI 下部消化管 2015, 2015年10月27日
10. GERD診療ガイドライン 2015 発表後のGERD診療  
米島 學  
NEXT Lecture Meeting in 小浜, 2015年11月5日, 小浜市
11. 潰瘍性大腸炎の治療戦略  
守護晴彦  
敦賀市薬剤師会講演会, 2016年2月24日
12. GERD診療ガイドライン 2015 発表後のGERD診療  
米島 學  
第4回丹南消化器フォーラム, 2016年3月24日, 越前市

【学会発表】

1. Severe stenotic lesion at Mid RCA Treated with “Ikazusci-10 Hyp” PTCA Balloon  
音羽勘一  
20th cardiovascular summit TCTAP 2015, 2015年4月28日, 韓国(ソウル)
2. Strong association between muscle sympathetic nerve activity and renal 123I-metaiodobenzylguanidine scintigraphy in patients with hypertension  
岡部佳孝  
第79回日本循環器学会学術集会, 2015年4月26日, 大阪市
3. 神経線維腫症1型に合併した後脛骨動脈破裂に対してコイル塞栓を行った1例  
音羽勘一  
第33回日本心臓血管インターベンション治療学会東海北陸地方会, 2015年5月15日, 名古屋市
4. Angiographic-functional mismatch in stable angina with mild to moderate coronary artery stenosis  
音羽勘一  
第24回日本心臓血管インターベンション治療学会, 2015年7月30日, 福岡市
5. Significant Association Between Washout Ratio Of Renal 123i-metaiodobenzylguanidine And Muscle Sympathetic Nerve Activity In Patients With Hypertension  
岡部佳孝  
AHA2015 米国心臓学会議, 2015年11月10日, フロリダ州オーランド

【講演】

1. NC Euphoraの適応等について  
音羽勘一  
第4回SLENDER CLUB JAPAN WORK SHOP in HIGASHIKANI, 2015年6月27日, 可児市
2. 心疾患と脱水  
三田村康仁  
敦賀市医師会学術講演会/多職種連携講演会, 2015年7月29日, 敦賀市
3. 当院における心臓リハビリテーション  
三田村康仁  
第2回福井県心臓リハビリテーション研究会, 2015年9月11日, 福井市

4. NOACが有効であったDVT再発の一例  
岡部佳孝  
血栓塞栓症 Winter Seminar, 2015年11月30日
5. 深部静脈血栓症（DVT）の新しい治療選択肢  
三田村康仁  
敦賀市医師会学術講演会, 2015年12月15日, 敦賀市
6. 心臓突然死から身を守る：不整脈を理解しよう  
音羽勘一  
日本循環器学会北陸支部市民公開講座, 2015年12月20日, 福井市

## 外科

### 【学会発表】

1. 臨床病期IV期の乳癌で5年以上CRが持続している4例  
市橋 匠、林 泰生、杉森 順二、上藤 聖子、小畑 真介、瀬戸 瞬、  
木船 孝一、河野 晃代、奥 佐知子、原田 憲一  
第12回日本乳癌学会中部地方会, 2015年9月, 福井市

### 【講演】

1. 大腸癌のトータル治療について  
林泰生  
CRC Chemotherapeutic Meeting in TSURUGA, 2015年7月31日, 敦賀市
2. 特徴的な画像所見を示したpeliotic changeを伴う肝細胞癌の1例  
瀬戸瞬  
第20回北陸肝胆膵外科研究会, 2016年2月13日, 金沢市

## 整形外科

### 【学会発表】

1. 高齢者大腿骨近位部骨折は緊急手術の対象にできるか？  
～当院における緊急手術に関する調査から～  
柳下信一、朝田尚宏、田尻和八、木谷 聡、吉田幸男  
第124回中部整形外科・災害外科学会, 2015年4月, 金沢市
2. 高齢者大腿骨近位部骨折は緊急手術の対象にできるか？  
～緊急手術の実態調査から～

柳下信一

舞鶴敦賀整形外科カンファレンス，2015年5月，小浜市

3. 半月板単独損傷例に対する治療経験

柳下信一、朝田尚宏

第7回 JOSKAS，2015年6月，札幌市

4. TKA 後に認めた脛骨内側の骨萎縮

柳下信一

第4回北陸 TKA 勉強会，2015年11月，福井市

5. TKA 後に認めた脛骨内側の骨萎縮

柳下信一

第12回関節外科懇話会，2015年11月，福井市

6. 鏡視下 Posterior trans-septal approach で手術を行った膝窩部ガングリオン  
の1例

柳下信一、田尻和八、木谷聡、羽土優

第201回北陸整形外科集談会，2016年3月，富山市

【講演】

1. 骨盤後傾例に対する THA

柳下信一

福井県整形外科医会ミニレクチャー，2015年7月，福井市

2. 広域災害時における DMAT と統括 DMAT の役割

柳下信一

敦賀市医師会・救急災害講演会，2015年10月，敦賀市

【論文発表】

1. 整形外科外来におけるロコモティブシンドロームの啓発活動

柳下信一、朝田尚宏、田尻和八、木谷聡、中嶋宰大

中部日本整形外科災害外科学会雑誌 2015 ; 58 : 505 - 506

2. 高齢者大腿骨近位部骨折は緊急手術の対象にできるか？

— 当院の緊急手術に関する調査から —

柳下信一、朝田尚宏、田尻和八、木谷聡、吉田幸男

中部日本整形外科災害外科学会雑誌 2015 ; 58 : 843 - 844

3. 半月板単独損傷例に対する治療経験

柳下信一、朝田尚宏、田尻和八、木谷聡、吉田幸男  
整形外科 2016 ; 67 : 515-518,

**脳神経外科**

**【講演】**

1. 小児小脳腫瘍の1例

四方志昂

第52回北陸脳腫瘍懇話会, 2015年6月13日, 富山市

2. 脳梗塞と脱水

細田哲也

敦賀市医師会学術講演会/多職種連携講演会, 2015年7月29日, 敦賀市

**【論文発表】**

1. 日本人の脳卒中医療を考える-CSPS II サブ解析を受けて-

新井良和

医薬関係者向け会員制Webサイト『eライブラリ』

**泌尿器科**

**【学会発表】**

1. 泌尿器科癌におけるトラマドールの使いどころ

澤田樹佳

第103回日本泌尿器科学会総会, 2015年4月18日, 金沢市

**皮膚科**

**【学会発表】**

1. TNF $\alpha$ 抗体を投与している関節症性乾癬の1例

小村一浩

第121回福井県皮膚科医会例会, 2015年5月21日, 福井市

2. バーサジェットIIを用いて壊死組織の除去を行った強皮症に合併した指尖潰瘍の1例

小村一浩

第114回日本皮膚科学会総会, 2015年5月29日, 横浜市

3. 日本紅斑熱として診断できた福井県初症例  
小村一浩  
日本皮膚科学会北陸地方会第446回例会，2015年6月28日，金沢市
4. 凍瘡様症状から発見されたAicardi-Goutiere症候群の一例  
久保賢太郎、小村一浩  
第122回福井県皮膚科医会例会，2015年11月14日，福井市

#### 【講演】

1. 地域連携症例  
小村 一浩  
第4回敦賀皮膚科病診連携会，2015年4月16日，敦賀市
2. 皮膚科医から学ぶ日常生活の注意点  
小村一浩  
難病患者相談事業，2015年10月20日，敦賀市
3. セクキヌマブの使用経験  
小村一浩  
コセンティクス発売記念講演会in福井，2015年11月5日，福井市
4. 地域連携の症例  
小村一浩  
第5回敦賀皮膚科病診連携会，2015年11月25日，敦賀市

### 小児科

#### 【講演】

1. 学校心臓検診～適切な管理と学校での心事故ゼロを目指して～  
田村知史  
平成27年度第1回学校医・養護教諭懇談会，2015年6月10日，敦賀市

### 歯科口腔外科

#### 【学会発表】

1. 外歯瘻を伴った智歯周囲炎の1例  
吉田完、吉本泰祐  
日本病院歯科口腔外科協議会北陸部会第26回総会，2015年8月29日，金沢市

## 2 医療安全管理室

### 【学会発表】

1. 日常診療でのメディエーションの活用  
岡田貴子  
第17回日本医療マネジメント学会学術総会, 平成27年6月, 大阪市

### 【講演】

1. 市立敦賀病院でのメディエーターの導入と活動 (導入編)  
岡田貴子 (講師)  
日本医療メディエーター協会北陸支部研修会 導入編, 2015年5月, 富山市
2. 市立敦賀病院でのメディエーターの導入と活動 (フォローアップ編)  
岡田貴子 (講師)  
日本医療メディエーター協会北陸支部研修会 フォローアップ研修, 2015年5月, 富山市

## 3 感染制御センター

### 【地域での研修会・講習会】

1. 「冬季の流行感染症の予防について—インフルエンザ・ノロウイルス感染症のQ&A—」  
小堀和美  
地域学習会 平成27年10月16日
2. 「冬季の流行感染症の予防について」  
小堀和美  
出前講座 平成27年10月19日
3. 「精神科病棟での感染対策」  
小堀和美  
出前講座 平成27年11月10日
4. 「施設における感染対策について」  
小堀和美  
感染症予防教室 平成27年11月11日

### 【学会発表】

1. 「手術室看護師の清潔・不潔の意識向上のためのとりくみ—手術時手洗いの評価より—」  
環境感染学会, 平成28年2月  
田中恵実

## 2. 「施設ラウンドの報告より」

嶺南インфекションコントロール, 平成 28 年 2 月 6 日

小堀和美

## 4 医療支援部

### 地域医療連携室

#### 【学会発表】

#### 1. 地域包括ケア病棟が地域に貢献する役割を考える —A病院の実績からの検討—

田中知子（発表者），平澤政人，福井彩美，加野清美

第 17 回日本医療マネジメント学会学術総会，2015 年 6 月，大阪市

#### 2. 医療と介護連携のコンフリクトから地域包括ケア病棟の効果的運用を考える

—A病院と地域の在宅復帰支援に関するコンフリクトの検討—

田中知子（発表者），平澤政人，福井彩美，岡田貴子

第 10 回医療の質・安全学会学術集会，2015 年 11 月，千葉市

## 5 医療技術部

### 検査室

#### 【論文】

#### 1. 髄膜炎菌性尿道炎の 1 症例

川端直樹，高島和佳，澤田樹佳，飛田征男\* \*施設外共同著者

福井県臨床検査技師会誌 46 巻 1 号 : 7-10, 2015 年 10 月

#### 2. 福井県内医療施設における基質特異性拡張型 $\beta$ ラクタマーゼ産生菌の遺伝子型解析

久田恭子\*, 飛田征男\*, 川端直樹, 松尾智子\*, 木戸口芳弘\*, 嶋田章弘\*,

濱田敏彦\*, 岩野正之\*, 木村秀樹\*

福井県臨床検査技師会誌 46 巻 1 号 : 2-6, 2015 年 10 月

#### 3. 遺伝子検査(GENECUBE)を用いて早期診断し得た百日咳の一症例

飛田征男\*, 久田恭子\*, 嶋田章弘\*, 佐々木千鶴\*, 川端直樹, 川嶋洋介\*,

曾家義博\*, 濱田敏彦\*, 岩野正之\*, 木村秀樹\*

福井県臨床検査技師会誌 46 巻 1 号 : 15-18, 2015 年 10 月



【学会発表】

1. 高頻度抗原に対する抗体を含む複数抗体(抗Jra, 抗E)保有患者への輸血の一症例  
窪田映里子, 東正浩, 高城茂弘, 川端しのぶ, 山野由希, 小野早織, 堀内美里,  
川端直樹  
第28回福井県医学検査学会, 2015年4月, 福井市
2. 当院における冠動脈狭窄評価の現状  
～冠血流予備量比(Fractional Flow Reserve: FFR)有用性の検討～  
河野裕樹, 寺島美佳子, 奥村早央里, 坊直美, 川端直樹, 岡部佳孝, 三田村康仁,  
音羽 勘一  
第28回福井県医学検査学会, 2015年4月, 福井
3. 急性冠症候群との鑑別に苦慮したたこつぼ型心筋症の一例  
寺島美佳子, 奥村早央里, 坊直美, 河野裕樹, 川端直樹, 岡部佳孝, 三田村康仁,  
音羽勘一  
第28回福井県医学検査学会, 2015年4月, 福井市
4. 髄膜炎菌性尿道炎の1症例  
川端直樹, 高島和佳  
第28回福井県医学検査学会, 2015年4月, 福井市
5. 福井県における薬剤耐性菌および感染管理に関するサーベイランスの取り組み  
川端直樹, 内田達弥\*, 山口義孝\*, 森川ひろこ\*, 津田寛子\*, 島田潤\*,  
伊藤良恵\*, 松尾智子\*, 佐々木千鶴\*, 村田万季\*, 海崎佳史\*, 米倉久剛\*,  
前野真治\*, 飛田征男\* \*施設外共同演者  
第28回福井県医学検査学会, 2015年4月, 福井市
6. 福井県における薬剤耐性菌および感染管理に関するサーベイランスの取り組み  
～その1 薬剤耐性菌の現状～  
川端直樹, 飛田征男\*, 内田達弥\*, 山口義孝\*, 津田寛子\*, 村田万季\*,  
海崎佳史\* \*施設外共同演者  
第64回日本医学検査学会, 2015年5月, 福岡市
7. 「アーキテクト・high sensitive トロポニンI ST」の基礎的検討  
東正浩, 小野早織, 高城茂弘, 川端しのぶ, 窪田映里子, 川端直樹  
第64回日本医学検査学会, 2015年5月, 福岡市
8. 当院における冠血流予備量比(FFR)の現状  
～Angiographic-FFR mismatch 及び reverse mismatch の検討～  
河野裕樹, 寺島美佳子, 奥村早央里, 坊直美, 川端直樹

第 64 回日本医学検査学会，2015 年 5 月，福岡市

9. 肝臓原発悪性リンパ腫の一例

竹腰 友博，秋山 綾子，高島 和佳，川端 直樹  
第 64 回日本医学検査学会，2015 年 5 月，福岡市

10. 顕性化前後を心エコー図検査にて観察し得た続発性 AL 型心アミロイドーシスの 1 例

河野裕樹，坊直美，川端直樹，岡部佳孝，三田村康仁，音羽勘一  
日本超音波医学会第 88 回学術集会，2015 年 5 月，東京

11. セルブロックが有用であった腹膜中皮腫の一例

竹腰 友博，秋山 綾子，高島 和佳，齊川 邦和，原田 憲一  
第 32 回京都臨床細胞学会学術集会，2015 年 7 月，京都市

12. クレアチニン改良試薬の基礎的検討

東正浩，川端直樹  
日本臨床検査自動化学会第 47 回大会，2015 年 10 月，横浜市

13. 当院で経験した多包性エキノコックス症の 1 例

秋山綾子，竹腰友博，高島和佳，川端直樹  
第 55 回日臨技近畿支部医学検査学会，2015 年 10 月，大阪市

14. 当院カプセル内視鏡検査のデータベース化と運用改善に向けた取り組み

河野裕樹，坊直美，川端直樹  
第 55 回日臨技近畿支部医学検査学会，2015 年 10 月，大阪市

15. 過去 3 年間の急性冠症候群発症の検討

～当院における緊急心臓カテーテル症例より～  
坊直美，河野裕樹，川端直樹，音羽勘一  
第 55 回日臨技近畿支部医学検査学会，2015 年 10 月，大阪市

16. 輸血後感染症検査への当院の取り組み

—1 年半の経過報告と今後の課題—  
窪田映里子，東正浩，高城茂弘，川端しのぶ，小野早織，川端直樹，山崎洋  
第 33 回日本輸血・細胞治療学会北陸支部例会，2015 年 11 月，富山市

17. 乳頭状線維弾性腫が原因と考えられた繰り返す多発脳梗塞の 1 例

河野裕樹，坊直美，川端直樹，岡部佳孝，三田村康仁，音羽 勘一，細田哲也  
日本超音波検査学会関西 第 25 回地方学術集会，2015 年 11 月，神戸市

18. 福井県2例目となった多包性エキノコックス症の1症例

川端直樹

第27回日本臨床微生物学会, 2016年1月, 仙台市

【講演】

1. 薬剤耐性菌および感染管理に関するサーベイランス ～概要報告～

川端直樹, 内田達弥\*, 山口義孝\*, 森川ひろこ\*, 津田寛子\*, 島田潤\*, 伊藤良恵\*, 松尾智子\*, 佐々木千鶴\*, 村田万季\*, 海崎佳史\*, 米倉久剛\*, 前野真治\*, 飛田征男\* \*施設外共同演者

福井県感染防止対策加算に関する連携病院会議, 2015年6月, 福井市

2. 動脈硬化指標のいろいろ～血管機能検査 CAVI /PWV/ABI を中心に～

河野裕樹

大阪府臨床検査技師会主催 動脈硬化検査研修会, 2015年6月, 大阪市

3. 福井県における薬剤耐性菌および感染管理に関するサーベイランスの取り組み

川端直樹, 内田達弥\*, 山口義孝\*, 森川ひろこ\*, 津田寛子\*, 島田潤\*, 伊藤良恵\*, 松尾智子\*, 佐々木千鶴\*, 村田万季\*, 海崎佳史\*, 米倉久剛\*, 前野真治\*, 飛田征男\* \*施設外共同演者

第16回北陸病原微生物研究会, 2015年7月, 金沢市

4. 下肢動脈エコーの基礎

河野裕樹

大阪府臨床検査技師会主催 第6回血管エコー研修会, 2015年8月, 大阪市

5. 宿日直に必要な微生物検査の知識

～微生物検査の基礎知識 グラム染色を中心に～

川端直樹

第2回北陸大学医療技術公開セミナー, 2015年10月, 金沢市

6. 壁運動異常を見極める

河野裕樹

大阪府臨床検査技師会主催 第12回心エコー実技研修会, 2015年10月, 大阪市

7. 微生物検査の基礎知識

～これから始めるグラム染色～

川端直樹

第7回上田フェア, 2015年11月, 福井市

8. 感染症発生動向調査について知ろう  
～届出をスムーズに行うために～  
川端直樹  
福井県臨床検査技師会主催 微生物部門研修会, 2015年11月, 小浜市
9. 下肢動脈エコーの基礎 ～実際に経験した症例を交えて～  
河野裕樹  
京都府臨床検査技師会主催 末梢血管超音波研修会, 2015年12月, 京都市
10. 臨床検査技師の仕事について  
川端しのぶ  
ようこそ先輩 角鹿中学校, 2016年1月, 敦賀市
11. 超音波検査のQ&A  
河野裕樹  
第13回京都循環器検査研究会学術集会, 2016年3月, 京都市

## 放射線室

### 【学会発表】

1. 下肢超音波検査（実技指導）  
河野晃代  
中部超音波検査フォーラム, 2015年7月, 金沢市
2. 頸動脈超音波検査  
河野晃代  
中部超音波検査フォーラム, 2015年11月, 名古屋市
3. 診断に難渋したエキノコックス症例とそこから学んだ地域性疾患  
田泉智明  
第8回中部放射線医療技術学術大会, 2015年11月, 福井市
4. 当院におけるBPASの分析と有用性の評価  
田泉智明  
第31回日本診療放射線技師学術大会, 2015年11月, 京都市
5. 条件付きMRI対応ペースメーカー現状報告  
田泉智明  
平成27年度嶺南診療放射線技師勉強会, 2016年1月, 敦賀市

6. もしエキノコックス症が来たら  
田泉智明  
平成 27 年度嶺南診療放射線技師勉強会, 2016 年 1 月, 敦賀市
7. 市立敦賀病院・施設紹介  
辻拓郎  
平成 27 年度嶺南診療放射線技師勉強会, 2016 年 1 月, 敦賀市
8. サーベイメータの取り扱いとスクリーニング法  
山崎巖  
サーベイメータ緊急被ばく医療総合シミュレーション基礎コース, 2016 年 3 月,  
福井市

### リハビリテーション室

#### 【学会発表】

1. 「糖尿病患者への運動指導に関する理解度と自信度について」  
～当院看護師における調査～  
増井正清  
第 55 回全国自治体病院学会, 2015 年 10 月, 函館市
2. 「転移性骨腫瘍発症後に移乗動作能力が向上した一症例」  
土田尚治  
第24回福井県緩和医療研究会（第12回症例検討会）, 2015年11月7日, 福井市
3. 「脳梗塞により注意障害・失語症を呈した症例へのアプローチ」  
～独居で自宅退院を目指して～  
扇谷綾子  
第 4 回福井県作業療法士学会, 2016 年 2 月, 美浜町
4. 「自己効力感の向上により離床可能となった症例」—移乗獲得を目指して—  
大音佳菜絵  
第 4 回福井県作業療法士学会, 2016 年 2 月, 美浜町
5. ACL 再建術後における理学療法業務復帰の指標 —移乗動作に重点を置いて—  
大澤拓実  
第 20 回福井県理学療法士学会, 2016 年 3 月, 福井市

6. 「重症大動脈弁狭窄症患者に対して外来心臓リハビリテーション介入で ADL・QOL が改善した症例」  
高木 隆幸  
3 士会合同事例検討会, 2016 年 3 月, 福井市

**【講演】**

1. 自分たちの未来のために  
石嶋恵  
美浜中学校 先輩と語る会, 2015 年 7 月, 美浜町
2. よく食べて運動して健康寿命を伸ばそう  
高木隆幸  
市立敦賀病院市民公開講座, 2015 年 7 月, 敦賀市
3. 脳と心臓とリハビリテーション  
高木隆幸  
第 6 回脳卒中医療連携 in 敦賀, 2015 年 8 月, 敦賀市
4. 運動療法  
増井正清  
第 16 期 福井糖尿病療養指導担当者教育講習会, 2015 年 9 月, 福井市
5. あなたは健康に自信がありますか? ～ロコモとメタボなどに効く運動!～  
増井正清  
いきいき生涯大学, 2015 年 9 月, 敦賀市
6. 患者さんのサポート方法 ～理学療法の観点からのアドバイス～  
森田圭  
平成 27 年度ボランティア養成講座, 2015 年 11 月, 敦賀市
7. 当院脳卒中患者における自宅退院に関連する因子～統計学的解析での考察～  
森田圭  
第 7 回脳卒中医療連携 in 敦賀, 2016 年 1 月, 敦賀市

**【論文発表】**

1. リハビリテーションスタッフにおける患者急変対応手順の把握状況  
～経験年数による比較～  
増井正清  
理学療法福井 第 19 巻 p16-18, 2015 年 11 月

## 臨床工学技術室

### 【学会発表】

1. 「膿疱性乾癬に顆粒球吸着療法が有効であった維持透析患者の一例」  
三好千恵  
第 59 回 日本透析医学会学術集会  
2014 年 6 月 13 日, 神戸国際展示場

## 栄養管理室

### 【学会発表】

1. 胃瘻を造設したが早期に経口摂取可能となった嚥下障害合併皮膚筋炎の一症例  
市立敦賀病院 栄養管理室、看護部、薬剤部、外科  
筆頭演者：竹原暢子  
共同演者：竹内静香、浜野智聡、山田里美、北川由佳、北野あゆみ、藤長ひろ美、  
竹田美佳、藤長宏昌、林泰生  
第 31 回 日本静脈経腸栄養学会 学術集会

## 6 薬剤部

### 【学会発表】

1. 尿素呼気試験 (UBT) の適正実施について ～多職種で取り組む業務改善～  
荒木隆一 (発表者)  
日本医療マネジメント学会 2015 年 6 月 15 日 (大阪市)
2. 自動車運転等の注意の記載に関する取り組み 導入後の課題について  
藤長宏昌、佐藤友美、西島勝之、荒木隆一 (発表者)  
第 17 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 2015 年 6 月 27 日 (岡山市)
3. 医薬品適正使用を目指した薬薬連携～院外処方せん臨床検査値表示の試み～  
佐藤友美、藤長宏昌、西島勝之、荒木隆一 (発表者)  
第 54 回 全国自治体病院学会 2015 年 10 月 13 日 (函館市)
4. 尿素呼気試験 (UBT) の適正実施について ～多職種で取り組む業務改善～  
荒木隆一 (発表者)  
日本病院薬剤師会北陸ブロック学術大会 2015 年 11 月 15 日 (富山市)
5. 医薬品適正使用を目指した薬薬連携～院外処方せん臨床検査値表示の試み～  
荒木隆一、藤長宏昌、西島勝之、佐藤友美 (発表者)  
第 25 回日本医療薬学会年会 2015 年 11 月 21 日 (横浜市)

### 【講演】

1. 多職種による高齢者に対する適切な医療提供を考える  
佐藤友美（発表者）  
敦賀市関係職種連携研修会 2015年7月29日（敦賀市）
2. これだけは知っておきたい薬の話  
佐藤友美（発表者）  
市民公開講座 2016年3月13日（敦賀市）

## 7 看護部

### 【学会発表、講演】

1. 母子における防災マニュアル作成にあたって  
岸本千鶴  
福井県助産師会，2015年4月，福井市
2. 手術室看護師の清潔・不潔の意識向上のためのとりくみ  
—手術時手洗いの評価より—  
小堀和美，田中恵実  
第31回日本環境感染学会・学術集会，2016年2月，京都市
3. リンクスタッフの育成 —モチベーション向上にむけた活動の見直し—  
小堀和美  
第54回全国自治体病院学会，2015年10月，函館市
4. 看護の道講演会  
杉本智恵・竹村貴史  
福井県看護協会，2015年7月，敦賀市
5. がん看護実践能力向上  
仲間有希  
福井県看護協会，2015年8月，福井市
6. 子供の心肺蘇生法  
藤原貞美子  
子育て総合支援センター，2015年7月，敦賀市
7. 皮膚排泄認定看護師出前講座  
稲垣香緒里  
医療法人敦賀温泉病院，2015年8月，敦賀市



8. 緩和ケア認定看護師出前講座  
仲間有希  
杉田玄白記念公立小浜病院, 2015年10月, 小浜市
  
9. 皮膚排泄ケア認定看護師出前講座  
稲垣香緒里  
おおい町保健医療福祉総合施設, 2015年9月, 大飯町
  
10. 感染管理認定看護師出前講座  
小堀和美  
泉ヶ丘病院, 2015年10月, 敦賀市
  
11. 感染管理認定看護出前講座  
小堀和美  
医療法人敦賀温泉病院, 2015年11月, 敦賀市
  
12. 腹膜透析看護のケアのポイント  
砂原里子  
プラザ萬象, 2016年1月, 敦賀市
  
13. 「救急医療情報キット」の活用について  
藤原貞美子  
福井県看護協会, 2016年2月, 福井市

# 8 臨床病理検討会

CPC	臨床診断	マクロ主病変	マクロ副病変	ミクロ主病変	ミクロ副病変	ミクロ死因
1 2015/04/23 平成27年度 第1回医局 合同CPC 市立敦賀病 院	骨盤内腫瘍 大腸癌	1. 骨盤内腫瘍 2. 大腸癌術後(S状結腸癌にて骨盤内臓器全摘、術後約20年)	1. 水腎症+腎癆痕(腎重量:左65g,右60g) 2. 胸水(左350ml,右400ml;黄色透明) 3. 大動脈粥状硬化症(軽度) 4. 胆嚢摘出術後(臓器摘出後状態、開頭なし)	1. 骨盤内腫瘍(粘液癌、痔瘻癌の疑い) 遠隔転移:肝(肝表,微小な肝内転移),肺(微小),骨(椎体)リンパ節転移:なし 2. S状結腸癌術後(骨盤内臓器全摘術後20年,中分化型管状腺癌) 再発:なし	1. 水腎症 + 慢性腎盂腎炎(腎重量:左65g,右60g) 2. 胸水(黄色透明)(左350ml,右400ml) 3. 気管支肺炎(誤嚥性肺炎疑い)(軽度,巣状)(肺重量:左225g,右225g) 4. 大動脈粥状硬化症(軽度) 5. 脾へモジドロシス(脾重量:70g) 6. 腓脂肪浸潤(脾重量:60g) 7. 胆嚢摘出後状態(臓器摘出後状態,開頭なし)	<p>主要剖検所見</p> <p>剖検は死後7時間30分、臓器摘出後の状態で施行。外表所見として腹部正中に手術痕痕、右側腹部に回腸導管、左側腹部に人工肛門があり、下腹部正中(25か所)と左陰部(1ヶ所)に皮膚瘻管があった。また、黄色透明の胸水貯留を認めている(左350ml,右400ml)。腸管は癒着により一塊となった状態で、背側からみて骨盤腔に相当する部位に比較的大きな腫瘍塊を認めた。淡黄色～淡褐色の粘糊状腫瘍で、回腸の漿膜側を中心に腫瘍が着着していた。小腸と大腸の粘膜炎に腫瘍は認めなかった。粘液湖の中に篩状腺管を組織学的に、腫瘍は豊富な粘液産生を伴う粘液癌であった。形成した高円柱状の癌細胞(中分化型腺癌)が浮遊し、少量の印環細胞癌の成分も認められた。免疫染色により、腫瘍はCEAがびまん性に陽性、CA19-9は一部の癌細胞に陽性に陽性(核はMUC5AC, ER, PgRは陰性, Ki-67の標識率は50%以上と高率であった。CK7と粘液癌の転移は肝(385g),肺(左225g,右225g),骨(椎体)に認められた。肝臓では左葉表面に1cm大と0.5cm大の転移(播種巣)があり、また、肉眼的に明らかでないもの肝内の数か所に顕微鏡的な癌の転移を認めた。肺にも肉眼的には明らかでないが、右肺中葉の1ヶ所に顕微鏡的な癌転移を認めた。椎体にも0.7cm大の転移を1個認めた。癌のリンパ節転移はなかった。</p> <p>まとめと考察</p> <p>症例は死亡時79歳の女性。20年前(平成7年1月)にS状結腸癌に対して福井医大で骨盤内臓全摘術を受けている。平成15年のCT検査ですでに骨盤内腫瘍を指摘されていた(当時は術後骨盤内死腔に形成された炎症性腫瘍と判断)。平成25年、採血でCEA上昇、CTで腫瘍の増大傾向を認め、陰壁標過(浸出液)の細胞診でclass V(腺癌)と診断された。手術は希望されず、平成26年12月に全身状態が悪化し永眠された。剖検上の希望検索事項は、骨盤内腫瘍が大腸癌の再発か、新たに発症した癌かという点である。</p> <p>20年前(平成7年1月)のS状結腸癌手術材料を福井大学から取り寄せていただき、組織プレパートを観察した。子宮と小腸に浸潤した進行大腸癌で、組織型はtub2であった(病理解: Colon cancer, moderately differentiated adenocarcinoma, INF β, si (ileum and uterus), hv2, ov (-), aw (-), ew (-), n (-) (0/56))。この20年前の癌部のプレパート(10枚)に粘液癌の成分は全く認めなかった。剖検時、骨盤内腫瘍は純粋な粘液癌であり、術後長期間が経過していることや再発様式からも、S状結腸癌の再発は考えにくいと思われた。</p> <p>粘液性腺癌は子宮や卵巣、膀胱からも発生しうるが、これらの臓器は20年前の手術の際に摘出されており原発巣とはならない。また、虫垂癌も鑑別として考えたが、剖検時、虫垂は見当たらず(おそらく切除後)、さらに骨盤内腫瘍は主に回腸に付着した状態で虫垂癌も考えにくかった。</p> <p>生前の臨床経過や画像所見を合わせて判断すると、本例は痔瘻癌の可能性が高いと考えられた。病理解剖で痔瘻から癌が発生したことを証明することは困難であったが、痔瘻癌の50%は粘液癌、38%は腺癌、7%は扁平上皮癌とされており(菅井ほか「痔瘻癌の病理」大腸癌FRONTIER 6:124-30, 2013)、本例の組織型は痔瘻癌によく一致していた。</p> <p>痔瘻癌の他、病理学的に粘液性腺癌が発生しうる原発巣として尿管と後腹膜の2つを鑑別として考えた。尿管管癌は腸型腺癌が多く、本例と同様にCK20とMUC2によく陽性を示す。文献的に、尿管管癌は免疫染色でβ-cateninの核発現がないことが特徴とされ、これが大腸癌との鑑別に有用とされている(大腸癌でのβ-cateninの核発現は25-81%)(Anuradha G et al. Am J Surg Pathol 33:659-68, 2009)。本例でβ-cateninの核発現はみられず、この点は尿管管癌に一致していたが、生前の画像所見で尿管管に相当する部位に腫瘍は明らかでないことから、尿管管癌は否定的であった。なお、痔瘻癌でβ-cateninの発現を検討した報告は少ないが、核発現を認めた症例と認めなかった症例、両方の報告がある(Schal M et al. Eur J Gastroenterol Hepatol 26:114-8, 2014)。</p> <p>粘液性腺癌はまれに女性の後腹膜に発生することも知られている。免疫染色を行った報告例は多くないが、卵巣癌と同様にCK7が陽性となる所見が大腸癌との鑑別に有用であるとされる(竹村正久ほか「診断病理 28:257-60, 2011)。本例はCK7陰性で、さらに、後腹膜原発のこれまでの報告例で本例のような純粋な粘液癌の形態を示したものはあまりなく、後腹膜原発も考えにくいと思われた。</p>

CPC	臨床診断	マクロ主病変	マクロ副病変	ミクロ主病変	ミクロ副病変	ミクロ死因
2 2015/04/24 平成27年度 第2回医局 合同CPC 金沢大学医 薬保健研究 域医学系 形態機能病 理学講座	誤嚥性肺 炎	肺うっ血水腫＋右下 葉硬化病変(約3cm 大)(460g;665g)	マクロ副病変 1.腔水症(胸水 150ml;400ml;心嚢水 80ml) 2.甲状腺結節(左下 部、径1.2cm;1cm大) 3.肝萎縮(690g)+血 腫(4.5cm大、1cm大) 4.総胆管拡張(周径 4.4cm) 5.回腸憩室(Bauhin 弁より4cm) 6.動脈硬化性腎硬化 症(軽度、75g;95g) 7.大動脈粥状硬化症 (軽度) 8.幽門側胃部分切除 +Billroth-I法再建状 態(胃潰瘍手術) 9.胆嚢摘出後状態 10.[パーキンソン病] (開頭なし) 肺は固定後に割を入 れて検索します。	誤嚥性肺炎＋うっ血水腫＋陳旧 性肺結核(右下葉、3cm大) (460g;665g) 肺は両側とも中等度に重量増加 し、含気が乏しく、うっ血水腫を見 た。気管支の太いレベルに明らか な誤嚥物などによる閉塞はなかつ た。剖面では、小斑状の白色病変 の散在を認めた。組織学的には、 既存の肺胞構築は概ね保たれて おり、散在性に、気管支分枝内一 周囲肺胞内の誤嚥物と好中球浸 潤を認めた。誤嚥性肺炎の状態で あった。 Gram,PAS,Grocott,Tbc染色では、 明らかなグラム陽性菌、真菌、抗 酸菌は検出されなかった。また、 右下葉胸膜下に径3cm大の白色 結節を認めた。剖面では乾酪壊死 を示し、組織学的にも肺胞構築の 残存した凝固壊死を認めた。壊死 部周囲には癭痕状の線維化をみ た。陳旧性肺結核に相当する組 織像で、剖検時には類上皮肉芽 腫やLanghans巨細胞は見られず、 Tbc染色も陰性であった。	ミクロ副病変 1.腔水症(胸水 150ml;400ml;心 嚢水 80ml) 2.甲状腺濾胞腺腫(左下部、径 1.2cm;11.7g) 3.肝萎縮(690g)+海綿状血管腫 (4.5cm大、1cm大) 肝臓は中等度の重量低下を示 し、表面に3本の矢状溝をみた。 全体に褐色調であり、いわゆる褐 色萎縮 blown atrophyの状態であ った。組織学的には、肝小葉 構造は概ね保たれており、一部 軽度のうっ血と褐色萎縮に相当 する小葉中心部主体の肝細胞の リポアスタシスを認めた。ま た、肝左葉に4.5cm大、肝右葉に 1cm大の2個の海綿状血管腫を 見た。組織学的には、通常の海 綿状血管腫で、特に細胞異型は なく、悪性像は認めなかった。 4.総胆管拡張(周径 4.4cm)+肝 門部胆管拡張 総胆管は周径4.4cmと拡張を示 し、肝門部胆管にも拡張をみた。 臍胆管合流異常はなく、胆道結 石や腫瘍などによる閉塞/狭窄も 認めなかった。拡張の原因は不 明であるが、胆嚢摘出後であり、 既往の胆石が影響した可能性も ある。 5.過形成性骨髄(軽度) 6.動脈硬化性腎硬化症(軽度、 75g;95g) 7.大動脈粥状硬化症(軽度) 8.回腸憩室(Bauhin弁より4cm) 9.幽門側胃部分切除+ Billroth-I法再建状態(胃潰瘍 手術) 10.胆嚢摘出後状態 11.[パーキンソン病](開頭なし)	呼吸不全(疑い) パーキンソン病、起立性低血圧、貧血症で神経内科定期通院中の84才女性。死亡前日に 全身倦怠感を自覚、死亡日朝、呼吸停止状態で発見され、救急搬送されたが、心肺停止 状態で死亡確認された。剖検所見では、心臓に著変はなく、その他の臓器にも出血など 急死の原因となる病変は認めなかった。肺は中等度に重量増加し、新しい誤嚥性肺炎、う っ血水腫をみた。胸水(150ml;400ml)も認め、死因は呼吸不全として矛盾ないと考えら れた。尚、Gram,PAS,Grocott,Tbc染色では、明らかなグラム陽性菌、真菌、抗酸菌は検出 されなかった。また、肺には陳旧性肺結核(右下葉、3cm大)もみだが、活動性の結核性病 変はなかった。生前に肝腫瘍(血管腫疑い)、甲状腺腫瘍が検出されており、肝腫瘍は良 性の海綿状血管腫、甲状腺腫瘍は良性的の濾胞腺腫であった。その他の所見として、原因 不明の総胆管拡張(周径4.4cm)+肝門部胆管拡張、肝褐色萎縮、大動脈粥状硬化症 (軽度)、動脈硬化性腎硬化症(軽度)、回腸憩室を認めた。

3	2015/08/31 平成27年度 第3回医局 合同CPC 市立教習病 院	臨床診断 誤嚥性肺 炎 肺結核	マクロ主病変 肺炎＋高度胸膜癒 着 (右上葉、肺結核の 既往あり)	マクロ副病変 脾腫(210g) 肝矢状溝 大動脈粥状硬化症 心肥大(415g、冠動 脈狭窄なし) 腎貯留囊胞(左 185g) 消化管出血傾向 胃内容異物	ミクロ主病変 1. 肺結核症(左下葉)＋左胸膜炎 2. 二重瘻 ・肺瘻(詳細不明)＋左上葉切除後 状態(左下葉に再発疑い放射線 療法施行) ・腎瘻＋右腎摘出後状態(再発な し) 主病変 臓器摘出状態で臓器検査を施 行。左上葉切除後状態。臨床的に 結核病巣が指摘されている左肺 下葉の一部は摘出されていなかっ た。摘出された左肺下葉には板状 の臓側胸膜肥厚を認めた。組織 上、胸膜は慢性炎症細胞浸潤をよ く伴いつつ線維性に拡大し、部分 的に壊死巣も認められたが、抗酸菌感 染を示唆するような乾酪壊死や肉 芽腫性変化は認めなかった。肺実 質の胸膜直下には間質性の肺線 維化が目立ち、リンパ球形質細胞 浸潤も認めた。間質性肺炎や放射 線性肺炎との鑑別を要するが、胸 膜炎を呈する胸膜直下の肺野で あり、また放射線照射野とは無関 係の領域であることから、胸膜炎 から肺炎に関連した間質性変化と 考えられた。なお、肺結核の原発 巣や肺嚢の再発巣は摘出臓器に は確認出来なかった。また、線維 化の弱い部位では軽い気管支肺 炎様の炎症と異物巨細胞の出現 を認め、臨床経過も加味し、誤嚥 性肺炎と考えられた。なお、剖検 時、明らかなき気管支内異物や喀痰 充満所見は認めなかった。	ミクロ副病変 1. 誤嚥性肺炎(左325g、右345g) 2. 心肥大(415g、冠動脈狭窄な し) 3. 右胸水(1300cc、血性) 4. 肝うっ血＋矢状溝(770g) 5. 脾腫(210g) 6. 肺気腫 7. 大動脈粥状硬化症 8. 腎貯留囊胞(左 185g) 9. 消化管出血傾向 10. 胃瘻造設状態	ミクロ死因 死因：呼吸不全および心不全 まとめ 本例は結核性胸膜炎および左下葉の肺結核の診断で治療されるも、経過中膠原病や 血管炎、粟粒性の関与、また誤嚥性肺炎、さらに虚血性または心筋炎性の心不全や胆道 感染症の可能性が指摘され、最終的には誤嚥性肺炎または心筋炎にて死亡された症例。 剖検所見では、画像で指摘されている左下葉の線維化を伴う臓側胸膜炎を認め、壁側胸膜と強度に癒 着していた。明らかなき抗酸菌感染を示唆する所見は確認出来なかったが、抗酸菌感染に 対する治療後状態の胸膜炎としても矛盾しないと考えられた。また、肺内には誤嚥性肺炎 を認めたが、明らかなき膠原病や血管炎、心筋炎(ウイルス)に関してはCMV免疫染色にて陰 性)、胆道感染症、気管支内痰充満の所見は認めなかった。 死因は、誤嚥性肺炎の他、右側の大量胸水による呼吸不全および心不全(肝うっ血あり) が関与していると考えられた。
---	--	--------------------------	---	---	---	---	---

CPC	臨床診断	マクロ主病変	マクロ副病変	ミクロ主病変	ミクロ副病変	ミクロ死因
<p>4</p> <p>2015/11/27 平成27年度 第4回医局 合同CPC 金沢大学医 薬保健研究 城医学系形 態機能病理 学講座</p>	<p>IgG4関連 疾患の疑 い 間質性肺 炎</p>	<p>[肺炎] (690g; 470g) + 肺重量増加 (肺は固定後、割を 入れます。)</p>	<p>1. 胸膜癒着 (高度) 2. 腹水 700ml 3. 大動脈粥状硬化症 (高度) 4. 動脈硬化性腎硬化 症 (75g; 75g) 5. 肝小結節散在 (~ 5mm 大、少数) (725g) 6. 肝 cyst (右後 Φ1cm、褐色内 容) 7. 副脾 (Φ1cm、脾門 部)</p>	<p>剖検診断 間質性肺炎+気管支肺炎(器質化 を伴う)+塵肺症(690g; 470g) 主病変 肺は両側とも中等度に重量増加 し、胸膜肥厚(右&gt;左)を見た。割 面では、下葉、胸膜下優位に蜂窩 腫の状態を示した。上葉には肺気 腫も認められた。また、全体に軽度-中 程度の黒褐色調の炭分沈着を認 めた。 組織学的には、上葉には肺気腫 をみた。下葉、胸膜下には、肺泡 のつぶれと細気管支拡張、線維 化、軽度の慢性炎症を示す蜂窩 肺の所見を認めた。左肺門部付 近や右中葉では肺胞内のファイブ ン析出、好中球浸潤、masson形 成を認め、器質化を伴う気管支肺 炎の所見であった。 Gram, PAS, Grocott染色では、明ら かなグラム陽性菌、真菌は検出さ れなかった。肺門リンパ節には比 較的強い炭分沈着を伴い、肺内 にも散在性に炭分沈着をみた。免 疫染色では、IgG4陽性細胞は少 数存在するのみでIgG4陽性細胞 の割合(IgG4/IgG)も診断基準の 40%未満であった。閉塞性静脈炎 も認めなかった。ステロイド治療に よりIgG4陽性細胞浸潤が軽減した 可能性もあるが、剖検所見では、 明らかなIgG4関連疾患を示唆す る所見はなかった。塵肺症(職業: 炭坑)+喫煙(20本×60年)を背 景に発生した間質性肺炎に、気管 支肺炎を併発したと考えられた。</p>	<p>副病変 1. 胸膜癒着 (高度) 2. 腹水 (700ml) 3. 大動脈粥状硬化症(高度) 大動脈には腹部を中心に、内腹 面のびらん、壁石灰化を伴う高度 の粥状硬化症をみた。大動脈壁 肥厚は目立たず、大動脈周囲線 維化やIgG4陽性細胞の浸潤は認 めなかった。 4. 動脈硬化性腎硬化症+コレステ ロール塞栓散在(軽度、75g; 75g) 腎表面は軽度に凹凸不整で、小 癆痕、貯留嚢胞を散見した。組織 学的には、比較的多数の中小動 脈に閉塞+再疎通とコレステリン 結晶充満を認め、コレステロール 塞栓の所見であった。腎皮質には 領域性の糸球体硬化症を認め 目立たず。動脈硬化性腎硬化症 の所見であった。尚、腎臓でもIgG 4陽性細胞はごく少数のみであっ た。 5. 肝萎縮(軽度)+結節性再生成 過形成(725g) 肝臓は軽度に重量低下し、最大 径5mm程度の境界不明瞭の結節性 病変を全体に認めた。組織学的に は、肝小葉構造は概ね保たれて おり、門脈域は軽度の線維性拡大 を示した。肝実質には、ステロイド 治療に関連した変化と考えられ る、結節性反応性過形成(NRH) を認めた。肝細胞にはごく一部に 脂肪沈着を伴っていた。炎症はほ んど見られなかった。 6. 単純性肝嚢胞(右後、径1cm) 725g 肝右葉後部には、径1cm大の嚢胞 を認め、組織学的には、扁平一円 柱状も胆管上皮が被覆する数個 の嚢胞の集簇をみた。嚢胞壁の一 部には硝子化を伴う線維化を認め た。 7. 副脾(径1cm:脾門部)</p>	<p>死因: 呼吸不全(疑い) まとめ: 塵肺症(職業:炭坑)+喫煙(20本×60年)を背景に発生した間質性肺炎に、気管支肺炎を併発し、呼吸不全で死亡した79歳男性症例。死亡約半年前より歩行時の息切れを自覚、その後、呼吸状態悪化、全身倦怠感、脱力があり、歩行困難な状況となり、死亡1ヶ月前に入院となった。塵肺による間質性肺炎に細菌感染を合併として、抗生剤等で治療したが好転しなかった。血液検査で、IgG4高値(437mg/dl)、sIL-2R(4956U/ml)がわかり、IgG4関連疾患が疑われた。その後、呼吸状態増悪したため、ステロイド治療開始となり、一次呼吸不全状態改善したが、最終的にはDIC、多臓器不全となり死亡した。 剖検所見では、肺は中等度に重量増加し、胸膜の肥厚、癒着と間質性肺炎+塵肺症を認めた。さらに、一部に器質化を伴う気管支肺炎の併発が見られた。明らかなグラム陽性菌、真菌、抗酸菌は検出されず、気管支肺炎の原因菌はグラム陰性菌と考えられる。IgG4関連疾患に関しては、肺や脾などのIgG4陽性細胞はごく少数で、閉塞性静脈炎や特徴的な線維化を認めなかった。ステロイド治療によりIgG4陽性細胞浸潤が軽快した可能性もあるが、剖検所見では、あきらかなIgG4関連疾患を示唆する所見はなかった。死因は呼吸不全として矛盾しない。 その他の所見として、大動脈粥状硬化症(高度) 動脈硬化性心腎硬化症+コレステロール塞栓、ステロイド治療関連と考えられる肝臓の結節性再生成過形成を認めた。</p>

5	CPC	2016/03/29 平成27年度 第5回医局 合同CPC	臨床診断	出血性脳 梗塞 慢性腎不 全 慢性尿路 感染症 2型糖尿病	マクロ主病変 {糖尿病} 1) 脾臓 扁平化/萎縮 (125g) 2) 大動脈粥状硬化症 (高度) 3) 腎萎縮+[慢性腎不全](75g:70g)	マクロ副病変 1. 求心性左心肥大 (490g, 左室壁 1.7cm, 右室壁 0.4cm) -冠動脈粥状硬化症 (中等度); LCA, LCX, RCAともに起始部は閉存; 中極側で狭窄 -左室側壁に1箇所、小斑状線維化あり。領域性の心筋梗塞はない。 2. 腎盂、尿管炎(腎盂-尿管粘膜炎) 3. 肝萎縮+肝うつ血 (軽度, 845g) 4. 脾腫 (軽度, 125g) 5. 胆嚢結石 (黒色石) 6. 大腸憩室 (軽度) 7. 左肺下葉含気低下 (軽度; 245g) 8. [出血性脳梗塞] (開頭なし)	マイクロ主病変 2型糖尿病(インスリン治療状態) 1) 脾臓アミロイド沈着+脾萎縮、扁平化(軽度) (125g) 2) 大動脈粥状硬化症 (高度) 3) 求心性左心肥大+斑状線維化 (490g, 左室壁 1.7cm, 右室壁 0.4cm) -冠動脈粥状硬化 (中等度) +右冠動脈ステント留置状態 4) 萎縮腎 (高度、糖尿病性腎硬化症)+[慢性腎不全:血液透析18年] (75g:70g) 5) [閉塞性動脈硬化症] (両下肢切断後状態) 1) 脾臓は軽度に萎縮扁平化しており、多数の脾臓にアミロイド沈着を認めた。2型糖尿病に合致する所見と考えられた。 2) 大動脈には高度の粥状硬化を認めた。特に腹部一分岐部では高度の壁石灰化を伴っていた。透視症例でしじば高度の石灰化を伴う強い大動脈硬化が見られ、本症例もこれにあてはまる。 3) 心臓は中等度の重量増加と左室壁肥厚を認め、求心性左心肥大の状態であった。右冠動脈には、起始部より約2cmの範囲に金属ステント留置を認めた。左冠動脈:前下降枝と回旋枝の起始部は開存しており、中極側で粥状硬化による狭窄を認めた。 心臓断面では、領域性の梗塞はなく、左室側壁、中隔に斑状線維化を認めた。狭心症に矛盾しない所見と考えられた。 4) 腎重量は低下し、表面は細顆粒状、腎実質の著明な菲薄化を示す萎縮腎の状態であった。組織学的には、ほぼ全ての糸球体は硝子化、つぶれを示し、残存糸球体は菲薄化を認め、糖尿病性腎硬化症を示唆する所見であった。中小動脈には内膜肥厚による内腔の狭小化をみた。	マイクロ副病変 1. 慢性腎盂尿管炎(腎盂-尿管粘膜炎:混濁、壁肥厚) 腎盂-尿管粘膜炎には混濁、出血と線維性の壁肥厚を認め、慢性腎盂尿管炎の所見であった。組織学的には、慢性腎盂尿管炎の所見である Thyroid-like appearanceと腎盂粘膜炎上皮下のリンパ濾胞形成を伴う軽度～中等度のリンパ球浸潤を認めた。慢性尿路感染を示唆する所見であった。 2. 肝萎縮+肝うつ血(軽度, 845g) 3. コレステリン塞栓+脾梗塞(125g) 4. 胆嚢結石(黒色石) 5. 大腸憩室(軽度) 6. 左肺下葉含気低下(軽度; 245g) 7. 低形成性骨髄(軽度) 8. [出血性脳梗塞](開頭なし)	マイクロ死因 [出血性脳梗塞] 2型糖尿病(42歳時に診断)を背景に、狭心症(50歳代)、糖尿病性腎症(62歳:血液透析導入)、閉塞性動脈硬化症(75, 77歳、両下肢切断)などを併発した80歳女性症例。1年ほど前より、細菌感染症を繰り返す、尿路感染症として抗生剤治療を受けていた。死亡約1ヶ月前に左脳の心源性脳塞栓症を発生し、右半身まひなどが認められていた。死亡前日、血圧上昇、意識レベル低下があり、CTにて出血性脳梗塞と診断され、舌根沈下による気道閉塞が出現し死亡された。 剖検所見では、インスリン治療状態の2型糖尿病に合致して、脾臓の高度のアミロイド沈着を認めた。糖尿病性大血管症として、高度の大動脈粥状硬化(中等度、右冠動脈ステント留置)、脾臓のコレステリン塞栓+脾梗塞を認めた。総動脈動脈にも高度の粥状硬化、狭窄を認め、閉塞性動脈硬化症に合致した所見であった。また、腎臓は萎縮腎の状態で、広範に糸球体は硝子化しており、構築上、糖尿病性腎硬化症の特徴である結節性病変を認めた。 臨床的に病巣不明の細菌感染にて発熱を繰り返しており、尿路感染症が考えられていた。剖検所見では、腎盂-尿管に、慢性炎症、線維化を認め、慢性尿路感染症に合致する所見であった。(膀胱は摘出されず未検索)。剖検で検索した肺などの臓器には直接死因となりうる病変が見られず、死因は、出血性脳梗塞と考えられた。
---	-----	--	------	---	---	---	--	---	---

## VIII 看護部実績





## 1 看護部師長会活動報告

### 1 目的

看護部の管理運営の円滑化を図り、病院運営に寄与する。

### 2 活動目標

- ①地域の発展に寄与することができるよう看護の専門性を高める。
- ②医療安全・感染防止に組織的に取り組み、安全・安心な看護の提供を行う。
- ③魅力的な職場環境を築き職員の満足度を高め、看護の充実に繋げる。
- ④部署の特性をふまえ、安全で効率的・専門性を発揮できる看護体制の検討と導入に取り組む。

### 3 委員

三好部長 以下 16 名

### 4 活動実績

(委員会)

- ・開催数 23回
- ・内容
  - ①看護部目標を受けての部署目標の設定、評価
  - ②病院全体会議、委員会の伝達
  - ③看護部として委嘱を受けた各委員会活動に関する報告、提案、討議、決定
  - ④看護部内での会議、委員会からの報告、提案、討議、決定
  - ⑤管理業務（人事・労務）に関する報告、提案、討議、決定
  - ⑥看護協会に関する報告、伝達

## 2 教育委員会活動報告

### 1 目的

- ①専門的な知識を現場で活かす教育の企画・運営を行う。
- ②看護実践者としてモデルとなる資質を有する看護師育成の教育を目指す。

### 2 活動方針

- ①看護部の理念に基づいた教育内容を企画・運営する。
- ②各ステップの段階別に分かれた研修の企画・運営を行う。
- ③研修の場を通して看護者としての資質を養う。

### 3 委員

(委員長) 小堀和美

(委員) 城越広恵 以下 20 名

#### 4 活動実績

(委員会)

開催日	内 容
5/1	平成 27 年度教育プログラム作成、ステップ別研修の企画・運営を検討
5/15	各ステップ担当者選定、各研修講師の検討、各研修の企画書作成
6/5	看護部の教育体制について、7 月からの教育委員会について説明
7/3	平成 27 年度教育委員会の編成について（教育委員のあり方）説明 委員紹介、各ステップ担当者選定、ステップ別に分かれてプログラムの 見直し及び検討
9/4	8 月の研修報告、9 月の研修予定、ケーススタディ進行状況
10/2	9 月の研修報告、10 月の研修予定、ケーススタディ進行状況
11/6	10 月の研修報告、11 月の研修予定
12/18	11 月～12 月前半の研修報告、12 月研修予定、各ステップ研修の見直し
1/15	研修報告、次年度に向けて課題の明確化、平成 28 年度各ステップ研修 の計画・立案
2/5	1 月の研修報告、2 月の研修予定、次年度のプログラムについて検討
3/4	次年度の教育方針について、各ステップの目標・追加教育の再検討 平成 28 年度教育プログラム作成

(研修会)

実施日	テーマ	講 師	ステップ	参加人数
6/4	ケーススタディとは	熊崎 裕子	3-①	9 名
6/11	フォローアップ研修	ステップ 2 担当者	2	14 名
7/2	メンバーシップ	小堀 和美 城越 広恵	3-① 3-②	7 名 14 名
7/2	ケーススタディ計画書提出	ステップ 2 担当者	2	
7/23	フィジカルアセスメント（正常編）	藤原 貞美子	2	15 名
7/30	リーダーシップとは	ステップ 4 担当者	4 以上	24 名
7/30	トピックス（がん性疼痛・感染管理）	田辺 理江 田中 恵実	全員	36 名
8/6	ディリーダー	今井 加央里	3-①	9 名
8/28	フィジカルアセスメント（異常編）	藤原 貞美子	2	15 名
9/8	K Y T	熊崎 裕子	2	14 名
9/10	リーダーシップ「退院支援編」	近江谷 未幸	4	12 名
9/24	事例検討（フィジカルアセスメント）	藤原 貞美子 江南 里美	3-②	9 名

10/9	リーダーシップ「退院支援編」	近江谷 未幸	4	12名
10/16	フォローアップ「プロセスレコード」	ステップ2担当者	2	15名
10/22	トピックス（緩和ケア・化学療法看護）	奥 佐知子 仲間 有希	全員	22名
11/3	コミュニケーション	仲間 有希	2	15名
11/26	夜勤リーダー	中野 瑠美子	3-②	10名
11/27	トピックス（皮膚排泄ケア・感染管理）	稲垣 香緒里 小堀 和美	全員	35名
12/3・4	ケーススタディ発表会 ※ケーススタディ（聴講） ※ケーススタディ（教育委員）	教育委員会	3-① 2	94名
12/15	事例検討「感染編」	小堀 和美	3-②	15名
1/28	看護過程	熊崎 裕子	2	14名
2/4	フォローアップ研修	ステップ3-① 担当者	3-①	10名
2/12	家族とは	仲間 有希	3-②	8名
2/25	トピックス（慢性呼吸器看護・救急看護）	若山 しのぶ 藤原 貞美子	全員	27名

## 5 次年度への評価・課題

（ステップ2）

- ・ステップ1の内容からの連携、フォローUPは現場教育の部分もあった。フォローアップ研修は途中の研修内容から変更、修正もできたので、次年度もこの方法は、取り入れていきたい。また、ステップ1からの連携を持った教育体制の検討が必要（知識も技術も含めて）
- ・内容に関して患者理解や自分の看護観を深める為にこのステップで何を学び、どう育てるかを明確にする必要がある。現場で活かせる内容を検討し、自分たちの看護が自信を持って行えるよう、アセスメント力、問題解決力を養える教育内容が必要である。
- ・ステップ3へ上がれなかった人の場合、どうするか教育体制を検討する必要がある。

（ステップ3-①）

- ・計画書の段階で、個人が症例から何を学ぶのか、部署の指導者が何を学ばせたいのかを明確にして取りかかるような体制作りが必要である。
- ・ケーススタディを通じて、師長や指導者に対して報告することや発表することの意義を理解できる体制を検討する。
- ・ケーススタディを部署内で指導するスタッフ（師長、主任、指導者）が指導を学ぶための支援も必要である。

（ステップ3-②）

- ・主体性を持った研修への参加を支援する方法について検討していく。

- ・専門的な看護の知識・技術の向上を目指し、フィジカルアセスメント能力の強化を図る研修内容・時間を検討していく。
- ・各々の研修の習熟度と学びを実践に活かしているかを評価する方法を検討していく。

(ステップ4)

- ・次年度は研修対象者をステップ4-①(初年度)4-②(初年度以上)として研修を実施していく必要がある。
- ・今年度の4-②(10年目以上)の研修内容を充実させる必要がある。  
「研究的視点」を取り入れた研修(部署業務改善やプレゼンテーションなど)の検討が必要である。

### 3 実習指導者会活動報告

#### 1 目的

看護学生が各期の実習目的・目標が達成できるよう学校と病院の連携を深める。

#### 2 活動方針

学校・指導者・スタッフが協同し、看護学生が学びやすい環境・指導体制を形成する。

#### 3 活動実績

##### (1) 敦賀市立看護専門学校

- ・実習指導者：上田紀子 以下7名
- ・実習担当師長：城越広恵
- ・実習指導者会議：7回開催 看護専門学校教員 実習指導者出席
- ・会議内容：実習の振り返りと時期実習の打ち合わせ

3月→次年度の予定計画 会議開催予定計画

##### (2) 敦賀市立看護大学

- ・実習指導者：池上由希子 以下7名
- ・実習担当師長：城越広恵
- ・実習指導者会議：7回開催
- ・会議内容：基礎看護学実習打ち合わせ

## 4 褥瘡委員会活動報告

### 1 目的

- ①入院中の方に褥瘡を発生させない。
- ②褥瘡を保有する人には早期治癒できるようケアを行う。

### 2 活動方針

- ①入院時評価～ケア計画、実施評価まで、褥瘡に関する記録類を整備し院内統一を図る
- ②褥瘡に関する物品の整備を行い、適正な使用の確認を定期的に行う
- ③院内スタッフへの教育を行い発生予防と褥瘡発生時褥瘡保有者の入院時の対応が取れ  
早期に褥瘡の治癒・回復に向かわせる

### 3 委員

(委員長) 稲垣香緒里

(委員) 前田昭子 以下 12 名

### 4 委員会等

- ・褥瘡チーム会 18回
- ・褥瘡ラウンド 10回
- (1) 褥瘡に関する記録の整備をする
  - ・褥瘡チェックリスト作成
  - ・DESIGN表の修正
- (2) 褥瘡に関する物品の整備、適正使用の確認
  - ・褥瘡対応マット早見表の作成
- (3) 院内スタッフへの教育
  - ・DESIGNの記載方法について
  - ・ドレッシング材についての勉強会の実施
- (4) 褥瘡チームラウンド
  - ・認定看護師により選出された患者の褥瘡ラウンド
  - ・ラウンド後、皮膚科医師を交えたカンファレンスの実施
  - ・カンファレンスでの検討事項を委員が自部署に持ち帰り、知識・技術を伝達

## 5 記録監査委員会活動報告

### 1 目的

- ・看護課程の展開が効率的に正確に記載された看護記録を目指す。
- ・看護記録全般の監査を行い質の向上を図る。

### 2 活動方針

- ・NANDA看護診断の知識を深めるための研修会を計画する。
- ・重症度、医療・看護必要度に関する学習会を実施し、精度の確保と記録の充実につなげる。
- ・日々の記録監査、集計、分析を実施し、結果をスタッフにフィードバックする。

### 3 委員

(委員長) 田辺里江

(委員) 中西真由美 以下 12 名

### 4 活動実績

(委員会)

- ・開催数 10回
- ・内容
  - ①NANDA看護診断勉強会、模擬事例の作成
  - ②重症度、医療・看護必要度院内基準の作成  
監査、確認テストの実施
  - ③看護記録監査表の作成  
従来監査表の見直し、監査の実施

(研修会)

- ・重症度、医療・看護必要度院内研修会

## 6 看護業務委員会活動報告

### 1 目的

看護業務の安全性と看護の質を確保するために、看護業務の標準化と統一を図り、これらを定期的に見直す。電子カルテ上の看護業務に関するトラブルを明らかにし、改善する。

### 2 目標

- ・看護業務の安全性と質を確保するために、市立敦賀病院の看護業務の見直しを行う。
- ・市立敦賀病院の看護業務を標準化と文章化し、マニュアルを作成する。
- ・作成されたマニュアルを周知し、標準化されたケアを行えるようにする。
- ・電子カルテ上の看護業務に関するトラブルを分析し、その問題点を改善し、看護の安全性、質の向上に努める。

### 3 委員

(委員長) 西島信子

(委員) 湊直子 以下13名

### 4 活動実績

(委員会)

・開催数 10回

・内容

業務基準の作成

- ・食事に関すること
- ・ドレーン管理に関すること
- ・抑制・拘束
- ・採血
- ・指示受け
- ・患者認証
- ・陰部洗浄

## 7 認定看護師活動報告

### 1 目的

- ①学会や研修会に積極的に参加し、専門的知識・技術の向上を図り、自己研鑽に努める。
- ②認定看護師として質の高い看護実践・指導・相談の役割を院内や地域で発揮する。
- ③認定看護師の役割機能を拡大し「教育的な役割」を担うことで、病院全体の看護の質の向上に寄与する。

### 2 活動方針

- ①看護部の理念に基づき、一人ひとりが専門職業人としての責任と役割を自覚し看護水準の向上に寄与する活動を目指す。
- ②地域の人々が、安心して利用できる病院づくりに貢献するために、看護職員に専門的知識と技術を提供する。

### 3 認定領域

【感染管理】看護師長 小堀和美	【がん性疼痛看護】看護師長 田辺里江
【がん化学療法看護】主任看護師 奥佐知子	【救急看護】主任看護師 藤原貞美子
【皮膚・排泄ケア】主任看護師 稲垣香緒里	【緩和ケア】看護師 仲間有希
【感染管理】看護師 田中恵実	【慢性呼吸器看護】看護師 若山しのぶ

### 4 活動実績

(各認定領域の活動)

#### (1) 感染管理

活動内容	主な参加学会、研修会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止対策加算1・2連携</li> <li>・感染防止対策地域連携加算</li> <li>・ICTカンファレンス(1/W)</li> <li>・ICTラウンド(2/W)</li> <li>・感染リンクナース環境ラウンド(1/M)</li> <li>・感染リンクスタッフ活動(1/M)</li> <li>・国立病院福井病院機構研修講師</li> <li>・泉ヶ丘病院感染対策研修講師</li> <li>・新人研修「感染管理についてI・II」</li> <li>・ステップ2研修「標準予防策」</li> <li>・吐物処理実践研修(各部署リンクナース中心に)</li> </ul>	<p>【学会発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体病院学会</li> </ul> <p>【研修会発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嶺南インフェクションコントロール発表</li> </ul> <p>【学会参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境感染学会参加</li> </ul> <p>【研修会参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染管理認定看護師のためのキャリアディベロップメント研修</li> </ul>

#### (2) がん性疼痛看護

活動内容	主な参加学会、研修会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん性疼痛を有する患者・家族の苦痛軽減のための介入(病棟ラウンド・コンサルテーション)</li> <li>・がん患者の退院支援・調整(21件)</li> </ul>	<p>【学会参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本がん看護学術集会</li> <li>・日本緩和医療学術集会</li> </ul>



<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケア委員会（年2回）、化学療法委員会（年3回）、地域がん診療連携拠点病院推進委員会（年2回）参加</li> <li>・リンパ浮腫への介入（8件）</li> <li>・地域連携症例検討会参加</li> </ul>	<p><b>【研修会参加】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定看護師フォローアップ研修</li> <li>・日本死の臨床研究会</li> <li>・医療リンパセラピスト研修</li> </ul>
---	--

### (3) がん化学療法看護

活動内容	主な参加学会、研修会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来化学療法室におけるがん化学療法件数 1539件</li> <li>・がん化学療法を受ける患者の投与管理、セルフケア支援、意思決定支援など</li> <li>・内科、化学療法室カンファレンス（2回/月）</li> <li>・関連病棟、薬局、化学療法室スタッフミーティング</li> <li>・緩和ケアチーム会</li> <li>・地域連携勉強会</li> </ul>	<p><b>【参加学会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本癌治療学会</li> <li>・日本乳癌学会中部地方会</li> </ul> <p><b>【研修会参加】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定看護師フォローアップセミナー</li> <li>・JCCNG 福井定例会（隔月）</li> </ul>

### (4) 救急看護

活動内容	主な参加学会、研修会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急カート点検ラウンド（6月・9月・10月・2月）</li> <li>・コードブルー検証（6月：北4、1月：北3、外来）</li> <li>・ENN発行（6～8号）</li> <li>・つるが ICLS インストラクター（5月23日）</li> <li>・新人研修「フィジカルアセスメント～意識・体温～」講師（5月29日）</li> <li>・新人研修「フィジカルアセスメント～循環～」講師（6月19日）</li> <li>・ステップ2研修「フィジカルアセスメント正常編」講師（7月23日）</li> <li>・子育て支援センター出前講座「こどもの心肺蘇生」講師（7月14日、9月10日）</li> <li>・ステップ2研修「フィジカルアセスメント異常編」講師（8月28日）</li> <li>・ステップ3-②研修「フィジカルアセスメント～事例検討～」講師（9月24日）</li> <li>・つるが ICLS インストラクター（9月19日）</li> <li>・JMECC インストラクター（10月4日・富山県立中央病院）</li> <li>・子育て支援センター出前講座「こどもの急病の対処法」講師（10月20日、11月12日）</li> <li>・新人研修「アナフィラキシーショックの対応」講師（12月11日）</li> <li>・トピックス研修「あなたの報告、緊急性が伝わりますか?!」講師（2月25日）</li> </ul>	<p><b>【学会参加】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本臨床救急医学会参加（6月4～6日・富山）</li> </ul> <p><b>【研修会参加】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「フィジカルアセスメント・臨床推論の進め方」講義聴講（6月3日）富山県立大学 講師：名古屋大学大学院教授山内豊明</li> <li>・日本救急看護認定看護師会ブラッシュアップセミナー受講（9月26日・東京）</li> <li>・日本救急医学会中部地方会参加（12月12日・福井）</li> <li>・大阪府看護協会認定看護師会ブラッシュアップセミナー参加（2月6日）</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・JMECC (内科救急シミュレーションコース) インストラクター (2月13日・市立敦賀病院)</li> <li>・「救急医療情報キットの活用について」福井県看護協会 職能委員会Ⅱ研修会で講義 (2月20日)</li> <li>・外来勉強会「それって何の薬? どこにあるの〜?」講師 (2月29日)</li> <li>・外来勉強会「救急外来での困ったあるある、覚えておくといいかも! 集」講師 (3月24日)</li> <li>・地域開放学習会「BLS」講師 (3月18日)</li> </ul>	
--	--

#### (5) 皮膚・排泄ケア

活動内容	主な参加学会、研修会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・褥瘡ラウンド (毎週火曜日)</li> <li>・ストーマケア (入院・外来患者)</li> <li>・下肢創傷処置</li> <li>・褥瘡データ収集 (推定発生率・褥瘡保有率・治癒率 毎月報告)</li> <li>・スキントアの処置</li> <li>・地域勉強会 (地域連携) 年3回褥瘡の基礎 (DESIGN-R, 薬剤について)</li> <li>・新人研修講師 (褥瘡ケア)</li> <li>・トピックス研修「スキントア」 (11/27)</li> </ul>	<p><b>【学会参加】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本褥瘡学会</li> <li>・創傷・オストミー・失禁管理学会</li> <li>・ストーマリハビリテーション学会</li> <li>・下肢救済・足病学会</li> <li>・関西ストーマ研究会</li> </ul>

#### (6) 緩和ケア

活動内容	主な参加学会、研修会
<p><b>【院内】</b></p> <p>緩和ケアチーム会 (1回/2週: 火曜日)</p> <p>緩和ケア委員会</p> <p>緩和ケアラウンド (不定期) 依頼患者のみ</p> <p>疼痛などの症状緩和、意思決定支援、退院調整など</p> <p><b>【院外】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井県看護協会 ELNEC - J コアカリキュラム 講師 (8/18・19)</li> <li>・認定看護師出前講座 公立小浜病院 講師</li> </ul> <p>『緩和ケアにおける倫理的配慮—その人らしさを支える—』 (10/23)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新人教育『エンゼルケア』講師 (11/20)</li> <li>・ステップ2研修『コミュニケーションについて』講師 (11/13)</li> <li>・ステップ3-②研修『家族とは』講師 (2/12)</li> </ul>	<p><b>【学会参加】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本緩和医療学会学術大会 参加</li> </ul> <p><b>【認定看護師審査】</b></p> <p>緩和ケア認定看護師更新審査 合格</p>

(7) 感染管理

活動内容	主な参加学会、研修会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術部位感染データ提出 (JANIS)</li> <li>・手術室での体温調整グループでの体温管理</li> <li>・中央材料室の洗浄・消毒・滅菌業務の再検討</li> <li>・泌尿器科内視鏡の洗浄の再検討</li> <li>・トピックス研修講師「感染対策」(7/30)</li> </ul>	<p><b>【学会発表】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境感染学会</li> </ul> <p>「手術室看護師の清潔・不潔の意識向上のためのとりくみー手術時手洗いの評価よりー」</p>

(8) 慢性呼吸器看護

活動内容	主な参加学会、研修会
<p><b>【病棟】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフの呼吸ケアの質の向上のための、勉強会の開催</li> <li>・各マニュアルの作成</li> <li>・トロッカー、アスピレーションキット挿入</li> <li>・人工呼吸器 (NPPV、IPPV) の管理</li> <li>・HOT 導入指導マニュアルの作成</li> </ul> <p><b>【院内】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・RST (呼吸ケアチーム) 活動 人工呼吸器からの離脱に向けての介入</li> <li>・新人研修 (呼吸ケア) フィジカルアセスメント、酸素療法、吸引手技、人工呼吸器</li> </ul> <p><b>【地域】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域公開講座 慢性呼吸器疾患患者の療養生活について 在宅酸素療法について</li> </ul>	<p><b>【学会参加】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本呼吸器学会</li> <li>・呼吸療法医学学会</li> <li>・結核学会</li> <li>・呼吸ケア・リハビリテーション学会</li> </ul> <p><b>【研修会参加】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井大学キャリアアップ研修 『病みの軌跡理論』特別講義 『人工呼吸器療法』</li> <li>・呼吸ケア研究会</li> <li>・日本呼吸器学会 『口腔ケア研修』</li> </ul>

## 8 教育研修実績

### (1) 講師の実績

#### 【講師実績】

- ・「ようこそ先輩」敦賀市立角鹿中学校 城越広恵
- ・「あなたにもケアできる腹膜透析体験セミナー」 砂原里子
- ・公立若狭高等看護学院 母性看護学各論 山本真貴
- ・「先輩と語る会」美浜町立美浜中学校 渡邊亘頭
- ・「看護職への道」福井県ナースセンター 竹村貴史 杉本智恵
- ・「母子における防災マニュアル作成にあたって」 助産師会 岸本千鶴
- ・「救急医療情報キット」福井県看護協会 藤原貞美子

#### 【実習受け入れ】

- ・敦賀市立看護大学基礎実習
- ・敦賀市立看護専門学校学生
- ・愛知県愛西学園弥富看護学校通信制実習
- ・公立若狭高等看護学院 母性看護臨床実習
- ・敦賀市立看護大学キャリアゼミⅠ 看護師ヘインタビュー

#### 【新人看護師研修受け入れ】

- ・福井県新人看護職員研修集合研修

#### 【看護協会 委員会】

- ・理事会 三好啓子
- ・ナースセンター事業運営委員会 三好啓子
- ・教育委員 稲垣香緒里
- ・広報委員 水上麻子
- ・福井県災害看護委員 久保幸子
- ・助産師職能委員 三好啓子 中西真由美
- ・看護師職能委員 新谷あゆみ
- ・医療看護安全委員 若杉美恵
- ・救急看護委員 藤原貞美子
- ・福井県看護協会地区委員 八木佳子
- ・女性の健康相談窓口事業委員 岸本千鶴
- ・推薦委員 飯田登美子

#### 【福井県臓器移植普及推進連絡協議会】

- ・委員：藤井優子，若杉美恵

#### 【学会・研究発表】

- ・第31回 日本環境感染学会 田中恵実

#### 【その他】

- ・高校生1日看護体験
- ・北信越地区高等学校野球福井県大会救護
- ・全国高等学校野球選手権福井大会救護
- ・市民スポーツ祭救護
- ・敦賀マラソン大会救護
- ・野坂山市民登山救護
- ・敦賀青年会議所野坂山登山救護
- ・敦賀まつり救護
- ・ふくい看護職就職相談会

## (2) 院外研修実績

月 日	研 修 名	場 所	人 数
4月19日	急変対応研修	滋賀県ニプロ研修室	2名
4月26日	福井県助産師会研修会	A O S S A	2名
5月9日	看護研究 実践編	福井県看護協会	3名
5月18日 ～20日	P N S 研修	福井大学医学部 附属病院	3名
5月20日～ 8月13日	平成27年度 認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	福井県看護協会	2名
6月1日 ～3日	P N S 研修	福井大学医学部 附属病院	3名
6月3日～ 9月2日	福井県保健師・助産師・看護師実習指導者 講習会	福井県看護協会	1名
6月6日	シュミレーション教育	福井県看護協会	2名
6月18日 ～20日	第20回 緩和医療学会学術集会	パシフィコ横浜	2名
6月22日 ～24日	P N S 研修	福井大学医学部 附属病院	2名
7月11日	転倒転落事故防止	福井県看護協会	21名
7月16日 ～19日	福島災害医療セミナー	福島県立医科大学	1名
7月18日 ～19日	平成27年度 透析療法従事者職員研修	大宮ソニックシティ	1名
7月25日	助産師実践能力強化研修会	福井県看護協会	5名
8月3日 ～5日	P N S 研修	福井大学医学部 附属病院	3名
8月6日	認知症ケア	敦賀医療センター	2名
8月8日	福井県看護研究発表会	福井県看護協会	8名
8月8日 ～9日	平成27年度 がん相談支援センター 相談員基礎研修(3)	新大阪研修センター	1名
8月18日 19日	E L N E C - J コアカリキュラム 看護師教育プログラム	福井県看護協会	4名
8月28日 ～29日	第17回 日本褥創学会学術集会	宮城県 仙台国際センター	1名

月 日	研 修 名	場 所	人 数
9月5日	フィジカルアセスメント 呼吸	福井県看護協会	13名
9月5日	看護師職能委員会 合同研修会	福井県看護協会	1名
9月7日 ～8日	北陸ブロック内エイズ治療拠点病院等 医療従事者向け HIV/AIDS 専門外来 2 日 間研修	石川県立中央病院	2名
9月16日 ～19日	平成 27 年度 第 4 回 日本 DMAT 隊員養成研修	兵庫県災害医療セン ター	1名
9月17日 10月1日 11月18日	研修責任者 教育担当者研修	福井県看護協会	2名
9月16日	看護管理能力育成研修	福井県看護協会	2名
9月24日～ 11月20日	平成 27 年度 認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	福井県看護協会	2名
9月26日	危険予知トレーニング研修	市立敦賀病院	2名
10月6日	変化する医療提供体制に対応する看護実 践能力	福井県立大学	3名
10月7日 ～9日	第 5 4 回 自治体病院学会	函館市民会館	2名
10月8日	多職種連携研修 在宅生活支援	プラザ萬象	1名
10月8日 ～9日	看護管理研修 看護職副院長・看護部長 経営管理コース	東京都 ホギメディカル	1名
10月15日 ～16日	第 25 回 日本呼吸ケア・リハビリテーシ ョン学会	東京ベイ舞浜ホテル	1名
10月23日	看護制度委員会研修	福井県看護協会	3名
10月29日 ～30日	看護管理能力育成研修	福井大学医学部附属 病院	8名
10月29日 ～31日	第 53 回 日本癌治療学会学術集会	国立京都国際会館	1名
11月7日 ～8日	平成 27 年度 重症度、医療・看護必要度 評価者養成研修会	東京ベルサール神田	2名
11月11日 ～13日	研修指導者 実地指導者研修	市立敦賀病院	8名

月 日	研 修 名	場 所	人 数
11月16日 ～18日	PNS研修	福井大学医学部 附属病院	4名
11月22日 ～29日	平成27年度 全国自治体病院協議会 海外医療視察A研修団	スウェーデン デンマーク	1名
11月24日 ～26日	PNS研修	福井大学医学部 附属病院	4名
11月19日	高齢者終末期ケアにおける倫理的問題	福井県看護協会	2名
11月21日	在宅移行支援研修	福井県看護協会	4名
12月3日	人工呼吸器装着等難病患者の在宅療養支 援検討会	二州健康福祉センタ ー	1名
12月7日	東海・北陸地区産科管理者交流会	ウイルあいち	3名
12月7日 ～8日	平成27年度 院内感染対策講習会	神戸国際会議所	2名
12月23日	医療事故調査制度に関する説明会 福井県地域医療構想説明会	福井県自治会館	10名
1月16日	被爆医療 原子力災害時にできること	福井県看護協会	2名
1月30日	看護師職能集会	福井県看護協会	12名
2月6日	嶺南感染コントロールフォーラム	若狭町 レピア	1名
2月6日	助産師職能集会	福井県看護協会	4名
2月10日	新人フォローアップ研修	福井県看護協会	15名
2月19日	新人看護職員指導者フォローアップ研修	福井県看護協会	5名
2月19日 ～21日	第30回 日本癌看護学会学術集会	幕張メッセ	1名
2月19日 ～20日	第31回 日本環境感染学会総会 学術集会	国立京都国際会館	2名
2月25日 ～26日	日本静脈経腸栄養学会学術集会	福岡国際会議場 マリンメッセ福岡	4名
2月29日	看護師の特定行為研修に関する説明会	福井県看護協会	3名
3月3日 ～6日	第24回 北越ストマリハビリテーション 講習会	新潟大学医歯学 総合病院	2名
3月12日	看護記録の基本をマスターしよう	福井県看護協会	15名
3月17日	社会保険診療報酬改定説明会	福井県看護協会	16名





## IX 臨床研修プログラム概要



## ＜平成27年度 市立敦賀病院臨床研修プログラム概要と実績＞

### 1 プログラムの名称

市立敦賀病院臨床研修プログラム

### 2 プログラムの目的と特徴

プライマリー・ケアを中心に、医師として必要な基本的診療能力（態度、技能、知識）を身に付け、患者とのコミュニケーションやチーム医療など医療人としての人格を涵養することがこの研修プログラムの目的です。

当院の卒後臨床研修は、協力型（金沢大学附属病院、福井大学医学部附属病院）および基幹型臨床研修病院として、病院群を形成し連携をとりながら研修を行います。また、地域医療における療養型病院、診療所などの研修をはじめとして、本院で行う各診療科のプログラムの一部を担うため、豊富な研修協力施設を設けています。

なお、当院の協力型研修は、金沢大学附属病院および福井大学医学部附属病院と各々たすきがけ方式を採用していますので、研修のコース選択によっては両大学病院の研修プログラムと全く同じか一部重複するところがあります。

### 3 研修方式および研修内容

当院、猪原病院、泉ヶ丘病院などにおいて研修を行う。

#### （1）オリエンテーション

研修開始直後の数日間はオリエンテーションを行います。研修を円滑に実施できるよう、カルテの記載、インフォームド・コンセント、医療事故、院内感染、チーム医療、保険医療など、医療を行うために必要な事項を学びます。

#### （2）基本科目研修

基本科目研修では、内科6ヶ月、救急3ヶ月、地域医療1ヶ月の研修を行います。

①内科研修では、消化器、循環器、内分泌・代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、透析の内科領域の到達目標を達成できるようローテート研修します。

②救急研修では、救急初期診療の実践訓練を主体とします。全ての救急患者に対して、電話連絡の時点からの情報収集、患者や家族、救急隊へのアドバイスを含めて、救急室における初期診療全般に関して、救急・内科・麻酔科医師等の監督・指導のもとに実践します。また、ローテーション中に心肺蘇生のミニ訓練コース、外傷初期診療のミニ訓練コースを受講していただきます。

③地域医療では、「かかりつけ医」として必要な技能と判断力のうち最低限度のものを身につけることを研修します。

#### （3）選択必修科目研修

1年目又は2年目の選択必修科目研修では、外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科のうち、2科目以上とし、研修期間については研修医の希望によることができます。

①外科研修では、外科的疾患に対する診断法・手術手技・術後管理の基本と外科的救急疾患へのプライマリ・ケアが修得できるよう研修します。

②麻酔科研修では、麻酔科医療を適切に行なうために必要な最低限の基礎知識、技能、態度を修得します。

- ・患者の全身状態の把握の仕方と患者との接し方を会得する。
- ・呼吸、循環、代謝などの全身管理学の基本を手術麻酔管理を通じて身に付ける。
- ・手術室での研修を基本として、重症患者管理、救急蘇生、救急処置が速やかに行える技術を修得する。
- ・疼痛を中心とした神経管理・除痛、調整、回復蘇生の技術を外来、手術室、病室において

研修する。

③小児科研修では、小児医療を適切に行うために必要な最低限の基礎知識、技能、態度を修得します。

- ・小児および小児期の疾患の特性を学び、小児の診療の特性を学ぶ。
- ・検診などを通して発育、発達についての知識を深める。
- ・年齢による検査値や薬用量の違いを知る。
- ・母親など保護者との信頼関係の確立とコミュニケーションの保持に努める。

④産婦人科研修では、一般患者全般を診るために必要な産科婦人科診療を体験し学びます。具体的には、妊娠に関連する症状や異常、婦人科疾患による諸症状を、他の異常と見誤らない能力と知識を身につけます。

⑤精神科研修では、精神疾患に対する診断、治療、予防についての健全な臨床的判断とそれに必要な知識を修得します。

#### (4) 選択科目研修

選択科目研修は、それまでの研修で不十分であった部分を補ったり、将来の進路に合わせて研修医の自由選択により、本院の次の診療科等から選択して研修を行います。

内科（消化器、循環器、血液、アレルギー・膠原病、感染症、神経、脳血管障害、内分泌代謝、腎・透析・高血圧、呼吸器）、小児科、呼吸器外科、消化器外科、血管外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、神経科精神科、救急・麻酔科・地域保健（二州健康福祉センター・福井県赤十字血液センター）

#### 4 研修協力病院・施設

地域の研修協力病院や研修協力施設と連携をとりながら効果的な研修を行います。これらの病院や施設には特色あるプログラムが用意されています。

- ・協力型臨床研修病院  
医療法人積善会 猪原病院（精神科）  
福井大学医学部附属病院救急部（救急）  
福井県立病院救急部（救急）  
金沢大学附属病院（内科）  
医療法人 敦賀温泉病院（精神科）
- ・臨床研修協力施設  
医療法人保仁会 泉ヶ丘病院（地域医療）  
美浜町東部診療所（地域医療）  
福井県医療生活協同組合つるが生協診療所（地域医療）  
福井県二州健康福祉センター（地域保健）  
福井県赤十字血液センター（地域保健）

#### 5 研修指導体制

研修の管理責任者は市立敦賀病院長であり、病院長のもとに研修管理委員会を置き、研修の計画から修了認定までを管理します。また研修期間中、プログラムおよび研修医の指導・管理を担当するプログラム責任者、研修医を直接指導し評価を行う研修指導医を置きます。

##### (1) 研修管理委員会

研修管理委員会は、病院長、プログラム責任者、副プログラム責任者、各診療科研修実施責任者および臨床研修協力病院、地域保健・医療を含めた研修協力施設の代表者および事務責任者で組織し、臨床研修プログラムおよび研修医の管理、評価等を行います。

##### (2) プログラム責任者（臨床研修センター 音羽 勘一）

プログラム責任者は、研修プログラム全体を統括し、全研修期間を通して研修医の指導・管理を行います。また、各診療科および各臨床研修協力病院に研修実施責任者を置き、当該診療科等の研修期間中プログラムを管理し、研修医の指導・管理を行います。

### (3) 研修指導医

指導医は、研修プログラムに基づき直接研修医を指導し、研修医に対する評価を行います。指導医は臨床経験7年以上の指導医講習会受講済者で、プライマリ・ケアを中心とした指導を行える十分な能力を有する者とし、診療科長の推薦により病院長が任命します。なお、研修協力病院および研修協力施設の指導医はその病院または施設の長に委ねます。

### (4) 臨床研修の評価と修了認定

- ①指導医は担当する診療科での研修期間中、研修目標の到達状況を適宜把握し、研修実施責任者に報告します。
- ②各診療科の研修実施責任者は、当該研修期間が終了したとき、研修医の目標到達状況をプログラム責任者および研修管理委員会に報告します。
- ③研修管理委員会は、研修終了時に、勤務記録、行動目標や経験目標の到達度などで総合的な評価を行います。病院長は、研修管理委員会が臨床研修を修了したと認めるときは臨床研修修了証書を交付します。また、臨床研修を修了したと認めないときは、その理由を文書で研修医に通知します。

## 6 研修医の募集人員および選抜方法

基幹型研修プログラムを全国に公開し、マッチング方式により全国から募集します。大学病院との協力型研修の場合は、全国公募はありません。応募の窓口は臨床研修センターとします。

### (1) 募集人員

6名

### (2) 選抜方法

研修医の選抜は、書類審査および面接により行います。面接は夏季休暇期間中に複数回実施します。出願書類、選抜期日など詳細は決定次第発表します。

### (3) 選考結果通知

医師臨床研修マッチングの結果により決定し、速やかに本人に通知します。

## 7 処遇

処遇については以下のとおりです。なお、研修協力病院における処遇は、当該病院の定めるところによります。

身分	臨時医師
給与	1年次 465,000円（平成28年4月1日現在） 2年次 481,430円（平成28年4月1日現在） （医師手当、地域手当、夜間救急医療業務手当、病院業務手当等を含む。）
その他手当	超過勤務手当、宿日直手当等
賞与	1年次 計 834,750円（平成28年4月1日現在） 2年次 計 1,304,520円（平成28年4月1日現在）
勤務時間	8時30分～17時15分
休日・休暇	土・日曜日、祝日、夏期休暇、年次休暇、特別休暇等 （正規職員に準ずる。）
宿舎	あり
社会保険等	社会保険、厚生年金、労災保険、雇用保険適用
医師賠償責任保険	施設として加入
その他	学会、研修会の旅費および負担金の支給あり

8 臨床研修ローテーション表

・1年次 基本研修科目（基本パターン）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科			救急			内科			外科・麻酔科 小児科・産婦人科 精神科から選択		

・2年次 必修科目および選択科目（基本パターン）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域医療	選択科目										

\*ただし、選択科目のうち9ヶ月以上は、市立敦賀病院における研修とする。

\*2年次に1週間、福井県赤十字血液センター研修を行う。

<初期研修医の採用状況>

年度	定員 (基幹型)	採用数 (協力型含む)	出身大学
平成16年度	4	1	福井大学
平成17年度	4	4	福井大学(3)、金沢大学
平成18年度	4	3	福井大学(3)
平成19年度	6	2	福井大学、兵庫医科大学
平成20年度	6	6	福井大学(2)、金沢大学、山梨大学 昭和大学、慶應義塾大学
平成21年度	6	3	金沢大学、関西医科大学、広島大学
平成22年度	6	6	福井大学、金沢大学、東京大学 滋賀医科大学(2)、島根大学
平成23年度	6	8	金沢大学(2)、北海道大学、高知大学 大阪市立大学、熊本大学、佐賀大学 三重大学
平成24年度	6	4	金沢大学、高知大学、三重大学 関西医科大学
平成25年度	6	5	福井大学、金沢大学、新潟大学、 大阪医科大学、関西医科大学
平成26年度	6	5	福井大学(2)、金沢大学、 旭川医科大学、大阪市立大学
平成27年度	6	3	福井大学(2)、大阪市立大学
平成28年度	6	5	福井大学(2)、京都府立大学、 近畿大学、旭川医科大学

# 参 考 资 料





## 第2次市立敦賀病院中期経営計画の概要

### 1 策定の経緯

第2次市立敦賀病院中期経営計画は、第1次の計画の進捗状況及び「第6次福井県医療計画」など医療制度の方向性をふまえて策定した。

国は病院における入院治療を中心とする医療から在宅医療への移行を推進するとともに、介護制度などを含め地域全体で医療・介護をする地域包括ケアシステムの構築を目指している。

当院は、このように医療制度が大きく変化する中、新たな事業計画及び経営指標の達成に向けて経営改善を発展的に継続し「地域の医療をささえ、信頼され、温もりのある」病院づくりを推進し市民の医療ニーズに対応するものとする。

### 2 事業計画（計画期間中の取組目標）

#### (1) 人材の確保、定着及び育成

##### ア 医師の確保

- ・関係機関の協力と実践的な臨床研修プログラムによる研修医の確保により、医師の増員を図る。
- ・医師の事務負担を軽減し診療に専念できる環境づくりのため、医師事務作業補助者を増員する。

##### イ 看護師等の確保

- ・敦賀市立看護大学の実習病院として良好な学習、実習環境を提供する。
- ・継続的に認定看護師を養成する。
- ・看護補助者の採用による看護業務の負担軽減を図る。

##### ウ 薬剤師の確保

- ・修学資金制度を継続運用するとともに、大学薬学部への広報を強化する。

##### エ その他の医療職の確保

- ・理学療法士等の適正な人員を確保し、祝日等のリハビリを含めた機能の充実を図る。

##### オ 事務職

- ・地域がん診療連携拠点病院及び地域医療支援病院の指定・承認に向けて、地域医療連携体制及び医療福祉相談体制の充実に必要な医療ソーシャルワーカーの人員を確保する。

##### カ 問題解決力の向上と活力ある職場づくり

- ・各部署の年次計画（アクションプラン）の設定を継続する。

- ・目標管理制度や人事考課制度を医師及び医療技術職員に拡大し、職員の意欲向上と能力開発を促進する。
- ・院内保育所について利用状況に応じて拡充を検討する。

## (2) 医療機能の充実と情報発信

### ア 救急医療、災害時医療の充実

- ・関係機関との連携により医師を確保し救急医療体制の充実を図る。
- ・災害拠点病院として防災訓練を定期的実施するとともに、災害医療チーム（DMAT）の人員確保と研修・訓練による技能向上を図る。

### イ 地域医療確保のために果たすべき役割

- ・高度医療機器の計画的な整備と、地域の医療機関への広報により利用を促進する。
- ・地域がん診療連携拠点病院及び地域医療支援病院の指定・承認を目指す。

### ウ 医療の質、医療安全の推進

- ・医療安全大会の開催を継続する。
- ・クリティカルパスの作成数の増加と利用率の増加を図る。
- ・電子カルテシステムを更新する。
- ・病院機能評価など外部機関の審査制度により医療の質の確保と患者サービスの向上を図る。

### エ 患者サービスの向上

- ・患者アンケートの実施と改善活動への反映を継続する。
- ・職員接遇研修の継続的に実施する。

### オ 地域医療連携の推進

- ・ふくいメディカルネットの運用を推進する。
- ・紹介率、逆紹介率を向上させ地域医療支援病院の指定を目指す。
- ・地域連携クリティカルパスの作成と利用を促進する。

### カ 当院の取組みの情報発信

- ・ホームページ、院内掲示、広報紙による情報発信を強化する。
- ・市民公開講座、出前講座、病院フェスタを継続開催する。

## (3) 収入増加と経費削減への取組み

### ア D P C 請求病院としての効率的・効果的な医療の提供

- ・平均在院日数の短縮を図る。
- ・診療科別損益分析・検証により効率的・効果的診療を実施する。

イ 手術の増加

- ・患者増加により手術件数の増加を目指す。

ウ 新規施設基準等の取得

- ・地域がん診療連携拠点病院の指定及び地域医療支援病院の承認を目指す。
- ・新規の施設基準の取得を継続的に目指す。

エ 自費診療

- ・人間ドックの利用増加を目指す。
- ・オプション検査等の利用増加を目指す。

オ 委託化の推進、経費の縮減、業務の質の確保

- ・後発医薬品の採用率数量ベース60%を目指す。
- ・委託業務の指導・監督の強化により、業務の適正運用と質を確保する。
- ・高額の未収金回収を強化するとともに、新たな未収金の発生の抑制を図る。

(4) 経営形態の見直し

- ・地方公営企業法の全部適用病院へ移行し、より柔軟な経営形態を実施する。

(5) 地域包括ケアについて

- ・県、市町、医療・福祉・介護の関係機関等の協議の場に参画する。

3 主要経営指標（数値目標）

事業計画を推進し、安定的な経営を継続するため次の数値目標を設定する。

項目		H27年度実績	H30年度目標	備考
経常収支比率		103.8%	100.0%	黒字経営を維持する。
職員給与費対医業収益比率		45.8%	55.0%	人材確保等による給与増 公会計制度の変更の影響
病床利用率	計(332床)	78.0%	84.3%	1日当たりの入院患者数 280人を目標とする。
	一般(330床)	78.5%	84.8%	
患者1人1日 当たり診療収入	入院	43,804円	42,624円	H24年度実績から5%増加とする。
	外来	11,564円	11,350円	H24年度実績から5%増加とする。
平均在院日数		16.4日	16.2日	新たな算出基準に基づき、H25 年度の水準から10%短縮す る。
材料費対医業収益比率		24.7%	24.5%	H24年度実績から5%低下させる。
後発医薬品採用率		67.7%	60.0%	厚生労働省が目指す数量ベ ース60%以上とする。
紹介率		39.3%	40.0%※	地域医療支援病院の承認を目 指す。
逆紹介率		47.5%	60.0%※	
外来入院患者比率		179.4%	172.5%	平成24年度水準以下とする。

※ 診療報酬改正により基準が変更となったが、地域医療支援病院の承認を得られる水準を目指すものとする。

## 中期経営計画点検・評価委員会の開催状況（平成27年度）

### ・第8回点検・評価委員会

日時：平成28年2月4日（木）午後1時30分～午後2時40分

（概要）

平成26年度の経営状況について、経常収支比率100%を達成し、平成22年度から6年連続で黒字経営を継続できたこと、医療の質に関する取組や地方公営企業法全部適用移行に関する進捗状況を説明した。

病床利用率が24年度をピークに減少に転じている点について、稼働率を上げる方策を検討すべきとの意見を頂いた。

地域包括ケア病棟の運営について、27年10月から2病棟（71床）体制にしたことは、地域医療構想で示されている急性期病床と回復期病床の配分に合致した対応であることを説明した。

平成28年度診療報酬改定では、重症度、医療・看護必要度の定義変更と重症率の割合が24%以上に引き上げられる見込みに対応するための取組について説明した。

# 市立敦賀病院の患者権利章典

患者さんは、人間としての尊厳を有しながら医療を受ける権利を持っています。また、医療は患者さんと医療従事者との互いの信頼関係の上に成り立つものであり、患者さんに主体的に参加していただくことが必要です。

当院では、このような考え方にに基づき、ここに「市立敦賀病院の患者権利章典」を制定します。

## 患者さんの権利

### 1 良質な医療を公平に受ける権利

社会的な地位、信条、障害の有無などに関わらず、良質な医療を公平に受ける権利があります。

### 2 個人の人格が尊重される権利

個人の人格、価値観などが尊重され、医療従事者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。

### 3 個人の情報やプライバシーが守られる権利

診療に関する個人情報やプライバシーは厳正に保護される権利があります。

### 4 病気、検査、薬、治療方法などについて、十分な説明、情報提供を受ける権利

自分が受ける治療や検査の効果や危険性、薬の効果や副作用、他の治療方法の有無などについて、理解できるまで十分な説明を受ける権利があります。

### 5 治療方法などを自らの意思で選択する権利

十分な説明、情報提供を受けた上で、自分の治療計画を立てる過程に参加し、治療法などを自らの意思で選択する権利があります。その際、別の医療機関の意見（セカンド・オピニオン）を聞きたいというご希望も尊重します。

### 6 自分が受けている医療について知る権利

自分が受けている医療について不明なことがあれば、医療従事者に質問することができ、自分の診療記録の開示を求める権利があります。

## 患者さんにしていただきたいこと

### 7 医療に関する説明に対し、十分理解できるまで質問してください。

納得できる医療を受けるために、医療に関する説明を受けてもよく理解できなかったことについては、十分理解できるまで質問してください。

### 8 自身の健康に関する情報を正確に提供してください。

良質な医療を実現するために、医療従事者に対し、患者さん自身の健康に関する情報（家族歴、既往歴、アレルギーの有無など）をできるだけ正確に提供してください。

### 9 必要な治療や検査などに意欲的に取り組んでください。

治療効果の向上のために、医療従事者とともに病気を治していくという姿勢で、必要な治療や検査などに意欲的に取り組んでください。

### 10 他の患者さんが適切な治療を受けられるように配慮してください。

患者さんは通常の世界生活にはない制約を受けざるを得ない場合もあります。病院の規則などを守り、他の患者さんの治療や病院職員による業務などに支障を与えないよう配慮してください。

## 市立敦賀病院 職業倫理規程

医学及び医療は、病める人の治療はもとより人々の健康の維持・増進を図るものであり、すべての職員が病院理念及び基本方針に基づき、意欲と誇りをもってその使命を果たすことを目的として、次のとおり職業倫理に関する規程を定める。

- 1 職員は、質の高い医療の提供を目指し、知識と技術の習得に努めます。
- 2 職員は、患者さんの人権及び人格を尊重し、良心をもって医療を提供します。
- 3 職員は、互いの尊敬と理解のもと、協力して医療を提供します。
- 4 職員は、公務員としての責任を自覚し、医療の公共性を重んじ、医療を通じ社会の発展に貢献するとともに、法規範の遵守及び法秩序の形成に努めます。
- 5 職員は、より質の高い医療の提供のため、自己の心身健康の保持増進に努めます。

## 医療事故防止のための8カ条

- 第1条 医療従事者は、医療事故はいつでも起こりうるものであるという「危機意識」を常に持ち業務にあたる。
- 第2条 患者さん最優先の医療を徹底し、患者さん本位の医療を実践する。
- 第3条 業務にあたっては基本的事項の遵守と確認、再確認を徹底する。
- 第4条 患者さんとのコミュニケーションには十分配慮し、患者さんや家族への説明は、その内容が十分理解されるよう心がける。
- 第5条 診療に関する諸記録は正確かつ丁寧に記載するとともに、相互チェックを実施する。
- 第6条 自己の健康管理には十分留意し、万全の体制で業務にあたる。
- 第7条 職員の具体的、実践的な教育・研修を実施する。
- 第8条 病院管理者、所属長が率先して医療事故防止に対する意識改革を実践する。



病院年報編集委員会

編集委員長 米島 學

編集委員 山崎 洋 上田 裕朗

北野 義美 中 禎子

木津 良智 吉岡 昌則

谷元 亮友

市立敦賀病院年報（平成27年度）

平成29年3月1日発行

編集 病院年報編集委員会

発行 市立敦賀病院

〒914-8502 福井県敦賀市三島町1-6-60

TEL (0770) 22-3611 FAX (0770) 22-6702

